

事項九 臨城事件

四七八 五月八日（着）在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

津浦線臨城駅付近ニ於ケル急行列車ノ脱線及

ビ馬賊ニヨル外国人乗客ノ拉致等報告ノ件

第四二九号

浦口発天津行急行列車六日午前二時臨城駅附近ニテ脱線シ乗客中外国人モアリシカ馬賊ニ拉致セラレ或ハ他ニ避難セリ目下交通部ヨリ調査中ニ付外国人乗客（国籍ハ分明セス）等ハ収容次第天津ニ送致スヘキ旨当日午後外交部ヨリ首席公使ニ口頭通知アリタル趣ヲ以テ外交団回章アリタリ尚英國公使ハ濟南同國領事電報ニ依レハ拉致セラレタル外人二十八名又殺害セラレタル外人一名トハ英國人ナラムトノコトナリト語レリ

（奉天中継五月八日午前一〇、〇〇）

四七九 五月九日（発）在濟南藤井總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

土匪襲撃事件ニ付キ米國領事ヨリ聞知ノ状況

申進ノ件

第三五号

津浦線土匪襲撃事件ニ関シ其ノ後米國領事ヨリ聞知セル所ニ拠レバ當時一等客中、外国人二十五名アリ拉致ヲ免レタル者及ビ其ノ後放還セラレタル者ヲ除キ目下捕ヘラレ居ル者十四名全部男子（内子供一名）ニシテ婦人四名ハ一旦拉致セラレタルモ全部放還セラレタリ十四名中八名米國人他ハ多ク英國人ノ如シ、日本人一名モ無シ

放還セラレタル婦人中二名ノ米國及ビ一名ノ伊國人ハ当地齊魯大學附屬病院ニアリ右米婦人中ノ一名ハ「オジョニ」、ロックフェラー、ジュニア」夫人ノ妹ニテ前米國上院議員「アル德里ック」氏ノ娘ナリ拉致セラレタル婦人ハ夜中ノ事ナレハ寢衣ノ儘跣足ニテ十数里ヲ飲マズ食ハズニテ歩行セシメラレタル為メ釈放セラレタル後ニ於テモ困憊ノ極ニ達シ七日当地ニテ下車セル際ノ如キ米國領事ガ支ヘテ辛フジテ自働車ニ移シ乗セ病院ヘ送りタル如キ有様ナリ目下捕ヘラレ居ル米國人ヨリ米國領事宛ノ通信ニ依レバ土

匪ハ初メ各人ニ対シ一年分ノ給料ヲ償金トシテ支払方命令シタルモノノ如シ然レ共其ノ後官兵ノ追撃急ナルヲ以テ今日中ニ何等ノ償金無ク放還セラレベキ形勢ナリト、尚ホ携帯荷物ハ勿論全部掠奪セラレ前記「アル德里ック」氏ノ娘ノ如キハ多数ノ宝石類多額ノ信用狀ノ（脱如キヲ悉ク奪ハレタル趣ナリ

前電土匪首魁ヨリノ信書モ事実ナリ

北京、天津、上海、南京、青島ニ転電セリ

四八〇 五月十日（着）在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

臨城土匪事件ニ関シ外交団会議開催ノ件

第四三九号

往電第四二九号ニ関シ

八日外交団會議ヲ開キ首席公使ヨリ不取敢七日午後國務總理ニ面会速ニ拉致外人釈放ヲ要求シタル旨報告アリ善後策ニ関シ協議シ若シ三日以内ニ外人全部ノ釈放ヲ見サルニ於テハ爾後一日毎ニ賠償ヲ要求スヘク事件調査ニ付テハ關係國領事官ヲ立会セシムルコトヲ要求スルコトニ意見一致シ

九 臨城事件 四八〇 四八一

タルカ英國公使ハ津浦鐵道收入ヲ以テ線路ノ警備ヲ完全ニスル必要ヲ主張シタル外此際外人運輸主任及會計主任ヲ入ルルコトヲ必要トスト述ヘ以テ借款契約ノ欠陥ヲ補ハントシタルモ議題トナラサリシ

天津、上海、南京、濟南ニ転電セリ

（奉天經由、五月十日前七、三〇）

四八一 五月十日（発）在天津吉田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

遭難外人ノ到着並ニ米英ノ对中国態度ノ硬化

ニ付申進ノ件

第七九号

往電第七七号津浦線被害事件ニ関シ八日来遭難外人引続キ到着シ実況ノ詳ニナルト共ニ在留外人ハ未曾有ナル意外ノ事件突発シタルニ驚キ匪賊暴行ニ対スル憤懣ハ今更ニ支那事態ノ絶望ノニ無政府状態ニ向ヒ進展シツツアルヲ痛感セシメ而シテ斯ル事態ノ發生ハ畢竟支那國民民心増長ノ結果ニシテ米人ノ対支態度カ爰ニ至ラシムルニ与ッテ力アルヘク拘禁外人ノ多数ガ米人ナルハ特ニ英人ノ間ニ激昂ノ内ニ

四六三

モ一種ノ皮肉ヲ感ゼルモノノ如シ拘禁外人ノ救援ハ当面ノ急務ナル処出兵或ハ浦口ノ軍艦封鎖又ハ特急車ニ外国兵搭乘等種々論ズルモノアルモ支那官憲ヲ窮追スル以外何等別策ナク仏、伊、米各国領事ハ上海若クハ当地ヨリ館員ヲ遭難地ニ急派シ米國公使ハ自ラ濟南ニ在リテ本件実査ニ努メ居ルモノノ如シ当地各国商業會議所並英國從軍者協會等各種団体ハ続々會合シ外交團若クハ所屬公使ハ支那政府ニ對シ嚴重抗議要求ノ決議ヲナシツツアリ本件ノ為當地排日団体モ声ヲ密メ市中ニ掲揚セル白旗モ八日以来撤シツツアリ本件ノ内外ニ及ボス影響甚大ナルベキハ予想ニ難カラズ各國共ニ到底今日ノ儘ニ放置スベカラズト為スニ於テ一致痛感ノ結果華府會議決定ノ對支調查會ハ變ジテ支那内政處理ノ極東會議トナルニ至ルナキ乎本件今後ノ進展ハ頗ル注意ヲ要スベク序ナガラ「ウッド(不明)著」『プレセント、ステイト、ラヴ、チャイナ』ハ実情ヲ尽セリト存ジ三十部送付セリ在支公使、上海、濟南へ転電セリ

四八二 五月十日(發)

在南京林出領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

拉致サレタル外人、中国人ノ救出ニ関スル土

中ニハ全部救ヒ出シ得ル見込ナリ土匪ハ解隊兵ニアラス純粹ノ土匪ニシテ其ノ数千七百ニ達スル見込ニシテ当地督軍ヨリハ歩兵一團ヲ派シ山東督軍ノ承諾ヲ得先ツ山東省内ニ入ラシメ後山東督軍ノ承諾ヲ得タル次第ニシテ兎ニ角土匪ノ要求全部ヲ容レ人質ヲ救ヒ出シタル後之ヲ撃破掃滅スル覚悟ナリ尚取調ノ結果乗客中日本人一人モ居ラサリキ云々
北京、濟南、上海、天津ニ転電セリ

四八三 五月十一日(發)

内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

臨城事件ニ對スル關係列國及ビ中國側ノ態度

注視方並ビニ措置振リニ付訓令ノ件

第二九二号

臨城ニ於ケル土匪事件ハ近來稀有ノ不祥事件ナルカ今日迄ノ処幸ニ日本人ハ其ノ災厄ニ罹リタルモノナキ模様ニテ從テ日本トシテハ支那政府ニ對シ自然他國トハ立場ヲ異ニスル次第ナルカ欧米人カ斯ク多數遭難セル為メ各国共甚タ興奮シ居レル模様ニモアリ日本トシテモ此ノ形勢ト人道上ノ見地トニ顧ミ他關係國ノ交渉ニ對シテハ同情的態度ニ出テ

匪トノ交渉ニ付齊督軍ノ内話報告ノ件

第三〇号

津浦鐵道土匪事件ニ関シ五月十日齊督軍ノ本官ニ語ル所ニ拠レハ現在土匪ノ手ニアル外人十八名支那人六十余名ニシテ齊督軍衙門ノ稽查員一名モ同時ニ捕ハレ同人外語ヲ善クスル為外人ト土匪頭目トノ通弁ノ任ニ當リシカ土匪ノ要求条件ヲ齎シテ釈放セラレタリ同人ノ報告ニ拠レハ臨城ノ東百支里許ノ山中ニ土匪ノ一味官軍ニ包圍セラレ既ニ一ヶ月以上ニ及ヒ糧食尽キテ將ニ餓死セントシツツアリ之ヲ救ハンカ為多クノ好キ人質ヲ取り官軍ノ撤退ヲ要求スルモノナリトノコトナリ依テ齊督軍ハ徐州鎮守使ト当地交渉員溫世珍ヲ派シ該稽查員ヲ案内トシテ山中ニ入ラシメ土匪ニ交渉セシムルコトトセリ溫ハ五月九日朝南京ヲ出發シタレハ両三日中ニハ土匪トノ交渉進捗スヘク齊ハ溫ニ命シ土匪ノ要求ハ如何ナル条件ナリトモ全部承諾セシメ金銀ヲ要求セハ其ノ望ニ応セシメ一日モ早ク外人其ノ他ノ人質ヲ取還サシムルコトトセリ土匪等ハ割合ニ外人ヲ優遇シツツアリ五月十日接到セル徐州鎮守使ヨリノ來電ニ拠ルモ既ニ土匪トノ間ニ外人ノ生命ヲ損セサル様了解附キタル趣ニ付三四日

可成之ヲ援助スルコト得策ト思考ス尤モ本件ハ今後或ハ今ヨリ予見シ難キ發展ヲ見ルニ至ルヤモ難計帝國政府トシテハ極メテ重大視ツツアル次第ニ付關係各國及ヒ支那側ノ態度ニ對シ不絶注視セラレ必要ニ応シ電報セラルルト同時ニ事重要ト認メラルル節ハ予メ請訓ノ上措置セラレタシ

四八四 五月十三日(着)

在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

津浦線事件ニ関スル外交部會議ニ付報告ノ件

第四四九号

(八日ノ外交部會議、釈放要求決議)
往電第四三九号ニ関シ十一日外交部會議ノ模様左ノ通

(一)同日會議前本官英公使ト會合ノ節英公使ハ「ネイザム」「ロイ、アングソン」兩名曹錕ノ依頼ニ依リ獨立ニ土匪ト直接交渉シ居ル情報アリタリ公使館ヲシテ阻止セシムル必要アリト述べタルカ會議ニ於テ首席公使ハ審査會開カレタルヲ以テ派遣領事官ニ与フヘキ訓令ニ付計リタルモ支那官憲ヲシテ外人救出ニ関スル全責任ヲ負ハシメ土匪トノ交渉ニ直接関与スルコトヲ避クルニ決シタリ參事官ヨリ前記ニ米人ノ件旅行中ノ公使ニ電報スルコト

トナレリ

(二)要求スヘキ賠償額ニ関シ英國公使ハ

(イ)物質的損害

(ロ)精神的損害

(ハ)懲罰的賠償

ヲ要求スヘシト主張シ大体之ニ決セリ

(三)首席公使カ英公使ノ差金ナルヘキ天津浦線ヲ外人管理ノ

下ニ置クコト如何ト述ヘシモ各公使共所見ヲ明ニセス尚

會議前ノ前記會合ニテモ英公使ハ前電運輸會計主任ノ件

ヲ再說シタルモ仏公使本官トモ何等言明セス

天津、濟南、上海、南京へ暗送セリ

四八五 五月十四日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

各國警乗兵ニヨル天津浦線ノ警備ニ関シ仏国公

使ノ内話報告ノ件

第四五三号

往電第四四九号ニ関シ

十三日仏公使内話左ノ通り

對スル深甚ノ同情ヨリ飽迄外国ト協力シ其ノ救出及将来ノ保障等ニ付努力ヲ惜マサルト共ニ日本ハ今回ノ事件ニヨリ從來ノ政策ヲ變更スルコトナキハ勿論ニテ列國ハ之カ為メ華府會議以來ノ同情アル態度ヲ捨テ峻嚴ナル措置ニ出ルコトナク支那モ亦其ノ同情ニ反省シ斯ル事變ヲ再ヒセサル様速ニ内争ヲ止メ和平統一ノ促進ヲ図ルコト肝要ナリトノ趣旨ヲ述ヘタル処東方通信ハ右前段ノ次第ヲ省略シ打電シタル模様ニテ又上海發貴官宛第八三号「ノース、チャイナ、スタンダード」ノ如キ記事ノ掲載モアリ旁々必要ニ応シ当方ノ意向ニ付各國人ニ於テ誤解ヲ懷カザル様適宜御措置アリ度シ

右上海ニ転電アリタシ

四八七 五月十六日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

津浦線ノ警備ニ関スル外交団會議ニ付報告ノ

件

第四五八号

十四日外交団會議左之通

九 臨城事件 四八七

仏人モ津浦借款權利者ナルガ支那政府ヲシテ外人釈放ニ努力セシムル為其期間ニ至ル迄北京浦口間ニ於ケル急行車ニ各國警乗兵ヲ乗セタシ英公使ハ印度兵アルノミナリトテ躊躇シ居レリ蘭国公使ハ一、学生ノ妨害二、支那ハ北段ニ對シ承諾セザルベシトノ理由ヲ以テ氣乗リセズ米公使代理ハ未ダ賛意ヲ表セズ葡国公使ハ進デ外人ノ沿線警備完了ニ至ル迄ト主張シ居レルガ本件ハ北京ニ兵備アル重ナル国ノ賛成ヲ得ル要アリ十四日ノ外交団會議ニ附議セントス

(奉天經由、五月十四日前九、二五)

四八六 五月十五日(発) 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

新聞ノ誣報ニ関シ適宜措置方訓令ノ件

第三〇一号

貴官宛上海發第八六号ニ関シ

今回土匪事件ニ對スル当方ノ意向ハ往電第二九二号ニテ御承知ノ通りニテ如此新聞記事ハ甚タ事実ヲ誣フルモノナル処過般本省係官新聞記者ト應接ニ當リ今回ノ事件ニ関シ被害者中ニ一人ノ日本人ナカリシト雖人道上ヨリ又諸國民ニ

往電第四五三号警乗兵ニ関スル仏国公使提議ニ對シ主席公使ハ態度ヲ變ジテ反對シ外国ハ此權利ナシ、此ノ措置ニ出デバ支那政府ハ将来ノ事變ニ對スル責任ヲ認メザルベシト述ベ米公使代理ハ警乗兵ニ万一ノコトアラバ泣寝入ニスルカ又ハ支那ニ宣戰セザル可ラザル懸念アリト云ヒ會議ノ大勢提案ニ賛成セズ。依テ英公使ハ外国武官ヨリ成ル委員ヲ津浦線ニ派シ支那警備狀態ヲ調査セシムルコトニシ便宜供与方支那政府ニ要求スルト共ニ委員ノ報告ヲ俟チ支那兵ノ増加其ノ他必要ノ措置ニ付要求ヲナス權利ヲ留保スル旨同政府ニ申入ルルコトヲ提議シタルニ丁抹公使ヨリハ京漢線ヲモ加フルコトヲ發議シ之ニ決定セリ我方ヨリハ林少將ト協議ノ上天津ヨリ渡大尉ヲ参加セシム

往電第四五三号内話ニ對シ本官ハ英國公使ハ津浦線ノ警備ヲ外人管理ノ下ニ置クコトヲ主張(往電第四三九号)シタル際ノ外人トハ英人ノコトト推測スルニ付仏公使ノ提議ハ英ノ欲セザル処ナルベシト同公使ニ述ベタルモ同公使ハ所見ヲ異ニシ居リシノミナラズ、主席公使ノ強硬ナル意見ノ為幾分強味ヲ感ジ居リタルニ拘ラズ會議ニ於テ同公使變節シ仏公使ハ昂奮ノ体ニテ自分ハ十五日仏兵約十名ヲ送ラン

トスト迄放言シタリ、英政府ハ嘗テ葡国政府ニ主席公使ノ
永ク北京ニ駐紮方希望シ居ル旨仏公使ニモ内話アリシ位ニ
テ從來英葡両公使ノ關係密ナルモノアリ、英公使ハ鐵道警
備ノ英人監督ヨリ聽テ英人運輸會計主任ノ任命ニ喰込ム積
ニシテ外国ノ勢力ノ津浦線ニ入ルコトヲ好マザルニ付主席
公使ヲシテ反対セシメタル疑ナキニアラズ。

(奉天經由五月十六日前三、五〇)

四八八

五月十九日(発)

林在中国日本公使館附武官ヨリ
武藤参謀次長宛(電報)

津浦線警備ニ関スル河本中佐視察報告ノ件

(五月二十二日外務省接受)

電報

五月十九日 午前四時三十分發
午後五時三十五分著

参謀次長宛

支那公使館附武官

支第三十八号

津浦線警備ニ関シ河本中佐視察報告左ノ如シ
濟南以北ハ特別警戒ヲ行ヒアラス 濟南徐州間ノ各駅ハ幾分
警戒ヲ嚴ニシ十名内外ノ巡警ヲ配置シ居ルモ駅外ノ線路殊
ニ術工物ノアル地点ト雖モ何等ノ警戒ナシ列車ニハ直接警

次長 次官スミ

四八九

五月十九日(発)

畑軍務局長ヨリ
林在中国公使館付武官宛(電報)

臨城事件ニ関スル陸軍ノ対処方針ニ付通報ノ

件

津浦鐵道事件ニ関スル件

大正十二年五月十九日午後發電

軍務局長ヨリ林少将へ電報(暗号)

極秘

軍務第三六号

津浦鐵道事件ニ関シ陸軍トシテハ帝國国防上ノ見地ヨリ支
那ヲ國際管理ニ導クカ如キ処置ハ絶対ニ之ヲ避ケ度ク從テ
津浦鐵道ヲ列國軍隊ヲ以テ保護スルカ如キコトモ亦全然希
望セサル所ナリ即チ本事件ノ処置ハ支那ヲシテ自ラ之ヲ実
行セシメ極力其目的貫徹ニ努力セシムルヲ可トセン
以上ハ現在迄ノ狀況ニ照シ国防上ノ見地ニ基キ研究シタル
結果ナリ御參考迄

戒ノ為約二十名ヲ配乗セシメ居レルモ異ナレル旧式銃ヲ使
用シ戰鬪ノ用ニ堪ヘス本事件ノ為メ集中セル軍隊ハ山東第
六混成旅團及江蘇第五混成旅團ナルモ素質極メテ不良ニシ
テ土匪討伐ノ力ナキハ勿論匪党ヲ恐ルルコト甚タシク更ニ
兵力ヲ増加スルカ多額ノ賞金ヲ与フルニアラサレハ討伐不
可能ニシテ結局匪軍ヲ招撫スル外策ナク又単ニ乘客保護ノ
為メニハ各列車ニ列國軍多クモ五、六名ニ機関銃一、二
門ヲ与フレハ匪徒ノ襲撃ヲ退クルコト確實ナリ然レトモ全
鐵道ノ保安ヲ担任スルコトハ在支列國軍ニテハ不可能ナリ
ト
被捕外人ノ釈放ハ頗ル容易ナリトノ覬覦ニテ一時緩和セラ
レタル本事件モ土匪ノ要求逐次増大シ未タ解決セス更ニ若
干時日ヲ要スルカ如ク為メニ英米兩國方面ノ輿論ハ鐵道共
同管理ニ傾キツ、アルニアラサルヤヲ思ハシム而モ若シ各
國ノ「コンミッション」派遣ノ件決定シ其報告力第一次河
本中佐報告ト同一ナランカ更ニ一時問題ヲ沸騰セシムルニ
至ルハキヲ以テ事外交ニ関スト雖軍部トシテハ既ニ御研究
ノ事ト信スルモ警備問題共同管理問題ニ對スル決定的意見
ヲ予メ講究セラル、ノ要アリト確信ス

四九〇

五月十九日(発)

在南京林出領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

津浦事件処理策ニ関シ英人税関長内話報告ノ

件

第三九号

五月十八日当地税関長「ウィルソン」ノ本官ニ語ル処ニ依
レハ津浦土匪事件ノ裏面ニハ張作霖一派ノ關係アルモノノ
如ク思ハル又北京外交団カ北京政府ニ對シ頻リニ其解決ヲ
迫リ關係各國官憲及支那大官等カ臨城ニ集リ外人救出ニ焦
慮セル如キハ土匪ヲシテ益々其態度ヲ強硬ナラシムルモノ
ニシテ策ノ得タルモノニアラス諺ニモ『料理人多キニ過グ
レバ調理美味ナラズ』ト云フコトアリ若シ又土匪ノ要求ヲ
容易ニ承認スルカ如キコトアラハ支那各地ノ土匪ヲ蜂起セ
シムル元トモナルヘク実(際)憂慮スヘキコトナリ云々右
英人一部ノ意見トシテ御參考迄

北京へ転電シ、上海、濟南へ暗送セリ

四九一

五月二十日(発)

在濟南藤井総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

松村書記生ノ臨城事件調査報告書ニ關スル件

第三七号

本官発在支公使宛電報

第一八号

往電第一四号ニ関シ

松村書記生ハ約一週間滯在ニ滞在本件取調ニ従事シタル上十九日帰済シ其報告左ノ通り

外人及支那人捕虜中本邦人ノ混入セザルハ事実ナリ

外人捕虜ハ十六名(内墨西哥婦人一名アリ)内十七日二、

三名釈放セラレタルヲ以テ猶居残レルモノ十二、三名ナリ、

支那人捕虜數ハ判明セザルモ約七十名ナリトノコトナリ

目下滯在中興公司ニハ呉交通總長、田督軍及交渉員其等

ノ隨員支那商務總會代表者並ニ外国領事(濟南英國總領事

モ該地ニ在リ)其他捕虜外人ノ關係者、新聞通信員等約三

百名滯在ス

土匪トノ交渉ハ田督軍之ニ当リ居レリ土匪要求ノ要点ハ

(一)土匪ヲ官兵ニ編入シテ一個混成旅ヲ編成スルコト

(二)官兵編入後生命ノ絶対安全ヲ保障スルヲ為一定ノ地域

ヘ駐屯セシメ土地ノ名望家ノ生命財産ヲ之ニ託スルコト

(三)目下附近ニ在ル官兵ヲ撤退セシメ夫々従前ノ駐屯地

第五一号

当地滯在中ノ「ミズーリ」州選出下院議員 Baiyer (China

Trade Act ノ提案者)ハ曩ニ桑港ヨリ今回ノ支那匪賊事

件ニ関シ大統領ニ対シ「支那カ自ラ強固ナル政府ヲ樹立

シ在留外人ノ生命財産ヲ保護シ得ルニ至ル迄列強ニ於テ支

那ノ政務ヲ監視シ又支那ヲシテ外人債務履行ヲ実行セシム

ル為國際委員會ヲ設立シ收入監督ノ任ニ膺ラシムルニ非ス

ンハ支那ノ事態ハ到底改善ノ見込ナシ支那ニハ今中央政府

無ク實權ハ軍人及匪賊ノ掌中ニアリ米國ハ支那國民及米國

民ニ対スル義務トシテ此種ノ確タル行動ヲ執ルニ躊躇スヘ

カラス云々」ノ建言ヲ電報シタルカ十八日当地商業會議所

外國貿易部年會ノ晚餐會(当地駐在各国領事知名ノ人士參

集)席上同氏ハ「自分モ嘗テ日本ノ態度ニ付僻見ヲ有シタ

ル一人ナルカ親ク日本朝野ノ有力家ニ接シタル結果東洋ノ

實情ヲ諒解スルト共ニ疑懼ノ疑念ハ全ク氷釈セラレ日本ノ

公正ナル態度ヲ觀取シタリ今回ノ匪賊中ニ日本ノ指揮者ア

リ等ノ風説アリ現ニ本日モ当市ニ於テ其説ヲ為シタル支那

人銀行家アルモ(広東ノ銀行家 Zu, Sang-Iy)無根ノ説タ

ルヲ確信ス自分ハ支那貿易法ノ首唱者ニシテ支那人ニ対シ

ニ引揚ゲシムルコト等ナリ、之ニ対シ田督軍ハ成ルベク早ク外人ノ釈放ヲ實現セシメン為全部之ヲ容認セルガ如キモ土匪ハ督軍ガ余リニ容易ニ之等ノ要求ヲ容レタルニ却テ疑ヲ挿ミ外人釈放後ノ自己ノ安全ヲ保障セシムル具体的方法ヲ考慮シ居ル結果交渉遷延シツツアルモノノ如シ

同地滯在ノ外人ハ主トシテ捕虜外人ニ対スル衣食ノ供給ニ

尽力シ支那政府顧問「アングーソン」氏ハ一方土匪ト督軍

トノ交渉ノ仲介ヲ勤メ居レリ目下ノ形勢ニ依レバ交渉ハ相

当遷延スベク急ニ外人釈放ノ望少ナシ尚督軍側ハ最近直接

交渉ノ方法ヲ転ジテ当該地方居住外國宣教師(何レモ支那

語ニ堪能)或ハ土匪頭目ノ縁者旧知等ヲ呼び寄せ交渉ノ任

ニ當ラシメツツアリ

本電大臣、天津、上海、南京ニ転電シ青島ヘ暗送セリ

(二十日)

四九二 五月二十三日(着) 在シアトル齋藤領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

バイヤー下院議員等ノ臨城事件ニ関スル日本

ノ態度稱揚振リニ付報告ノ件

深甚ノ同情ヲ有スルモノナルヲ以テ愈々此支那側ノ対日浮

言ヲ遺憾トスルモノナリ尚此機會ニ際シ米國新聞紙ノ米國

人中日本ニ対シ非友誼の態度ヲ示スモノアルハ実ニ米國自

身ノ賊ト云ハサルヲ得ス」ト語り更ニ現行対支貿易法ハ不

備ナルヲ以テ修正ヲ要スルニ付右修正案ノ次期議會通過ニ

関シ米國人一般ノ贊助ヲ懇望スト述ヘタリ

同會席上ニ於テ宛モ當市滯在中ナリシ「セール、フレーザ

ー」商會ノ「フレーザー」モ日本ノ対支態度ノ公正誠実ナ

ルヲ説キ今回ノ山東匪賊暴行ハ全ク長年給与ヲ受ケス匪徒

化シタル軍人輩ノ已ムヲ得サルニ出テタル行動ノ一ト見ル

ヘク日本ノ關係シ居レルト云フカ如キハ無理解若クハ惡意

ニ出テタル以テノ外ノ暴言ナリト語レリ

大使ヘ郵送ス

四九三 五月二十三日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

臨城事件ノ遭難外人救出ニ関スル外交団ノ動

靜報告ノ件

機密第四六七号 (五月三十日接受)

大正十二年五月二十三日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

臨城事件ニ関スル件

臨城附近ニ於ケル津浦線急行列車土匪襲撃事件ノ遭難者ノ一人タル伊国人 Musso (上海居住弁護士)ヨリ同国公使宛ニ別紙甲号写ノ通り遭難外人等ノ窮状ヲ訴ヘタル書面に到着シ事態甚タ急ヲ要スルモノト認メ五月十九日(土曜日)遭難外人所屬国公使ヨリノ請求アリ首席(葡国)公使ハ不取敢臨機ノ処置トシテ別紙乙号写ノ通り口上書ヲ作成シ同日直ニ首席公使ヨリ沈外交総長代理部務ニ手交シタル趣ニテ翌二十日(日曜日)土匪ノ要求取次ノ為メ釈放セラレタル仏国人 Berube ノ報告聴取リノ為メ遭難者所屬国公使ノ外和蘭公使及本官ノ出席セル内協議会ニ於テ首席公使ヨリ本官等ニ報告アリ此席上右仏人ハ官軍ニシテ三日以内ニ其軍隊ヲ撤退セスハ拉致外国人二名ヲ二十二日殺戮スヘシトノ土匪ヨリノ伝言ヲ披露セリ次テ二十一日(月曜日)ノ外交団會議ニ於テ更メテ各国公使全体ノ事後承諾ヲ求メ尚前記

仏国人 Berube ヨリ改メテ外人遭難者ノ現状ニ関シ説明アリ同人ノ言フ所ニ拠レハ土匪ヲ包囲シ居レル官兵ハ一部分ハ後方ニ退却セルモ山東安徽河南三省ノ土匪力連絡合同スルニ至ラムコトヲ防ク為メ要害地点ヨリハ未タ撤兵スルニ至ラス現ニ最近官兵側ヨリ発砲シテ土匪死者一名及若干ノ負傷者ヲ出シタル始末ニテ土匪ハ前述ノ通り声明シ居リ之等外人ノ生命甚タ危険ニ瀕セルヲ以テ更ニ米蘭公使ノ起草ニテ支那政府ハ其ノ声明ニ反シ官兵ヲ撤退セス本件全責任支那政府ニ在ル旨声明セル公文ヲ発スルコトニ決定致候

本信写送附先 濟南 上海

編註 別紙甲乙号見当ラズ

四九四 五月二十四日(発) 内田外務大臣ヨリ 在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

臨城事件ノ善後措置ニ関シ訓令ノ件

第三三四号 極秘

臨城ニ於ケル土匪事件善後措置ニ関シテハ不取敢往電第二九二号ヲ以テ申進シ置キタル次第アル処其後ノ形勢ヲ按スルニ事件ノ推移ニ伴ヒ關係国官民ノ興奮其ノ度ヲ加ヘ自然

他国側ヨリ各種ノ提議続出セラレ益々局面ノ紛糾ヲ加フルノ虞ナシトセサル処其ノ間ニ処スル我方ノ態度ハ頗ル機微ノ考慮ヲ要スルモノアルニ付テハ左記ノ趣旨御含置ノ上關係国ノ態度等ニ関シテハ此上共篤ト御留意ノ上重要ト認メラルル場合ニハ請訓相成諸事遺憾ナキヲ期スル様御配慮アリタシ

一、本件善後措置ヲ考究スルニ当リ自然考慮ニ上ルハ(一)被害ニ対スル賠償謝罪等(二)将来ノ保障(三)鐵道交通ノ安全(四)鐵道通過地方ノ治安維持等ナル処前記(一)ノ内賠償謝罪ノ如キハ現実ノ被害ナキ我方ニ於テ其ノ要求ニ加ハラサルヘキハ勿論ナルカ支那側ニ対スル交渉ニ際シテハ往電第二九二号ノ趣旨ニ基キ之ヲ援助スルコト可然又(二)ニ就テハ我方ニ於テ他關係国ト当然対等ノ地位ニ於テ単ニ本件善後策ノ協議ニ参加スルニ止マラス他外国ト全然均等ノ発言權ヲ有スルコト必要且当然ナリ尤モ問題ニ拠テハ我方ヨリ「イニシアチーブ」ヲ採ルコトハ不得策ナルコトアルヘク其辺機微ノ考慮ヲ要スヘシ

二、将来ノ保障ハ實際上頗ル困難ナル問題ニシテ地方ノ治安維持ニシテ完全ニ行ハルルニ於テハ自然鐵道交通ノ安

全モ確保セラルヘキ次第ナルモ地方ノ治安維持ノ問題ハ政治的重大ノ意義ヲモ有スルヲ以テ此際迅速ナル解決ヲ期シ難カルヘク結局先以テ鐵道交通ノ安全ノ為メ当面ノ弁法ヲ講究スルコトトナルヘキカト思料セラルル処之カ具体的方法ハ今後ノ調査ニ待ツコトトスヘキモ差向ノ考ニテハ支那警乗兵ヲ同乗セシメ又次第ニ拠リテハ機關銃ヲ据付クルコト尤モ右警乗兵ハ素質良好ニシテ外国教習ノ訓練ヲ經タル者ヨリ選出セシムルコトトシ且之カ監督ノ為外国將校ヨリ委員ヲ派出乗車セシムルコト或ハ有力ナル鐵道巡警隊ノ組織ヲ実行セシムルコト而シテ之カ教習ノ為外国人教官若干ヲ招聘セシムルコト等ノ程度以内ニテ解決スルコト然ルヘキカト存セラルルモ右ハ今後ノ情勢如何ニヨリ尚研究ヲ要スヘク一応貴官限りノ御含迄申進ス尚此点ニツキ貴見アラハ具申アリタシ

三、捕虜外人ニシテ近々解放セラルルニ於テハ本件善後措置ハ大体前記(一)及ヒ(二)ノ程度以内ニテ纏マルベキモ解放ニシテ近キ将来ニ見込ナキ場合ニハ他ノ關係国ヨリ或ハ特ニ國際會議ヲ召集スルカ又ハ在支代表者ノ会商ニ拠リ(一)及(二)ノ程度以上ニ討議スルコトトナルヤモ計リ難シ只

此機會ニ乗シテ一二特定國ニ於テ該地方若ハ津浦線ニ對シ特殊ノ利權勢力ヲ扶殖セムトスルカ如キ底意アル提言ニ對シテハ斷シテ之ニ承服スルコトヲ得ス從テ貴電第四五八号末段英國公使ノ魂胆ニシテ果シテ事實ナリトセハ頗ル注目ヲ要スル儀ト思考セラルルニ付其辺特ニ御留意アリタシ（津浦鐵道借款契約ハ御承知ノ通り鐵道及其收入ヲ担保トセス又運輸會計兩主任傭聘ニ關スル條項モナク只歐洲人技師長任用ノ一項アルノミニテ債權國ノ權利關係比較的強カラス而シテ右技師長問題ニ關シ大正八年中日英支ノ間ニ談合ノ次第アリタルハ同年往電第五六号以下關係往復電報ノ通ナリ）

四九五 五月二十五日（着）在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

外人救出ニ關スル外交團會議ニ於ケル各國公使ノ發言等報告ノ件

第四八〇号

二十三日臨城事件外交團會議アリ各公使ノ意見見左ノ通
首席公使、交通總長二十二日来訪アリ閣議ハ從來ノ方法ヲ

止メテ兵力ヲ用ユルコトトセリト語リタリ
英、同總長ノ意見ニ依レハ支那ハ撤兵ノ意ナシ元來我々ハ同政府ニ外人生命ノ安全ヲ強要シテ官兵ノ撤退ヲ要求セリ土匪ハ同政府ニ對スル我庄迫ヲ知レルニ付撤兵ナクハ談判ナシト云ヘルモ撤兵ノ曉外人ヲ釈放セサルハシ
英、支那政府ニ彼此方法ヲ言ハスシテ外人釈放ヲ迫ルヲ可トセム

英、支那政府ノ諾スヘキ條件相当ノモノナラハ外交團ハ之ヲ土匪ニ伝ヘ保障ヲ与フルコトトセムカ
首席公使、居留地ニアル財産沒収ヲ脅迫シテ曹錕ヲ責メハ成效セム

米、一方ヲ他方ニ對シ保障スルコト難シ依テ條件ニ干与セス支那政府ヲシテ全責任ヲ負ハシムルコト可ナラム予ノ親交アル馮玉祥來訪シテ本件初ヨリ支那人ニ委サハ政府ハ多分金ヲ与ヘテ外人釈放ヲ得タルナラムニ外交團ハ誤レリ多人數ヲ派シテ騒ギ大事ニ至ラシメタリト云ヘリ自分ハ支那政府ニ全責任ヲ負ハシメ之ヲ圧迫スルヲ可シトスト思フ

首席公使、天津軍及公使館護衛兵ノ内密増加如何

米、自分ハ第一支那政府ヲ圧迫シ、第二支那ニ於ケル外國最高陸軍將校ヲ擯莊ニ派スル說ナリ天津ノ軍隊ヲ増加スルコトニハ反對ナルモ他ニ方法無クハ増兵ノ外ナシ
英、現場ノ領事官ヲシテ非公式ニ土匪ト協議シ彼等ノ予期シ得ヘキ條件ニハ限アルコトヲ知ラシメンカ尚派遣武官ハ下級ノ者ニテモ可ナラン

米、最高武官ヲ派シテ支那人脳裡ニ深く印象セシメ度シ吉田ノ意見如何

本官、此案ニハ賛成ナルモ我軍司令官ハ米國ヨリモ先任ナルノミナラス余ハ同官ノ意見ヲ聞クノ要アリ
米、高級ナル程可ナラズヤ
討論ノ結果左ノ通り決定セリ

一、土匪ニシテ支那政府ノ提出シタル相当條件ヲ拒絕シ外人ヲ釈放セスンハ外國政府ハ其結果ニ對シ土匪ヲシテ責ニ任セシムル旨ヲ支那ノ官吏ニ秘シテ領事官ヨリ之ヲ土匪ニ通告スルト共ニ領事官カ土匪ト交渉ヲ為シ又ハ保障ヲ与フルノ權限ナキ旨ヲ土匪ニ知悉セシムル様領事官ニ訓令スルコト

二、日、英、米、仏、伊ヨリ軍情審査及報告ノ為在支軍司

令官又ハ代人ヲ擯莊ニ派スルコト（我鈴木司令官ハ病氣ナルノミナラス我方カ先任トナルハ好マシカラサルニ付上野中佐ヲ参加セシムルコトトセリ英、仏ハ佐官トシテハ公使館附海軍武官米ハ新任司令官次級少將ノ筈）
三、在支軍隊ヲ増加スヘキヤ否ヤハ右委員ノ報告ヲ俟チ協議スルコト

要スルニ各公使共外人救出ニ付定見無シ
（奉天中継五月二十五日前九、五五）

四九六 五月二十六日（発）在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

外人救出ノ為ノ措置ニ付沈外交總長代理申述ノ件

第四八四号

二十三日沈瑞麟ハ臨城事件ニ關スル外交團協議ノ模様並本官ノ意見ヲ質ネタルニ對シ本官ハ各國共適切ナル主張ナク幸ニ日本人ノ遭難者ナキモ捕虜外人ニハ同情ノ外ナク支那政府ノ面目ヲ傷クルニ至ラスシテ公正解決ヲ欲セルニ付同政府力速ニ外人ヲ救出スルヲ急務トスト答ヘタルニ沈ハ外

交団ノ要求ニ依リ官軍ノ包囲ヲ解キタルニ土匪ハ益々附ケ上リ外人釈放ノ目的ヲ達セサルノミナラス却テ土匪ノ勢力ヲ増シタルニ付今後ハ矢張り外交団ハ政府ニ責任ヲ問ヒ政府ハ後方官憲ニ責任ヲ以テ至急措置セシムルヲ上策トス交通總長帰来シ田中玉モ来タリ商議ノ結果地方官憲ヲ督勵シテ措置スルコトニ決セリト述ヘタリ

(奉天經由 二十六日 後〇、二五)

四九七 五月二十七日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ノ対土匪方針並ビニ臨城派遣ノ同政
府外交部員ノ復命書ニ付報告ノ件

第四九二号

支那政府ノ対土匪方針ハ兵力ニ依ルコトトナレル次第ハ往電第四二〇号所報ノ通ナル処右ノ如キ方針ニ依ルトキハ外人ノ生命ニ危険ナカルヘキヤトハ一般ニ懸念サル所ナリシガ二十五日交通總長ノ西田ニ語リタル所ニ拠レハ表面右ノ如キ方針ヲ執ルモ實際ハ軍隊ヲ以テ土匪ヲ遠巻キニシテ外部トノ連絡ヲ断ツト共ニ他方地方紳士ヲシテ土匪ト交

渉セシメ外人ノ安全ナル釈放ニ努力スル考ヘナリト語リシ由ナリ尚二十五日ノ新聞紙ハ外交部ヨリ臨城ニ派遣セラレ居リタル同部員靳志カ大總統ニ宛テタル復命書ヲ發表シタルカ其ノ内ニ(一)土匪トノ交渉力不結果ニ終ハリタルハ外交団カ外人ノ生命ニ危険ノ及ハンコトヲ怖ルルノ余リ山東軍隊ニ土匪鎮圧ノ自由ヲ与ヘサリシニ依ルモノニシテ甚タ拙策ナリシコト(二)土匪ノ言ヒ分ガ無条件ニ通サルコトナラバ将来外人ノ生命財産ハ極メテ不安ノ状態ニ置カルルニ至ルヘク其ノ責任ハ当然外交団ノ負担スヘキモノナリ此際人質トナレル外人ノ生命ノ価値ト支那ニ居住スル外人全体ノ生命ノ価値トヲ比較スレバ其ノ輕重ハ自ラ明カナリト述ヘ居レリ又某方面ヨリノ情報ニ依レハ政府ハ積極の方針ニ出テタルハ曹錕呉佩孚方面ノ圧迫アリタルニ基クトノコトナリ

(奉天中継五月二十七日後〇、五)

四九八 五月二十八日(着) 在上海船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

土匪事件ニ関シ我方ノ執ルヘキ態度ニ付請訓

第四九四号

二十六日米公使トノ談話左ノ通
一、(編註)

二、臨城事件

本官ハ往電第四六二号軍艦派遣ニ不賛成ノ趣旨ヲ告ケタルニ公使ハ実ハ右派遣ノ件「ベル」ヨリ急報アリ自分之ニ反對ナルヲ以テ事態容易ナラスト思ヒ本国政府ニ電報スルト共ニ外交団議事ノ模様不明ニ付特別汽車ニテ上海ヨリ急キ還リシ次第ナルカ若シ本官ノ態度ヲ承知シ居リシナラハ急ク要ナカリシ旨語リタリ

本官ハ同情ヲ以テ直接關係国ヲ援助スヘシトノ内訓(貴電第二九二号)ヲ有スル旨内話シ(之ニ對シ公使ハ之ヲ聞クヲ愉快トスト云ヘリ)タル上本件ヲ一、当面ノ問題、二、将来ノ保障ニ分タンカ第一ニ関シ現実ノ被害ナキニ付救出方法ニ干与スルヲ躊躇スルモ其ノ他ノ点ニ付テハ所見ヲ述フルヲ辞セス軍艦派遣ノ如キ亦支那政府ニ對シ何ノ効果ナキノミナラス却テ土匪ヲ得意ガラセ兼テ一般支那人ヲ激スレハナリ

第二ニ関シテハ在留帝國臣民ノ數ニ顧ルモ日本ハ最大關係

ノ件

第一四三号

当地外国人連合商業會議所ハ臨城土匪事件ニ對スル輿論ノ強硬ナルニ鑑ミ近ク在留外国人大会ヲ開催シ決議ヲ通過セントノ計畫アリ目下各国領事ノ内意ヲ問合中ニテ右連合會議所ノ日本人會員ヲ通シ本官ノ内意ヲ確メ来リタル処首席領事(伊太利)ハ何故力之ニ反對ナリトノコトナルカ從來本件ニ関シ日本人被害無カリシ為外國側ヨリ日本冷淡ナリトノ非難モアリ又排日風潮轉換ノ意味ニ於テ賛成スル方我方ニ取り得策ナルヤニ思考セラルルモ支那側ニテハ我方ノ賛成ヲ排日宣伝ニ悪用スルノ虞無キニ非ス就テハ本件ニ對シ本官ニ於テ如何ナル態度ヲ取り然ルヘキヤ何分ノ電訓ヲ請フ

在支公使ヘ転電セリ

四九九 五月二十八日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨城ノ土匪對策ニ関シ米国公使トノ談話報告

ノ件

九 臨城事件 五〇〇

国ノ一ナレハ此ノ問題ニ対シテハ十分謂ハントス（之ニ対シ米公使ハ尤モナリト云ヘリ）警備問題ノ如キ訓令ヲ帶ハス又請訓モセサルモ卑見ニテハ根本義ハ土匪掃蕩ナリ古来有名ナル（脱）地方ノ地形ニ於テ外国軍ノ使用全然不可能ナレハ支那政府ニ全責任ヲ負ハシメ之ヲ鞭撻シテ有効ニ包囲セシメ疑ハシキ官軍ハ曹錕ニ迫リテ交代セシメ國際委員ハ時々包圍軍ノ情况ヲ視察スルコトトシ以テ鉄道線路ノ安全ヲ期シ得ヘシ警乗兵巡警隊アリ果シテ土匪ノ集團殺到セハ効少カラシテ拉致外人死亡又ハ殺害ノ場合ニモ遺憾ナカラ同様に思フト述ヘタル公使ハ自分モ既ニ本國政府ニ右ノ場合ニモ用兵ノ利ヲ疑フ旨電報シ置タリ各種団体ハ出兵ヲ要求セルモ彼等ハ事理ヲ解セサルモノナリト語レリ本官ハ外交団會議ノ模様ニ顧ミ出兵國力事件後支那ニ提出スヘキ要求カ我ニ不利ナルモノアルヘキニ顧ミ又必要ノ場合出兵ヲ諾スルコトハ別トシテ兎ニ角右私見ヲ述ヘ置クヲ便トシタル次第ナルカ此ノ件ニ付テモ心得ヘキ廉アラハ御訓示ヲ請フ

公使ハ揚子江ノ各要所ニ警備隊ヲ置クコト如何ト述ヘタルニ對シ本官ハ慎重考慮ヲ要スト答置ケリ

五〇一 六月一日（着）
在天津吉田總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

臨城事件ノ官匪交渉ニ関シ王省長ノ談話報告
ノ件

第九九号

臨城事件ノ官匪交渉ニ関シ王省長ノ談ニ依レハ初メ土匪側ハ官軍編入ヲ唯一ノ条件トシタルヲ以テ之ヲ承諾シ土匪招撫ノ前例ニ從ヒ銃器アルモノハ之ヲ官兵ニ編入シ之ナキモノハ山寨ヲ出デテ帰郷ヲ許スコトトシ一部匪ヲ解キテ脱出ヲ容易ナラシメタル処土匪ハ其ノ要求ノ余リニ容易ニ容レラレタルカ為ニ却テ其ノ要求ヲ更ニ大ニシ来リ銃器ナキモノヲモ官兵ト為スノ外多大ノ金額ヲ強請スルニ至リ手ヲ附ケ得サルニ依リ政府側ハ一時交渉ヲ中止シ（脱？）田督軍急遽晋京土匪招撫ノ策ヲ執ル以前ニ於テ先ツ威圧ヲ加フルノ必要ヲ大總統、總理ニ説キ其ノ結果飛行機其ノ他ノ武器ヲ以テ討伐ヲ開始セル処右ハ相当ノ効果ヲ収メ土匪ノ氣勢モ挫ケ昨今彼等ヨリ再ヒ交渉ヲ開始（脱）請ヒ来レルヨリ目下ハ且討チ且語ラフノ態度ニテ土匪ニ當リ他ニ捕虜救解ノ歩ヲ進メツツアリ意外ノ故障生セサル限り近ク目的ヲ達

編註 一ハ司法制度調査委員會ノ件ニ付省略ス

四七八

五〇〇 五月三十日（発）
内田外務大臣ヨリ
在上海船津總領事宛（電報）

土匪事件ニ関シ我方ノ執ルベキ態度ニ付訓令

ノ件

第八三号

貴電第一四三号ニ関シ

臨城事件ニ於テ本邦人ニ被害ナカリシト雖遭難外國人ニ對シテハ深甚ノ同情ヲ表シ之カ救出ノ為メ列國ニ協力スヘキコト勿論ナルカ本問題ハ今後如何ニ進展スヘキヤ未タ俄カニ逆睹シ難キモノアリ從テ當方ニ於テハ多大ノ注意ヲ払ヒ居ル次第ナル処御來示ノ件ハ各國側ニ於テ之ヲ実行セムトスル意嚮ヲ有シ本邦人側ニ參加ヲ勸誘シ来ルニ於テハ固ヨリ之ニ贊同方差支ナシ唯我方ヨリ余リ立入テ該計畫ヲ促進セムトスルカ如キ举措ハ考物ニ付程能キ程度ニテ行動スル方然ルベシ

参考ノ為メ貴電ト共ニ北京天津漢口広東濟南ニ転電アリ
タシ

シ得ヘク捕虜ノ安全ニ付テハ差シタル心配ナシト考ヘ居レリ
北京、濟南ヘ暗送セリ

（奉天中継六月一日前八、四五）

五〇二 六月五日（発）
在濟南藤井總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

臨城事件ノ拉致外人釈放ニ関スル聴込ミニ付
報告ノ件

第四一号

臨城事件ニ関シ其後當地支那当局ヨリノ聴込ミニ依レバ本月二日英人二名、米人一名、墨西哥人一人、支那人四名、三日支那人一名釈放セラレタリ尚南京ノ陳鎮守使六月三日土匪ノ本拠ニ赴キ官軍編入ノ件ニ関シ協議シタル結果愈々五日以内ニ編入ヲ了セバ外人全部ヲ釈放スルコトニ略交渉纏リタル趣キナリ

北京ヘ転電シ天津、青島、南京ヘ暗送セリ

五〇三 六月六日 (発) 鈴木支那駐屯軍司令官ヨリ
武藤參謀次長宛 (電報)

秦莊二出張ノ列国武官団ノ決議要旨等報告ノ

件

秘 (六月十一日外務省写接受)

電報 六月六日後五、五五発

次長宛 支那駐屯軍司令官

天電第十三号

臨城事件視察ノ為メ秦莊ニ出張セシ列国武官団ハ六月六日
歸還セリ

一、泡子谷土匪ノ數約八百乃至千ニシテ之ヲ包圍セル山東
軍ハ三混成旅兵力約四千鄭士琦之レヲ指揮ス田中玉ニハ
目下武力解決ノ意図ナク最近土匪約八百ヲ官兵ニ編入ス
ルヲ条件トシテ外人全部ノ釈放ヲ要求セリ

土匪ハ保障ニ関シ不安ヲ懷キ意見一致セサルモ和平解決
見込アルモノノ如シ

二、列国武官団ノ決議ノ要旨左ノ如シ

泡子谷包圍中ノ支那軍ノ兵力配備ハ土匪ノ内外連絡ヲ防
止スルニ適セス又津浦鐵道警備ノ為ニハ支那中央政府ノ
有力ナル軍隊ヲ使用スルヲ要ス

リニ付意見開陳ノ件

第三九二号

支那臨城事件ニ関連シ在支外国人間ニ此ノ際何トカ良好ナ
ル措置ヲ執ルニ非サレハ支那ニ於ケル外国人生命財産ノ保
護到底期待シ難シトノ感想瀰漫シ来レル次第ハ屢次及電報
置キタル处在支通信員電報並之ニ関連シテ現ハルル当国各
新聞論調其ノ他在支外人商業會議所及同シク商工団体ノ決
議等ニ明ナルノミナラス借款團北京代表者又御承知ノ如キ
意見ヲ上申シ居リ是等諸般ノ報道ニ反響シテ当国輿論モ早
晩何等カ積極手段ヲ講スルノ已ムヲ得サルコトヲ承認シ再
転シテ支那鐵道其ノ他重要事業ノ列強管理ヲ實現セント企
図セストモ限ラサル形勢ナルヤニ存セラルル処帝國政府今
日迄ノ方針ニ極力之カ發生防止ニ当ルモ四圍ノ事態如上ノ
通變転シ關係列強ノ輿論之ヲ是非ナシトスルニ一致シタル
曉帝國独リ之ニ反対セラルルモ大勢ノ赴ク所終ニ之ニ追從
セサルヲ得サルニ至ルヘク帝國カ真面目ニ支那ノ為ニ計リ
諸外国兎角ノ批評ヲ堪ヘ忍ンテ其ノ利益ノ為全力ヲ注キ居
ルニモ拘ハラズ支那官民輿近ノ行動ハ彼等覺醒ノ日果シテ
来ルヤ否ヤヲ疑ハシムルモノアリ殊ニ滿蒙ニ於ケル帝國ノ

三、決議ハ右ノ如キモ津浦鐵道警備ニ列国軍ヲ直チニ使用
ス可キ件ハ研究ヲ見ス

五〇四 六月九日 (着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

臨城事件善後措置ニ關スル外交団會議開会ノ

件

第五二二号

八日外交団會議ニ於テ臨城事件賠償処罰ニ付テハ英、仏、
米、伊、四公使 (墨国公使ハ少数ノ方可ナラムトテ辞退セ
リ) 研究スルコトナリシカ米公使ハ鐵道保護警備ハ拉致
者所屬國ノミノ問題ニアラサルニ付研究委員ヲ七名ニ増サ
ムコトヲ提議シ仏国公使ハ右四公使以外白蘭二公使及本官
ヲ推薦シ全会同意セリ

(奉天經由六月九日前一、一五)

五〇五 六月十二日 (着) 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

臨城事件ニ関連シ中国鐵道其ノ他重要事業ノ

列強管理案提唱ノ際ニ於ケル我國ノ措置振

地歩乃至措置ノ如キ前記列強管理實現ノ上ハ却テ外國ニ於
テ其ノ至当ナルヲ容認セシムルニ資スルニ至ルヘキヤトモ
思料セラル借款團將來ノ活動ニ付テ見ルモ今日ノ如ク支那
自身ノミニテ事績ヲ挙げシメントスルトモ果シテ何程ノ事
ヲ為シ得ヘキヤ疑ハシ之ヲ以テ之ヲ見ルニ關係諸國輿論ノ
趨勢ニ付テハ今ヨリ充分御留意ノ要アルヘキト共ニ前述ノ
通愈列強管理案ノ提唱セラルルニ及ンテハ (日本自ラ之ヲ
唱導スルハ考物ナルモ) 之ニ応スル措置振今ヨリ予メ御熟
考置カルル方宜シカルヘシト思考ス

在米大使ヘ転電シ在仏大使ヘ暗号ノ儘郵送セリ

五〇六 六月十三日 (着) 在英国林大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

外國管理ノ鐵道警察隊設置ニ關シ英國外務次

官ノ国会答弁報告ノ件

第三九六号

六月十一日下院ニ於ケル質問ニ答ヘテ外務次官ハ臨城事件
ノ經過ヲ略述シタル後英國政府ハ在北京同国公使ニ対シ外
國管理ノ下ニ鐵道警察隊ヲ設立スルコト右警察隊給料支払

ヲ確保スル為鉄道収入ニ関シ外国ノ監督ヲ一層嚴重ニスル
コト並之カ達成ノ為関係国公使ト協カスヘキコトヲ訓令済
ナル旨ヲ明言セリ

在米大使へ転電シ在仏大使へ郵報セリ

五〇七 六月十三日(発) 在济南藤井総領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ関スル全抑留外人釈放ノ件

第四六号

臨城土匪ニ囚レタル外人全部昨十二日午後六時釈放セラレ
タル趣ナリ

北京、天津、南京、青島へ転電セリ

五〇八 六月十四日 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

臨城事件善後措置ニ関スル第二回外交団會議

二付報告ノ件

機密第五三七号 (六月二十二日接受)

大正十二年六月十四日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

臨城事件善後措置ニ関スル件

本件ニ関シテハ本月十二日附機密第五三二号拙信ヲ以テ報
告致置候処第二回會議本日午前十一時蘭国公使館ニ於テ開
催致候

米国公使 差支アリ遅刻スヘキニ付同公使ノ来着ヲ待タス

議事ヲ進行スル様同公使ヨリ希望シ来リタルニ

付開會

蘭国公使 先達テ協議シタル上海拡張等ノ問題ヲ華府条約

ヲ援用セスシテ本問題ニ結合セシムルコト如何

(往電第四八一号及本月一日附機密第五一一号

往信)

英国公使 右困難ナルニ付問題ヲ鉄道ニ局限スルコト然ル

ヘシ

本 官 本官カ此ノ委員会ニ於テ如何ナルコトヲ言フト

モ又如何ナルコトニ同意スルトモ帝国政府ヲ拘

束セサルヘキ事ヲ言明シ置ク

蘭国公使 同意

仏国公使 自分ハ一賠償ニ警備三制裁ニ関スル支那政府宛

公文ヲ試ニ起草シ置ケリ(トテ案文ヲ回覽ニ付

シタルニ警備問題ニ関スル部分ノ最後ニ Le

corps diplomatique se réserve après étude

plus profonde de la question de remettre

au Gouvernement chinois le projet qu'il

aura adoptéノ文句アルニ対シ)

英国公使 鉄道ノ管理(Management of railways)ナル文

句ヲ挿入シ度シ

米国公使 ハ鉄道警備ノ事ニハ賛成ナルモ鉄道ノ管理ニ関シ

テハ乗気ニ非サル様ナルニ付運輸會計両主任問題提起ノ場

合ニハ同公使ヨリ何等言明アルヘシト期待シ居リシモ同公

使未タ来着セサリシニ付

本 官 自分ハ「将来ノ保障」ノ問題ニ関シテハ鉄道警

備問題以外ニ同意スルノ権限ナシ

英国公使 (不愉快ナル顔付ニテ) 本件本国政府ニ報告セ

サルヘカラス

蘭国公使 (本官ニ向ヒ) 此ノ文句(前記仏国公使案文)

ヲ日本ニ電報シテ請訓スルコト如何

本 官 本官ノ有スルモノハ鉄道警備問題以外ニ同意ス

ヘカラストノ訓令ナリ

蘭国公使 如何ニシテ警備費ヲ得ルヤ

本 官 関稅收入其他ニ付キ考慮セハ可ナラム

蘭国公使 彼ノ文句(前記仏国公使案文)ハ甚タ不明瞭ニ

付此ノ文句ニテ可ナラスヤ

本 官 本官ノ言明シタル所明瞭ニ了解セラレ居ルヘキ

ナラハ夫ニテ差支ナシ

此ノ時米国公使来會シ蘭国公使ハ同公使ニ右談話ノ要点ヲ

説明ス

米国公使 将来借款整理ノ場合ニ鉄道ニ対シ何等カ監督ヲ

為ササルヘカラスト思フ如何

本 官 右ニ対シテハ何等訓令ニ接シ居ラス

米国公使 諸君ノ云フ「サンクシヨ」ノ内ニ上海拡張等

ノ事入ルヘキヤ

英国公使 自分ハ本国政府ニ対シ臨城事件ニ依リテ多数ノ

对支懸案ヲ解決シ得ヘシト報告シタルモ同政府

ノ回電ハ其ノ意味実ニ曖昧ナリ

九 臨城事件 五〇八

米国公使ハ損害賠償要求額河南土匪事件ニ比シテ臨城事件ノ方多額ナルニ付此事米國ニテ発表セラルレハ自分ハ one set of Americans = another set ヨリモ大ナル favour ヲ与フルモノナリトテ批難セラルルヲ恐ル

仏国公使 右ハb項ノ事カ(前記拙信第五三二号)

米国公使 然リ

英国公使 先例トナリ得ヘキニ付キトテ政府ニ請訓スルコトトセハ如何

米国公使 賛成

仏国公使 他公使ノ希望ナラハ本国政府ニ電報シテ可ナルモ本国政府ハ自分ノ意見ニ任セラルルコト勿論ト確信ス

蘭国公使 次ニ米国公使起案ノ「ノート」(別紙甲号写)
(編註)
ヲ研究セム

本 官 義和團議定書附屬書第十六号ヨリモ其ノ範圍ヲ狭クスル意向ナルカ

米国公使 (本官ニ向ヒ) 前回ニ於テ貴官ヨリ注意アリシカ多忙ノ為右調査ヲ遺忘セリ

蘭国公使 右第十六号上諭ヲ持来リ朗誦セリ

米国公使 (他公使ノ質問ニ対シ) 此ノ「ノート」ハ独立

ニ支那政府ニ送ルニ非ス臨城事件ノ公文中ニ入ルル希望ナリ

前記仏国公使案文入手次第供貴覽スヘク候此段報告申進候也

追テ本日午後三時半頃ニ至リ英国公使ヨリ別紙乙号写ノ通書面送付シ越候不取敢右差進候

編註 別紙甲、乙両号省略

五〇九 六月十五日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ関スル保障要求案項ニ外人鉄道管理ヲ挿入方英国公使提議ノ件

第五四〇号

(前事件善後措置)

貴電第三三四号ニ関シ

(外交団會議)

往電第五二二号委員會ニ於テ英公使ハ臨城事件ニ関連セル将来ノ保障ニ関スル要求中ニ外人鉄道管理ヲ挿入センコトヲ提議シタルニ付本官ハ該保障問題ニ同意シ得サル旨述ヘタリ英政府ヨリ帝國政府ニ交渉アルヘシ詳細十四日発第五

九 臨城事件 五〇九 五一〇

四八四

米国公使 右上諭ノ文句ニ依リ此ノ「ノート」ヲ変更スルコト可然

仏国公使 右「ノート」中了解セサル点アリ最後ノ「パラグラフ」是ナリ自分ハ査証ヲ拒絶スルノ權利アルモ仏國ヘノ入國ヲ拒絶スル權利ナシ

米国公使 右ハ一昨年ノ兵変ニ際シ支那政府ニ外交団ヨリ送附シタル公文ノ文句ヲ襲踏シタルニ過キス

仏国公使 一体當時各國公使ハ本国政府ニ請訓シタルモノナリヤ

米国公使 此ノ点貴官ニ於テ説明シ呉ルヤ(トテ本官ニ合図ス)

本 官 一昨年ノ公文ノ件ハ個個ノ場合ニ於テ外交団カ決スヘキモノナリ是レ adjudged by the Diplomatic Body トアル所以ナリ而シテ外交団カ決定スルニハ全員一致ヲ要スルニ付一公使カ不賛成ナラハ決定ニ至ラス又一公使ハ其ノ決定ニ対シ地域其他ニ付キ隨意ニ制限ヲ付シ得ヘキ次第ナレハ日本公使館ニ於テモ當時特ニ請訓ニ及ハサリシ次第ナリ

三七号機密往信報告スミ

(奉天中継六月十五日前一〇、五五)

五一〇 六月十六日(発) 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

英国公使提議ノ外人鉄道管理ニ関スル我方
方意向ノ件

第三九三号

貴電第五四〇号ニ関シ

外国人鉄道管理ニ関スル英国公使ノ提案ニ付テハ御報告ニ接シタル上ニアラサレハ当方ノ意向ヲ定ムルコトヲ得サル次第ナルカ往電第三三四号ノ如ク此機會ニ乗シテ一二特定國ニ於テ鉄道ニ対シ特殊ノ利權勢力ヲ扶殖セムトスルカ如キ提言ニ対シテハ賛同ノ限りニアラスト雖モ真ニ諸國ニ於テ交通ノ安全ヲ図リ乃至經營ノ実績ヲ挙クルコトニ協力セムトスルコトハ其ノ仕組方法ノ如何ニ依リテハ我方ニ於テ必スシモ賛同ヲ躊躇スル次第第二ハアラス現ニ五月廿八日巴里ニ於テ鉄道經營ニ関シ借款團會議ノ決議セル事項ハ帝國政府ニ於テ既ニ承認ヲ与ヘタル次第ニテ鉄道管理ヲ名実ト

四八五

モ外国側ノ手ニ収メントスルカ如キ極論ナル提議ハ別問題トシ從來ニ比シ一層外国側ヨリ鐵道ノ經營上乃至技術上援助ヲ与ヘ乃至協力スルコトハ早晚實現ヲ見ルニ至ルベキ形勢ニシテ又其ノ仕組如何ニヨリテハ我方ニ取リテモ有利ナル局面ヲ誘致スルコトヲ得ヘシト思考セラルルニ付右ニ御含ノ上適宜御措置相成タシ尚英國公使ノ提案ハ既ニ郵送セラレタル趣ナルモ大要電報相成タシ

五一 六月十七日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国鐵道ノ外人管理問題提議ノ際ノ応答振リ

二 關スル件

第五四五号

往電第五四〇号ニ関シ
(外人鐵道管理ニ関スル英提議ノ件)

十五日委員会ニ於テ米公使帝國政府ノ意見ヲ問ヒシニ付本官ハ鐵道警備ニ就キテ議スルハ賛成ナルモ鐵道其ノモノノ管理及財政ヲ議スルハ立入り過グルモノナリトノ見解ト諒解スト述ベ置ケリ、本官ハ委員会ニ於テ一言モ津浦鐵道ヲ云々シタルコトナク又勿論貴電第三三四号特惠國ニ於テ特

海共同租界拡張、上海港拡張改良、黃浦江改修、會審衙門ノ改革ヲ制裁トシテ請求スルコトニ決セリ

十八日外交團ヘノ報告文決定ノ筈

尤委員會ニ於テノ言説及同意ハ何等帝國政府ヲ拘束セサル旨ヲ声明シ置キシニ付何等主張スヘキモノハ外交団會議ニテ為スヘキニ付御来示アリタシ

(奉天經由六月十八日前一、〇〇)

五一 六月二十日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外人ノ中国鐵道管理ニ付キ英國公使トノ談話

報告ノ件

第五五五号

貴電第三九三三号ニ関シ
(支那ニ於ケル外人鐵道管理ノ件)

英公使ハ從來同様運輸會計副主任ノ必要ヲ取調委員會ニテ力説シ公使之ニ和シタルガ十四日同會ニテ英公使ハ鐵道管理ノ字句挿入ヲ主張シタルニ付本官ハ之ニ對シ賛意ヲ表セザリシ次第ナリ本官所見ハ往電第五四五号ノ通りナルガ十八日英公使ト談話ノ際鐵道管理ニ關スル具体案ノ有無ヲ

殊利權云々ノ如キヲ告ゲタルコトナク一般問題トシテ斯ク簡單ニ述ベ置ケリ、若シ津浦線(不明)ニ於テ警備費捻出ノ為ノミノ國際的監督ニ折合ヒ来ラバ我方トシテ別ニ反對スル理由モ無カルベキニ付本官ハ外交団會議ニ於テ英國其他ヨリ提議アラバ具体案ノ提出ヲ俟ッテ政府ニ請訓スルヲ辭セザルベキ旨答ウル積ナリ

同會議ニ於テ蘭國公使ハ對日「ボイコット」鎮庄ヲ臨城事件解決案中制裁ノ一項トスルコトヲ提議シタルモ米英公使ハ賛成セズ

詳細機密第五四二号拙信ニテ報告ス
(奉天經由六月十七日前〇、一五)

五一 六月十八日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

外交団委員會ニ於テ臨城事件ニ關シ對中国制
裁事項決定ノ件

第五四七号

往電第五四五号ニ左ノ通追加ス
(十五日ノ委員會)

尚臨城事件責任者処罰以外諸國人一般ノ利益ナレハトテ上

尋ネタルニ公使ハ之ニ答ヘズ熾ニ管理ノ必要ヲ説キタルニ付本官ハ國際委員ヲシテ管理セシムル意ナルカト問ヒシニ公使ハ運輸會計副主任ヲ必要トスル旨ヲ答ヘタリ依テ本官ハ然ラバ副主任ノ職務ハ鐵道警備ノ目的以外ニ出デザルカト問ヒシニ公使ハ副主任ノ存在ハ鐵道ノ為ニモ便利ナリトテ明答ヲ避ケタリ本官ハ何レノ鐵道ニ之ヲ置ク希望カト問ヒシニ公使ハ津浦京漢武昌長沙京綏線等ナリト答ヘタリ京綏線ニ對シテハ債權額ニ拘ラズ日本國單獨又ハ米國ト協同シテ副主任ヲ置クコト便宜ナラムモ他方ニ於テ同鐵道ニ對スル支那人ノ自負心ニ顧ミ躊躇セザルベカラザル事情モアリ要スルニ英公使ニ何等具体案ナシト思ハル

(奉天中繼 六月二十日前一〇、〇〇)

五一 六月二十一日 在本邦英國代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

外國士官指揮ノ鐵道警備隊創設並ニ鐵道收入ノ外人管理擴大案ニ付日本政府ノ意向問合セ
二 關スル件

British Embassy

Tokyo.

No.77

June 21, 1923.

Monsieur le Ministre,

I have the honour to inform Your Excellency that I have received a telegram from His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs stating that the Corps Diplomatique in Peking are now considering proposals for a settlement of the recent brigandage on the Tientsin-Pukow railway, and measures for assuring the better protection of foreigners in future.

His Majesty's Government state that conditions in China appear to be deteriorating and that unless the opportunity is seized to insist upon an effective guarantee for the safety of foreigners there, the position of the latter will gradually become impossible. His Majesty's Government moreover consider it desirable that prompt action should be taken before the effect

created by the recent outrage has had time to wear off.

His Majesty's Minister at Peking has proposed the creation of a railway police force under foreign officers together with an increased foreign control of railway revenue to provide for its payment. This scheme appears to His Majesty's Government to be the one most likely to produce useful results, but difficulty in securing its acceptance by China is to be anticipated unless the Powers present a united front in the matter.

I have accordingly been instructed to request Your Excellency to be so good as to inform me of the views of the Japanese Government with regard to these proposals. His Majesty's Government earnestly trust that the Japanese Government will see its way to accord its Representative at Peking full authority to act in concert with the Corps Diplomatique in denuding such measures as the situation requires.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le

Ministre, to renew to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

H. M. Chargé d'Affaires

His Excellency

Count Y. Uchida,

Minister for Foreign Affairs.

(右和訳文)

大正十二年六月二十一日附内田外務大臣宛在本邦英国

臨時代理大使書翰訳文

以書翰致啓上候陳者北京外交団ハ最近ノ津浦線土匪襲撃事件ノ解決方法並將來ニ於ケル外国人保護確保ノ手段ニ付目下考慮中ニ有之候処支那ノ現状ハ今後益々悪化スルモノノ如ク從テ此好機ヲ捉ヘ在支外国人ノ安全ニ対スル有効ナル保障ヲ主張スルニアラズンハ其地位ハ漸次危殆ニ瀕スルニ至ルヘキヲ以テ本国政府ハ最近土匪事件ニ依リ生シタル結果カ時日ノ経過ニ依リ消滅スルニ至ラサル以前ニ於テ迅速ナル措置ヲ執ルコト可然トノ意向ニ有之候而シテ在支英国公使ハ外国士官指揮下ニ鉄道警備隊ヲ創設シ並ニ対スル經費支弁ニ備フルヲ為鉄道收入ノ外人管理ヲ拡大センコトヲ

提議シタル処右計画ハ最有益ナル効果ヲ齎スヘキモ列強ニ於テ共同ノ步調ヲ執ルニアラズンバ之ニ対シ支那ノ同意ヲ得ルコト困難ナルハ想見ニ難カラストノ趣ヲ以テ今般本国政府ヨリ此等ノ提案ニ対スル日本政府ノ意向問合セ方電訓ニ接シ候尚本国政府ハ日本政府カ其ノ北京ニ於ケル代表者ニ外交団ト協調シ事態ニ応シ必要ナル手段ヲ要求スルノ充分ナル権限ヲ賦与セラルルニ至ルヘキコトヲ深く期待致居候此段照会旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

五一五 六月二十一日 (発) 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

中国鉄道警備問題ニ関スル英国ノ提議ニ付我

方ノ協力方要請ノ件

別電

同日内田外務大臣発吉田代理公使宛電報第四〇七号
右英国側要請公文ノ大要

第四〇六号

六月二十一日在本邦英国代理大使垂細垂局長来訪本国政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ大要別電第四〇七号ノ如キ公文ヲ手

交セリ依テ不取敢局長ヨリ其私見トシテ支那ノ現状ニ顧ミ
 外人ノ生命財産保護上適當ノ措置ヲ講スルノ必要アルコ
 ト勿論ナルヲ以テ帝國政府ニ於テ英國政府提議ノ趣旨ニ賛
 同シ十分協力スヘキコト疑ナキモ該提議中(一)鐵道收入ノ管
 理トハ從來ノ例ニ依リ運輸主任及會計主任等ノ手ニテ行ハ
 ムトスル義ナラハ鐵道ノ種類ニモ依ルヘキガ主義上異存ナ
 ク又(二)鐵道警察ハ外人ヲ支那政府ノ僱聘者トシテ同政府
 ノ管理下ニ置ク義ナラハ兎ニ角若シ右警察ヲ全然獨立ノ機
 關トナス趣旨ナラハ明ニ華府條約ノ規定ニ反シ事重大ナル
 ノミナラス支那政府ヲシテ承諾セシムルコト至難ナルヘシ
 ト思ハルルカ右二点ニ對スル英國政府ノ所見如何ト質問シ
 タル処代理大使ハ(一)ハ局長見解ノ通ナルベシト思科スルモ
 (二)ノ点ハ氣付カサリシトテ先ツ直ニ北京ニ電照シ尚不明ナ
 ラハ本國政府ニ問合セ改メテ何分申出ツヘシトテ引取りタ
 リ

(別電)

右英國側要請公文ノ大要

第四〇七号

北京外交団ハ目下臨城事件解決案及將來ニ於ケル外國人保

護ノ方法ニ付テ考慮シ居ル処英國政府ハ支那ノ狀態益々惡
 化シツツアルニ顧ミ若シ此ノ機會ヲ捉ヘ外國人ノ安全ニ對
 シ有効ナル保障ヲ主張セスンハ其ノ地位ハ益々危殆ニ陥ル
 ヘク又臨城事件ノ余災アル内ニ敏速ニ措置スルノ要アリト
 思考ス

在北京英國公使ハ "creation of a railway police force
 under foreign officers together with an increased
 foreign control of railway revenue to provide for its
 payment" 云々ト提議セリ

右ハ有効ナル手段ト認メラルルニ付日本政府ニ於テ之ニ賛
 同シ在支日本公使ニ對シ斯ル措置ヲ執ル場合外交団ト協力
 スル全權ヲ与ヘラレムコトヲ望ム

五一六 六月二十二日 (着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ關スル對中國要求ニ付外交団委員

會討議ノ要点申進ノ件

第五五九号

(十五日委員會)

往電第五四七号ニ關シ

内話報告ノ件

第五六四号

二十一日公使ノ内話左ノ通

本官 英公使ノ所說解シ難シ(トテ往電第五五五号ヲ内話
 ス)

仏 津浦借款英國ノ分ニ仏ハ三分ノ一出資セリ該借款カ鉄
 道收入ヨリ払ハルヘキカ如ク其警備費ハ同收入ヨリ払ハ
 ルヘキモノナリ

本官 鐵道及收入ハ右借款ノ担保ニアラス(前記貴電ノ此
 点ハ三井無線ノ關係上米國公使ノ面前ニ於テ述ヘタルコ
 トナシ)

仏 三井無線ハ同様ナリ担保ナキニ独占權ノ必要ナシ同無
 線ハ仲裁ヲ判ニテハ法理上此点不利ナリ(仏國雲南無線
 ニ對スル予備ナルヘシ又米支無線ノ落着前仏ト此無線ニ
 付争フハ不利ニ付同公使ニ其有無ニ付テモ質問シタルコ
 トナシ)

本官 二者ヲ同視スルハ誤レリ津浦借款債權者ハ鐵道ニ對
 シ權利ナキニ三井ハ收入確保ノ為三十年ノ權利ヲ契約ニ
 テ得タルモノニシテ實際ニ於テ無電收入カ担保タル訳ナ

二十日委員會ニ於テ米公使ハ要求貫徹ノ為必要ノ場合關稅
 收入ヲ押フルコトヲ得サルヘキカト述ヘタルニ英公使ハ京
 漢線ヲ押フルモ可ナラン尤モ之ニモ諸國ノ軍隊ヲ要スヘシ
 ト述ヘシニ蘭公使ハ押フル方ヨリ云ヘバ津浦線ナラスヤト
 謂ヒ米公使ハ何レノ軍隊加入スベキカト云ヒシニ英公使ハ
 皆ナリト云ヒシモ何等決定セズ、本官何等「コミット」セズ
 警備問題ニ關シ蘭公使ハ左記ノ二案(機密第五三二号拙信
 附屬)ヲ参考ノ為支那ニ提出センカト述ヘ仏公使ハ現制度
 ニ係ルカ又ハ國際組織カ原則決定ノ要アリト云ヒ英公使ハ
 提出ノ方可ナラン而シテ總監督ヲ北京ニ置ク積リニアラサ
 ルカト云ヒシニ對シ米仏同意ス

仏公使ハ地方警察ヲシテ土匪ヲ掃蕩セシムルコト必要ナリ
 而シテ外交団ニテ常置員ヲ置ク鐵道警察及費用ニ付或ル程
 度ノ監督ヲ行ハバ可ナラント云ヒシモ何等決定セズ

二十二日外交団ヘノ報告書決定ノ予定

(奉天經由六月二十二日前七、一〇)

五一七 六月二十四日 (着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

列國ノ中國鐵道管理問題ニ關スル仏國公使ノ

り併モ無電ニ付テハ近キ将来ニ日仏結合シテ措置スルヲ要スルモノナラスヤ

仏 然り

尚同公使ハ列国カ鉄道警備ヲ管理セハ支那政府ニ責任ヲ負フノミナラス列国間ニ争起ルヘキニ付外人監督委員ヲ置クニ止ムル方可然ト語レリ

(奉天經由 六月二十四日前七、〇)

五一八 六月二十五日

在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

臨城事件ノ善後措置ニ関スル鉄道警備問題ニ

付申進ノ件

機密第五七四号

(七月五日接受)

大正十二年六月二十五日

在支那

臨時代理公使 吉田 伊三郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

臨城事件善後措置ニ関スル鉄道警備問題ノ件

本件ニ関シテハ本日往電第五七五号ヲ以テ報告致置候処本

件ハ急速解決ノ模様無之候

外国人ノ干与スル(監督管理等ノ程度論ハ別トスルモ)鉄道警察統一機關設置ニ関シテハ外交団ニ於テ大体異議ナシト認メラルルところ外交団カ此ノ機關ヲ外交団全体又ハ其選任スル委員ニテ監督スル場合ハ別トスルモ機關構成員中ノ外国人ニシテ支那ニ大ナル利害關係ヲ有スル国ノ間ニ工合善ク按配セラルルニ非サレバ将来ニ禍根ヲ貽スヘキニ付右ノ關係ナキ小国ヨリ之ヲ聘スルヲ好都合ト存候

本問題ハ本月二十九日頃英國公使上海ヨリ歸来ヲ俟テ外交団委員會ニ於テ討議セラルヘク候

此段申進候也

編註 見当ラズ

五一九 六月二十六日(着)

在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

鉄道警備問題ニ関スル我方ノ見解ニ付米国公

使ニ内話ノ件

第五七〇号

(二十二日委員會)
往電第五六五号ニ関シ

二十五日米公使ニ左ノ通り語レリ

一、鉄道警備ノ費用ハ鉄道總收入ヨリ經常費トシテ支払ハレ居ルモノナルニ相違ナク又其ノ給料不渡ヲ聞カサルニ付鉄道警備ノ目的ナラハ運輸並會計兩主任ノ必要ヲ認メス

二、諸鉄道ニ主任ヲ置クコトナラハ却テ列国間ニ面倒アルヘシ

三、列国ガ鉄道警備ニ干涉スル程其ノ責任重クナリ臨城ノ二ノ舞アラハ列国ハ其ノ責任ヲ帰セラルヘシ

四、支那ハ列国ノ鉄道干涉及主任任命ニ極力反対スルコト疑ナク外交団總掛リニテ成効セスハ列国ノ耻ナリ然ラハ列国如何ニシテ之ヲ強制セントスルヤ(之ニ対シ同公使ハ兵力使用(脱)レリト述べタリ)諸国モ同様ト思フカ帝國政府ハ右使用ヲ肯セサルヘシ依テ支那ニ対スル要求ハ最小限度ニ止メ警備ハ列国監督スルニ止ムルコト然ルヘシ

右ニ対シ米公使ハ自分モ同感ナリト答ヘタリ

五二〇 六月二十七日(発)

内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

臨城事件ニ関スル外交団委員會ノ討議ニ付通

報ノ件

第一七六号

臨城土匪事件ニ関シ北京外交団ニ於テハ日英米仏伊蘭白ノ各公使ヨリ成ル委員會ヲ組織シ六月十二日以来数次會合賠償処罰將來ノ保障問題ニ付討議中ナルカ賠償問題ハ主義上ノ問題ニ付既ニ意見ノ合致ヲ見処罰問題ハ責任者処罰以外上海共同租界擴張、上海港擴張改良、黃浦江改修、會審衙門改革ヲ制裁トシテ要求スルコトニ決シ(尤モ其後米国公使ハ國務長官ヨリ之等制裁的要求ハ臨城事件ト「ホモジニヤス」ニアラストノ電訓ニ接シタル由ナリ)將來ノ保障問題ニ付テハ主トシテ英國公使ノ主唱ニ依リ往電第一七四号ノ如キ提案討議セラレ居ル処英國公使ハ之ニ関連シ切リニ運輸會計兩主任ノ備用ヲ主張シ居ル趣ナリ尚多數ノ意向ハ之等警察隊組織及鉄道收入ノ外國管理ヲ單ニ津浦鉄道ノミナラス京綏京漢京奉滬寧鉄道ニモ及ホサントスルニアルカ如シ

米仏伊(伊ニハ往電第一七四号ト共ニ) 転電アリタシ

五二一 六月二十八日(発) 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛(電報)

鐵道警備改善ニ関スル英國公使書簡ノ語句ニ

付我方了解ノ趣旨説明方訓令ノ件

第四一九号

貴信機密第五三七号及第五三八号ニ関シ

鐵道警備改善ニ付外国側ヨリ助力スル仕組ハ往電第三三四号及第四〇六号ニテ御承知ノ通り外国人ヲ支那政府ノ傭聘者トシテ同政府ノ管理下ニ置クノ形式ヲ執ルコトト致度意向ニテ外国人側ヲシテ名実共ニ管理ニ当ラシムルカ如キ組織ハ主權問題ニ触ルルハ勿論却テ実績ヲ挙クルコト困難ナルノミナラス種々弊害ヲ伴フ虞アリト認メラルル処前記貴信英國公使書面中 Control of Foreign Officers ノ意味ハ明確ヲ欠キ当方ノ意向ヲ誤解セシムルノ懸念ナキニアラサルニ付適當ノ機会ニ於テ英國公使ニ対シ同公使ガ貴官ノ意見トシテ使用セル右語句ノ意味ハ前頭ノ趣旨ト了解スル旨ヲ説明シ置カルルコト然ルヘク又同公使書面中 Foreign

control over management and finance of railways ノ件ハ往電第四〇六号ノ通り從來ノ例規ニヨリ運輸主任及會計主任等ノ手ニヨリ行ハルル義ナラハ鐵道ノ種類ニハヨルヘキモ主義上異存ナシト認メラルル処右鐵道ノ警備及經營ニ関スル所謂 Foreign Control ノ件ニ付テハ追テ帝國政府ノ意見ヲ確定シ何分ノ儀申進スヘキモ夫迄ハ貴官限りノ意見トシテ必要ニ応シ右前頭ノ趣旨ニヨリ応酬セラレタシ

五二二 六月三十日

在米 國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛

中國問題ニ関スル「パブリック・レッチャー」

紙掲載ノ上海特電ニ付報告ノ件

公第五三五号

(八月九日接受)

大正十二年六月三十日

在米

特命全權大使 壇原 正直(印)

外務大臣伯爵

内田 康哉殿

那鐵道ノ完全ナル支配ヲ得以テ将来鐵道材料等ノ独占ヲ為サントスルニ在リト報シ居リ候右何等御参考迄ニ新聞記事切抜相添此段及御報告候也

五二三 七月一日(着)

在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

津浦鐵道ノ經營及ビ財政上ノ外人管理ニ関ス

ル英國案並ビニ米國公使ノ内話報告ノ件

第五八九号

貴電第四一九号末段運輸會計主任ニ関シテハ曩ニ諒解ニ苦シム処アリシガ貴電三三四号ニテ委細御指示ノ次第アリ惟フニ英ニシテ此ノ際津浦北線ヲ其ノ手ニ収メンカ膏ニ借款契約ノ欠陥ヲ補フニ止マラズ其対支交通政策上滬寧線ト一貫シテ政治經濟上最重要ナル上海北京間ノ交通ヲ支配シ京奉線ト共ニ北京ニ至ル南北二大通路ヲ挙ケテ英國勢力ノ下ニ置クコトナリ鐵道材料ノ供給ハ素ヨリ貨物輸送ニ於テモ將又之ヲ現事情ノ見地ヨリスルモ慎重考慮ヲ要スル重大問題タルノ外直接我國ト重大關係アル山東鐵道トノ關係ニ付キテ見ルモ同鐵道ハ日支合弁トナラサリシモ完全ナ

支那問題ニ関スル「パブリック・レッチャー」ノ
上海特電等送付ノ件

本月二十七日「パブリック・レッチャー」ハ二十六日上海特電ヲ掲載致居候処右外人中ニ干涉論盛ト為リツツアルカ特ニ英米実業団体ニ於テ然リ尤モ宣教師ノ団体ニ於テ之ニ賛同の意見ヲ表示シタルモノ無シト為シ支那商總會カ米人商業會議所ノ決議ニ反対シタル次第ヲ引キ次ニ “Inter-vention with a minimum of interference” ナル中庸ヲ得タル提議アリトテ若シ干涉ヲ必要トセハ外人ヲ保護スルト共ニ支那人ニ損害ヲ与ヘサル手段ニ出テサルヘカラス即チ一、支那人自身ノ認ムル政府樹立スル迄北京政府ノ承認ヲ撤回スルコト二、右政府ノ樹立スル迄支那関稅ノ國際管理ヲ為スコト三、陸戰隊ヲ有スル海軍力ヲ揚子江ニ派遣スルコトノ三手段アル処鐵道ノ守備ヲ必要トスルニ於テハ Muntz 將軍ヲ雇備スヘシトハ温健論者ノ提議スル所ナリ蓋シ英國若ハ日本カ支那鐵道ノ警察ヲ掌握シ遂ニハ其ノ鐵道ヲ支配スルコトヲ避ケンニハ將軍ノ如キ「スキャンディナヴィア」人其ノ他瑞西人等ノ中立國人ヲ可トスレハナリ此ノ際最モ危險ナルハ或ル國力干涉論者ノ運動ヲ利用シ支

ル支那鉄道統一ニシテ実現セサル限り大体ニ於テ我トノ關係ハ持續スベク然モ交通部当局ハ同鉄道ヲ津浦支線トシテ經營スルノ意嚮ヲ洩ラセシコトアルノミナラズ将来青島、北京直通列車運転ニ際シテモ津浦線ノ実権ガ英人ノ手ニ在ルハ不便ナル可ク更ニ膠徐、濟順線ノ敷設ニ際シテモ不便ヲ蒙ムル処少ナカラサル可ク將又英國津浦案実現セバ或ハ京漢線ヲ仏ニ京綏ヲ日米ニ分ツカ如キ結果トナリ新借款團「カウンシル」ノ統一策トハ全然反対ノ現象ヲ見ルニ至ル可ク且又之等鉄道ノ經營及財政上ノ外人管理（「インターナショナル」ノ意ニ非ズ）ガ英公使等ノ言フガ如ク単ニ少額ノ警備費捻出ノ為ノミナルニ於テハ右ハ当然鉄道經常費トシテ其総収入中ヨリ支弁セバ事足ル可ク又借款契約ノ欠陥ヲ補ハントスルノ意ナルニ於テハ右ハ關係當事国間ノ問題トシテ日本ハ英ノ利益ヲ計ル要ナキ次第ナリト説キ本官ニ於テハ貴電第三三四号ノ趣旨ヲ貫徹スルハ同電御来示ノ一般主義上ノ問題トシテノミナラス我特種利益上必要ト思料シ從テ本官ハ往電第五七〇号及同第五七三号ノ通り言明シ居ル次第ナリ

尚本件ニ関シ二十九日米公使ノ内話左ノ通

考慮アラムコトヲ切望ス

（奉天經由七月一日後一、一五）

五二四 七月一日 在本邦英國代理大使ヨリ
内田外務大臣宛

中国鉄道警備問題ニ関シ英國ノ提議ニ答スル

我方ノ協力ニ付問合せノ件

British Embassy,

No. 83 Tokyo.

Urgent and Confidential July 1st, 1923.

Monsieur le Ministre,

Your Excellency will be acquainted with the terms of the draft note drawn up by the Diplomatic Body in Peking for communication to the Chinese Government in connection with the recent brigand outrage which formed the subject of my note No. 77 of June 21. His Majesty's Minister at Peking has submitted these terms to His Majesty's Government, who

「自分ハ上海諸問題ニ関シ國務長官ノ電報（往電第五六八号）ニ対シ弁明電報ヲ發セシニ（機密第五六九号）一昨日重テ長官ヨリ來電アリ支那政府ニ対シ要求スル処ハ臨城事件ニ依リ發生シタルモノニシテ在支外國人及其旅行ノ安全ノ為必要ナルモノニ限ルヘシトノ訓令ナリ依テ自分ハ上海問題ハ二十五日已ニ同僚ニ計リテ撤回スルコトトセシ旨米政府ニ電報シ置ケリ英公使ハ運輸主任カ右中所謂必要ニ適合スルコトヲ証明セサルヘカラズ又貴説ニ依ルニ鉄道従業員カ給与ヲ受ケ居レリトノコトナレバ（往電第五七〇号）何故會計主任ヲ置ク要アリヤ各國ハ其特殊利益ヲ考ヘサルコトトシタシ又外國人ヲ採用スルコトトセバ小国ヨリトシタシ」

米公使ノ意向大体「フォーレン、コントロール」ニ反対ニシテ貴電第四〇七号外交団トノ協力ハ目下ノ形勢英國案ニ対スル反対ヲ意味スル訳ナルカ支那政府ハ津浦線ニ主任ヲ置クコトニ付英政府ノ要求ヲ絶対ニ峻拒スヘク外交団ノ支持アリトモ脅迫ニ依ルニアラサレバ成功見込ナシ

本問題ニ関スル仏公使ノ案二十七日發送済

就テハ本件帝國政府ノ方針御決定ニ際シ前記ノ諸点篤ト御

have given them their approval except as regards the demand for a settlement of the four questions connected with Shanghai. They deprecate including in the note any questions which are not relevant to the point at issue—viz. the safety of foreigners—as likely to throw doubt on the sincerity of the motives of the Powers, who might be accused of an endeavour to seize this opportunity of obtaining a settlement, favourable to themselves, of a matter not connected with the question under discussion.

With all the remaining demands put forward in the draft note His Majesty's Government are however in full agreement, and they are prepared to take vigorous measures to ensure the acceptance by the Chinese Government of these demands, which, in the view of His Majesty's Government, represent the minimum requirements for the future protection of the lives and properties of foreigners in China. The situation appears to His Majesty's Government to call

for firm action, for it is clear that the Powers cannot expose themselves to a rebuff from the Chinese Government. There appears to His Majesty's Government to be little doubt that the latter will give way long before any necessity for coercion arises, so long as the Powers agree upon a united policy which they are prepared to enforce. Unless, however, some real guarantee is exacted by the Powers, they will find themselves faced with the recurrence of similar incidents as a result of which they might be forced by the pressure of public opinion into more serious commitments than those which are now in contemplation. His Majesty's Government, realizing the danger of such a situation, are therefore prepared to take part in a naval demonstration and are also considering the possibility of taking military measures such as an increase in the garrison in North China. They are however disinclined to agree to any military occupation of the Chinese railways except as regards

sures suggested by His Majesty's Government in order to enforce these demands.

I shall hope to receive an early reply from Your Excellency giving me the view of the Imperial Japanese Government on this urgent and important matter.

I avail myself of this opportunity, Monsieur le Ministre, to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(Signed) Michael Palairt

His Excellency

Count Yasuya Uchida,

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc., etc.

(右和訳文)

以書東致啓上候陳者六月二十一日付抽束第七七号ヲ以テ申進タル最近ノ土匪暴行事件ニ関シ在北京外交團ニ於テ起草セル支那政府宛照会公文案ハ閣下ニ於テ御承知ノコトト存候処在北京英國公使ハ之ヲ本国政府ニ進達シ本国政府ハ上

the employment, as guards on the trains, of foreign soldiers, should the Diplomatic Body at Peking consider this expedient. They are also averse from stationing troops in other treaty ports. They would however, propose as an alternative measure to military occupation, to inform the Chinese Government that the Powers will be obliged to consider the question of themselves raising and paying out of Chinese sources a special Chinese railway force under the command of foreign officers, if the Chinese Government do not themselves undertake the establishment of such a force.

In communicating these views to Your Excellency I have the honour, under instructions from His Majesty's Government, to enquire whether the Imperial Japanese Government concur in the demands put forward in the draft note (with the modifications suggested above) and whether they would be prepared, in the last resort, to co-operate in the mea-

海ニ関スル四問題ノ解決要求ヲ除キ他ノ各項ニ承認ヲ与ヘ候本国政府ハ現ニ問題トナリ居ル点即チ「外国人ノ安全」ニ直接関係ナキ問題ヲ右公文文中ニ包含セシムルコトハ列強ノ動機ノ真摯ニ疑惑ヲ招キ列強カ本問題ト関係ナキ事項ニ付自己ニ都合好キ解決ヲ図ラムガ為此ノ機会ヲ利用スルモノナリトノ非難ヲ招クコトナキヲ保セサル次第ニ付不賛成ニ有之候

然レトモ本国政府ハ前記公文案記載ノ他ノ各要求ニ対シテハ全然同意ニ有之且英國政府ノ所見ニ依レバ之等要求ハ支那ニ於ケル外国人ノ生命財産ニ対スル将来ノ保護ノ為最低限度ノ必要条件ナルニ因リ支那政府ヲシテ之ヲ容レシムル為強硬ナル手段ヲ執ルコトヲ辞セサル意向ナルノミナラス列強カ支那政府ノ拒絶ヲ甘受スル能ハサルコト明瞭ナルニ顧ミ断乎タル行動ヲ必要ト思考致居候尚ホ本国政府ニ於テハ列強ニ於テ其ノ貫徹ヲ期スル一致ノ政策ヲ支持スル以上ハ何等強制ヲ加フルノ不得止ニ至ルニ先チ支那政府ニ於テ屈服スルニ至ルヘキコト疑ナキ義ト思料致居候然レトモ列強ニシテ此際真ノ保障ヲ取付クルニアラサレハ将来必然此種事件ノ再発ヲ来シ其結果ハ輿論ノ圧迫ニ依リ目下考慮中

ノモノヨリ更ニ重大ナル措置ニ出ツルノ已ムナキニ至ルヤモ測ラレズ候本國政府ハ斯ル狀態現出ノ危險ヲ慮リ海軍ヲ以テスル示威行動ニ参加スルヲ辞セサルハ勿論同時ニ北支駐屯軍増加ノ如キ陸軍ヲ以テスル行動ヲ執ルノ可能ナルヤ否ヤニ付考慮中ニ有之候尚本國政府ハ在北京外交団ニ於テ機宜ノ手段ト認ムルニ於テハ鐵道列車警乗兵トシテ外國人兵士ヲ傭聘セシムルコトニハ異存ナキモ支那鐵道ノ軍事的占領ニハ反対ニ有之又他ノ條約港ニ軍隊ヲ駐屯セシムルコトモ好マサル所ニ候乍去本國政府ハ軍事占領ニ代ル手段トシテ支那政府ニ對シ若シ支那政府ニ於テ自ラ鐵道警備隊ヲ組織セサルニ於テハ列強ハ自ラ特別ノ支那鐵道警備隊ヲ組織シ之ヲ外國人士官ノ指揮下ニ置キ支那財源ヨリ其費用ヲ支弁スルノ案ヲ考慮スルノ已ムナキニ至ルヘキ旨通告センコトヲ提議致度候

本使ハ茲ニ本國政府ノ訓令ニ依リ以上所見ヲ閣下ニ通報シ日本帝國政府ニ於テ本件公文案所載ノ各要求(前記ノ通修正ヲ加ヘ)ニ同意ナルヤ否ヤ將又最後ノ場合ニハ之等要求ヲ強制スル為本國政府ノ提議セル手段ノ遂行ニ協力セラルルノ意向アリヤ否ヤ承知致度候

一、英國政府提議海軍示威運動ノ範圍及程度如何

一、右示威運動ハ日英米三國ノ外之ニ参加スヘキ諸國アリヤ

一、支那ノ無政府狀態ノ現狀ニ顧ミ支那政府ニ於テ果シテ容易ニ在北京外交団公文案ノ如キ要求事項ヲ承諾シ得ルヤ否ヤ疑問ニテ若シ海軍示威運動ニシテ其ノ効果ヲ奏セサルカ如キ場合アラバ更ニ如何ナル手段ニ出テントスル意向ナリヤ

右米仏伊ニ転電アリタシ

編註 前掲七月一日付在本邦英國大使ヨリ内田外務大臣宛公文ノ大要ヲ電報セシモノナリ

五二六 七月三日(発) 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

第六回外交団委員會迄ニ纏リタル對中國政府

宛照会公文案ノ要点通報ノ件

第一九一号

(前編五二〇文書)
往電第一七六号ニ関シ

委員會ニ於テ引続キ協議ヲ重ネ支那政府ニ對スル照会公文

本官ハ此緊急重大ナル事件ニ對スル日本帝國政府ノ所見ニ付閣下ヨリ速ニ御回答ヲ得ンコトヲ希望致候
右申進旁々本官ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

五二五 七月三日(発) 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛(電報)

英國政府提議ノ海軍示威運動ニ関シ同國ノ意

向內探方訓令ノ件

第一八九号

(編註)
往電第一九〇号ニ関シ

七月三日本大臣ノ内命トシ在本邦英國代理大使ヲ招致シ亜細亞局長ヲシテ往電第一九一号支那政府宛外交団公文案及往電第一九〇号英國政府公文ニ関シテハ何等「コンミット」スルコトナク左記三点ニ付非公式ニ英國側ノ意向ヲ質問セシメタル所同代理大使ハ早速本國政府ニ電報シ其ノ回答ヲ求ムヘキ旨答ヘタリ尚貴官ニ於テモ至急英國外務大臣ニ面会シ貴官ノ取計トシテ非公式ニ同様ノ質問ヲ為シ其ノ応答振至急回電アリ度シ(右英國政府提議ハ米國政府ニモ申入レラレタル趣同代理大使ヨリ通知アリタリ)

案起草中ナルカ六月二十二日第六回會議迄ニ纏マリタル公文案要点左ノ通

一、賠償金

賠償金ハ(a)荷物等ノ損害(b)抑留ノ賠償(c)利得ノ機會ノ喪失及身体上ノ傷害ニ對スル賠償(d)活動能力ノ減退ニ對スル賠償(e)救助費ノ賠償ニ区分ス

尚昨年ノ河南土匪事件ニ関シ各公使館ヨリ提出シ若ハ提出スヘキ要求ヲ外交団ニ於テ支持ス

二、將來ノ保障

支那ニ於テ土匪討伐ノ為速カニ有効ナル措置ヲ執ラムコトヲ要求ス

甲、支那官憲ノ責任

土匪事件最終議定書ノ規定ニ從ヒ責任アル地方官憲ニ制裁ヲ加ヘ又場合ニ依リ付加刑罰金等ヲ要求スヘク又之等官憲ハ外國居留地ニテ保護セス

乙、鐵道保護ノ方法

從來鐵道保護ノ為支那政府ノ執レル手段頗ル不満足ナルヲ以テ之カ改革ノ必要アル處外交団ノ企圖スル改革ハ支那特別警察隊ヲ組織シ之ヲ外國人士官ノ監督ノ下

ニ置キ以テ現ニ中央政府ニ属スル鉄道線路ノ保護ヲ完
フセシムルニ在リ

三、制裁

一、山東督軍、兗州鎮守使、津浦鉄道警備隊司令及襲撃
セラレタル列車警備兵指揮官ヲ指名シ其ノ即時免職及
将来官職ニ就カシメサルコトヲ要求ス

二、上海万国居留地、上海港ノ拡張及改良、黄浦江ノ改
修並上海会審衙門ノ改革ヲ要求ス

仏伊米各大使ヘ転電アリタシ

五二七 七月三日（発）

内田外務大臣ヨリ
在米国植原大使宛（電報）

海軍示威運動及ビ鉄道警備問題ニ関スル米國

國務長官ノ所見ニ付回電方訓令ノ件

第三五五号

本省発在英大使宛第一九〇号臨城事件解決案中特ニ重要ト
認メラルル事項ニ付テハ目下折角詮議中ナル処貴官ハ至急
國務長官ニ面会シ不取敢海軍示威運動及鉄道警備運輸主任
會計主任ノ点ニ付其ノ所見ヲ叩キ結果回電相成度シ

五二八 七月四日（発）

内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛（電報）

英國政府提議ノ海軍示威運動ニ関シ英國側ノ

意向申越ノ件

別電

同日内田外務大臣発吉田代理公使宛電報第四二八号
在本邦英國代理大使公文要旨

第四二七号

往電第四一六号ニ関シ在本邦英國代理大使ヨリ更ニ七月一
日附公文ヲ以テ要領別電第四二八号ノ通申越シタルニ付亞
細亜局長ヲシテ同代理大使ニ対シ右公文ニ関シテハ何等
「コンミット」スルコトナク左記三点ニ付非公式ニ英國側
ノ意向ヲ質問セシメタル処早速本國政府ニ電報問合せヘキ
旨答ヘタリ尚在英林大使ヨリモ同大使ノ取計トシテ英國政
府ノ意向内探方同大使ニ電訓シ置キタリ

左記

(イ)英國政府提議海軍示威運動ノ範圍及程度如何
(ロ)右示威運動ハ日英米三国ノ外之ニ参加スヘキ諸國アリヤ
(ハ)支那ノ無政府状態ノ現状ニ顧ミ支那政府ニ於テ果シテ容

尚右ニ関スル帝國政府ノ所見ハ大体左ノ通ナルモ右ハ未ダ
英國政府ニ回答セサル關係上貴官限リノ御含ミトシテ右会
見ノ際可然利用セラレ差支ナシ

(一)英國政府提議海軍示威運動ノ件ハ目下無政府状態ノ支那
政局ニ顧ミ所期ノ効果ヲ挙クルコト甚タ覺束ナク行懸上
陸戰隊ノ上陸ノ如キ第二ノ手段ニ出テサルヲ得サルカ如
キ事態ニ立至ルノ虞ナキニアラス斯クテハ益々局面ノ紛
糾ヲ醸シ其ノ影響スル所頗ル重大ナルヘキヲ懸念セラル
ル処英國政府ニ於テ海軍示威運動ニ関シ如何ナル具体的
方案ヲ有シ居レルヤ不明ニ付目下非公式ニ英國政府ノ説
明ヲ求メ居レリ

(二)鉄道運輸主任及會計主任並警察隊ノ件ハ英宛往電第一七
八号英國側説明ノ趣旨通リトセバ当方ニ於テハ主義上異
議ナキ次第ナルカ外國士官ノ選配配置、運輸主任又ハ會
計主任ヲ入ルヘキ鉄道ノ種類及外國人ノ振宛ノ如キ問題
ハ実績ヲ挙クル見地ヨリ公正ノ解決ヲ図ルコト肝要ト思
考シ居レリ

英仏伊ニ転電アリタシ

易ニ在北京外交團公文案ノ如キ要求事項ヲ承諾シ得ルヤ
否ヤ疑問ニテ若シ海軍示威運動ニシテ其ノ効果ヲ奏セサ
ルカ如キ場合アラハ更ニ如何ナル手段ニ出テントスル意
向ナリヤ

(別電)

七月四日発在本邦英國代理大使公文要旨

第四二八号 別電

臨城土匪事件ニ関スル在北京外交團起草ノ支那政府宛照会
公文案中上海ニ関スル四問題ノ解決要求ハ本事件ニ直接関
係ナキニ付英國政府ハ不賛成ナルモ其ノ他ノ各要求ニ対シ
テハ全然同意ニシテ之等要求ハ支那ニ於ケル外國人ノ生命
財産ニ対スル将来ノ保護ノ為最低限度ノ必要条件ナルニ因
リ支那政府ヲシテ之ヲ容レシムル為強硬ナル手段ヲ執ルコ
トヲ辞セス英國政府ハ此ノ際海軍ヲ以テスル示威行動ニ参
加スルヲ辞セサルハ勿論同時ニ北支駐屯軍増加ノ如キ陸軍
ヲ以テスル行動ヲ執ルノ可能ナルヤ否ヤニ付考慮中ニテ又
在北京外交團ニ於テ機宜ノ手段ト認ムルニ於テハ鐵道列車
警乗兵トシテ外國人兵士ヲ傭聘セシムルコトニハ異存ナキ
モ支那鐵道ノ軍事的占領ニハ反対ニシテ又他ノ条約港ニ軍

隊ヲ駐屯セシムルコトモ好マサル所ナリ乍去本國政府ハ軍事占領ニ代ル手段トシテ支那政府ニ對シ若シ支那政府ニ於テ自ラ鐵道警備隊ヲ組織セサルニ於テハ列強ハ自ラ特別ノ支那鐵道警備隊ヲ組織シ之ヲ外國人士官ノ指揮下ニ置キ支那財源ヨリ其費用ヲ支弁スルノ案ヲ考慮スルノ已ムナキニ至ルヘキ旨通告センコトヲ提議シ度シ

就テハ日本政府ニ於テ本件公文案所載ノ各要求（前記ノ通修正ヲ加ヘ）ニ同意ナルヤ否ヤ將又最後ノ場合ニハ之等要求ヲ強制スル為英國政府ノ提議セル手段ノ遂行ニ協力セラるルノ意向アリヤ否ヤ承知致度

五二九 七月六日（發）在中國吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

臨城事件善後措置ニ關スル外交部委員會第七

回會議ニ付報告ノ件

第五九九号（至急）
（對支公文案外交部報告ノ見込期日電報ヲ
貴電第四三〇号ニ關シ）

第七回委員會ニ於テ米公使ハ警備問題ニ對スル同會大體ノ意見ナリトモ定メズバ之迄ニ纏リタル公文案ヲ外交部ニ提

出スルニ便ナラズト述べ皆之ニ異議ナク而シテ來ル九日第八回會議ヲ開ク予定ニテ當日ノ議題ハ警備ノ件ナルニ付同問題ニ關シ尤本問題ハ一回ニテ纏ルコト至難ニ付速ニ外交團付議ノ運ニ至ラザルベシ

六月二十二日機密第五三六号及夫レ以前ニ送付ノ公文案多少字句ノ修正アルベキモ右御承認アルベキカ

五三〇 七月七日（着）在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海軍示威運動問題ニ關スル英國側ノ意向ニ付報告ノ件

第四五三号
（臨城事件、對支公文案）
貴電第一八九号ニ關シ

七月五日德川ヲ極東部長ノ許ニ遣ハシ亜細亞局長對在本邦英國代理大使談話ニ關スル電報ニ接到シタルヲ以テ本使參考ノ為メ右貴電三点ニ關スル英國政府ノ意向承知シ置キタキ旨申入レシメタル所同部長ハ（一）ニ付テハ本件示威運動カ支那ヲシテ他ノ要求事項ヲ容認セシムル手段トシテ主義上採用スヘキ要アルヤ否ヲ考慮スル為メ提案シタル次第ニテ

其範圍及程度等細目ニ迄立入り考慮シ居ラス（二）ニ付テハ日英米ノ外仏國並臨城事件被害者中伊國人モ含マレ居リテ利害關係アル關係上伊國モ参加セシメ然ルヘキ腹案ニテ已ニ是等諸國ニハ開談シ居レルカイザトナリテ尚参加スヘキ國アラハ之ヲモ加フルコト毫モ差支ナカルヘシ（六日ノ「テレグラフ」ニ白ヘモ開談濟ノ旨記シアリタルニ付為念電話ニテ極東部長ニ質ネタルニ右ハ事實ニアラスト云ヘリ）（三）ニ關シ德川ヨリ本使ニ於テハ目下無政府狀態ノ支那時局ニ鑑ミ本示威運動カ所期ノ効果ヲ得ルコト覺束ナク支那人ハ之ニ對シ單ニ風馬牛相関セステウ態度ヲ執ルヤモ知レスト思考シ居ル旨米宛貴電第三五五号（一）ノ趣旨ニ從ヒ「レマー」シタルニ對シ同部長ハ斯ル考方モ成立スヘキニ付夫等ノ所說ヲ篤ト考慮スル要アルヘク果シテ真ニ示威運動ノ効果覺束ナシトセハ最初ヨリ此措置ニ訴ヘサルヲ寧ロ可トスヘク其辺篤ト御協議シタキ次第ナルカ要スルニ此際在支外人保護上何等カ斷乎タル処置ヲ執ルノ必要ニ迫ラレ居ルコトハ疑ナク問題ハ頗ル困難ナレトモ日ヲ経レハ困難ノ度ヲ増スノミト思フト答ヘ示威運動ノコトハ在支英國公使ニ於テハ相当効果アリト信スルモノノ如シト付言シタルニ付德

川ヨリ以上同部長ノ所見ハ其通在本邦英國代理大使ニ回訓セララルコトト心得然ルヘキヤト質ネタルニ部長ハ本件ハ米國政府ヘモ問合中ニ付同政府ノ意向ヲモ參酌シテ回訓スル方然ルヘキカト考ヘ居レリト答ヘタル趣德川往訪ハ閣下ヨリノ來訓ニ基クモノナリヤ実ハ在本邦英國代理大使ヨリハ何レ本使ニ於テ英國政府ト委細協議スル所アル筈ナリトノ來電アリタリト述ヘタルニ付德川ハ前述ノ通全ク本使一己ノ思付ニテ參考ノ為メ遣ハサレタルモノナル次第ヲ答ヘ置キタル趣ナリ尚序ナカラ往電第四四九号「デーリー・テレグラフ」ノ記事ハ貴電第一八九号亞細亞局長ノ談ニ關スル在本邦英國代理大使電報ニ對スル英外務省ノ印象力洩レタルモノカト想像セラレ為念申添フ

在米大使ヘ転電シ在仏大使ヘ暗送セリ

五三一 七月七日（着）在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

海軍示威運動及ビ鐵道警備問題ニ關スル米國國務長官ノ所見ニ付報告ノ件

第四二二号（臨城事件解決案）

貴電第三五五号ニ関シ往電第四一七号國務長官ニ面會ノ節ハ尚在英大使宛貴電第一九〇号及第一九一号等未着ナリシ為其ノ事情ヲ述ヘ右貴電第三五五号ニ依リ推測シ得ラルル程度ニ於テ談話ヲ交ヘタル処長官ハ北京ニ於テ協議作製中ナル対支公文案中ニハ諒解シ難キ点アリ目下問合セ中ニテ未タ的確ノ意見ヲ形作ルニ由ナキモ上海ニ関スル要求ノ如キハ本件ニ口実ヲ求メテ別個ノ利権ヲ獲得セントスル嫌アリ賛成シ難シ自分(長官)ノ見ル所ニ依レバ臨城事件解決ニハ支那政府ニ責任ヲ負ハシムルコトヲ第一要件トスルコト勿論ナルト共ニ右責任ヲ負ハシムル方法ハ徒ニ支那国民ノ排外運動ヲ挑発スルモノナラサルヲ要スベシ今日ノ支那ニハ權威アル政府ナキコト吾人ノ看過スヘカラサル所ニテ極メテ微徴ノ考慮ト「タクト」ヲ要スル点ナリト思考ス自分ハ右ノ大体方針ニ基キ北京ニ於ケル各国公使カ協議熟考ノ上最後ノ解決案ヲ提議セラレンコトヲ希望シ居リ在支米国公使トハ常ニ必要ノ接触ヲ保チ居レバ日本公使モ其在支公使ヲシテ米國同僚ト接触ヲ密ニセシメラルレバ好都合ナリト思考スト述ヘ更ニ海軍示威運動ノ如キハ考ヘ物ナリト謂ヘル点ヨリ見レバ長官ハ當時既ニ在英大使宛貴電第一

九〇号ノ英國政府申入レニ接シ居リタルモノト推測セラルルモ此点ハ右會談中確カマル機會ヲ逸シタリ要スルニ長官ハ貴電第三五五号御指摘ノ如キ各点ニ亘リ的確ノ意見ヲ述ブルノ準備ハ未ダ尽クセザリシガ如シ何レ不日更ニ會見ヲ求ムルコトトスベシ

英、仏、伊、白ヘ転電セリ

五三二 七月九日(發) 在廣東天羽總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ関スル英國提案ニ付「カントン・デーリー・ニュース」紙ノ非難論調報告ノ件

第一六三号 (七月十一日接受)

七月九日政府機關紙「カントン・デーリー・ニュース」ハ英國ノ提議ト題シテ大要左ノ論說ヲ掲載セリ
英國ハ対支政策トシテ(一)京津鐵道ノ軍事的占領、(二)外國士官監督ノ下ニ支那警備隊ノ編成、(三)支那各港ニ於ケル列國海軍ノ示威的游弋、(四)國際監督ノ下ニ行政軍事機關ノ經費ヲ支弁セムカ為ニ歳入強徴等ヲ提議セリト報セラルルカ現下支那ニ対スル干涉ハ支那ノミナラズ全世界ニ対シテ極メ

テ不幸ナル結果ヲ誘致スヘシ、日本ハ前記提議第三項ニ反对ノ意ヲ示シタルモ他ノ三項ニ対シテハ其態度不明ナリ又米國ノ態度ハ未タ明ナラサルモ米支從來ノ親善關係ニ鑑ミレバ支那ノ主權ヲ害スル前記提議ニハ恐ラク賛成スルコトナカルヘシ、案ズルニ右ノ内第一項京津鐵道ハ過去及現在トモ外國ノ警備ノ下ニ在ルガ故ニ問題トナラズ第二項ハ前年日本ノ要求セル二十一ヶ条中例ノ第五項ヨリモ更ニ苛酷ナルモノニシテ支那ハ之ヲ承認スル能ハス右所謂第五項ニ対スル支那人ノ熱狂的反对ハ今更熾マス然ルニ列國ガ更ニ同様ノ提議ヲ繰リ返シテ支那国民ヲ憤懣セシメムトスルハ愚ノ骨頂ト言フベシ

第三項モ亦全ク無用ノ提議ナリ支那国民一般ハ過般ノ不幸ナル出来事ニ対シ何等責任ナシ然レド強テ列國ニ於テ武力的示威運動ヲ為サント欲セハ保定、洛陽、北京、濟南ニ於テ之ヲ行フベシ、芝罘、上海、厦門、福州、広東等ノ人民ハ屈辱のナル列國海軍ノ示威運動ヲ受クベキ何等ノ理由アリヤ、支那人ハ從來既ニ鉄拳政策ニ服従シ之ニ飽キタリ而シテ支那ハ今ヤ列國ニ対シテ更ニ鉄拳政策ヲ加ヘントスルハ豈列國ノ名譽ナリト云フヲ得ンヤ、第四項ノ財政管理ノ

如キハ主義トシテ承認シ難ク実行上亦劣策ナリ列國ハ支那ニ対スル債權ヲ有スル範圍ニ於テ支那ノ歳出ノ監督ヲ為スコトヲ得ルモ支那歳入ノ全体ヲ監督スルガ如キハ越權ノ甚ダシキモノナリ、之ヲ要スルニ武力ヲ以テ支那ニ対シテ保護權ヲ強ントスルガ如キハ如何ニ考フルモ決シテ良好ナル結果ヲ誘致スルモノニアラズ支那人ハ由來武力ヲ嫌フ幸福ナル解決ハ支那ト列國トノ善意ナル協調ニアル而已云々
在支公使ヘ転電セリ

五三三 七月十日(着) 在米國壇原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国申入公文案ニ対スル國務省極東部長ノ
内話等申進ノ件

第四二九号

(対支公文案意見)
往電第四二二号ニ関シ七月七日佐分利ヲシテ極東部長ニ面

會貴電第三五五号御来示ノ点ニ関シ米國政府ノ意見ヲ問合サシメタル処結果左ノ通

極東部長ハ米國政府カ英大使館ノ照會ニ対シ未タ回答ヲ發セサルモ米國政府ノ回答ニ記載スヘキ事項ハ既ニ國務長官

在英大使へ転電シ仏、伊及白へ暗号ノ儘郵送セリ

五三四 七月十一日（着） 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

第八回外交団委員会ニ於ケル鉄道警備及ビ運
輸會計主任問題討議等ニ付報告ノ件

第六一四号

往電第五九九号ニ関シ

九日會議ニ於テ仏、蘭両公使ハ外国ガ警備ノ責ヲ負フヲ不
可トシ監督制ヲ望ミシカ英公使ハ外人警備会弁一名部下外
人数名ヲ中央ニ置キ之等外人外交団又ハ其命ズル委員ノ節
制ニ服シ事アル時ハ外交団ニ訴ヘ支那官憲ニ抑ヘラレザル
様シタシト述ベ又鉄道會計主任ノ必要ヲ力説セシニ対シ米
公使ハ主任ヲ一鉄道ニ限ル意カト問ヒシニ英公使ハ津浦、
京漢兩線可ナラント答ヘ仏公使ヲ顧ミ隴海ニハ如何ト云ヒ
シニ同公使ハ否呉佩孚同線路ヲ能ク守レリト答ヘタリ
警備問題何等決議ニ至ラズ英公使一案ヲ提出スヘシ本官ハ
追テ訓令ニ接スベキ旨告ゲ置キシカ来ル十六日ノ次回委員
会迄同電公文案外交団ニ報告見合セ

臣 癸在米國壇原大使宛第三五五号全文ヲ転電セシモノナ
リ

2 省略

五三五 七月十二日（癸） 内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛（電報）

臨城事件解決方ニ関スル我方ノ方針ニ付訓令
ノ件

別電 同日内田外務大臣癸在中国吉田臨時代理大使宛
第四四七号

右訓令

第四四六号

六月二十日附貴信機密第五五号臨城事件解決方ニ関シテハ出来得ル限り要求ノ範圍ヲ事件發生ニ伴フ善後措置ニ限定シ且今後斯ル不祥事ノ再発ヲ防クニ必要ト認ムル措置ヲ講スルヲ以テ主眼トスルコトト致度從テ支那政府宛公文ハ別電第四四七号ノ趣旨ニ依リ程能ク訂正スルコト然ルヘシト思考スルモ鐵道警備運輸會計主任ノ件ハ格別其他ハ事柄ノ性質ニ顧ミ飽迄強硬ナル態度ヲ以テ我主張ヲ貫徹セント

欲スル次第ニハアラサルニ付關係国公使ト出来得ル限り協

調スルノ態度ヲ以テ商議ニ莅マレ隨時其經過ヲ電報セラル

ル様致度シ尚支那政府ニ於テ外交団一致ノ要求ヲ承諾セサルカ如キ場合ニ於テ之ニ処スル方法如何ハ英國政府ヨリ現ニ海軍示威運動ノ提議モアリ極テ慎重ノ詮議ヲ要スルノミナラス今後万一系列ト共同シテ何等カ強制手段ヲ執ラサルヘカラサルノ事態ニ陥ルカ如キ場合ニハ我方ニ於テモ彈春事件其他幾多ノ懸案解決方ニ関シ考慮ヲ払フ必要アルヘキニ付其辺御含ミノ上強制問題ニ付テハ格別ノ注意ヲ払ヒ隨時請訓セラルル様致度シ

編註 省略

(別電)

右訓令

第四四七号

一、臨城事件ニ関連シ河南事件ニ関スル關係国ノ要求ヲ外交団ニ於テ支持スルコトハ徒ニ善後措置ヲ拡大スル次第ニテ問題ヲ一層複雑ナラシムル虞アリ出来得ル限り避クルコトト致度ニ付支那不安ノ情況ヲ説明スル一資料トシテ支那宛公文中適當ノ箇所ニ河南事件ヲ援用スルニ止ムルカ万已ムヲ得サレハ支那政府ハ速ニ關係国ニ対シ賠償スルコト至当ナリトノ外交団意見ヲ記載スル程度ニ止ム

ルコトト致度右ニ付テハ關係国公使ノ思惑ヲモ顧慮スル必要アルヘキニ付適當ノ時機ヲ捉ヘ程能ク御措置アリタシ

一、団匪事件ノ際ニ於ケル議定書ヲ援用スルコトハ聊カ業業敷様考ヘラルルノミナラス却テ該事件ノ記憶ヲ新ニシ内外ニ面白カラサル感想ヲ与フルカ如キコトナキヤトノ懸念ナキニ非サルモ特ニ重要ノ關係アル次第ニハアラサルニ付一般ノ狀態ニ応シ貴官ノ採量ニ一任ス

一、責任者ノ所罰ヲ要求スルニ当リ公然責任者ノ氏名ヲ指摘スルコトハ已往幾多ノ經驗ニ徴スルモ實現甚タ困難ニシテ却テ問題ヲ複雑ナラシムル虞アルニ付抽象的ニ責任者ノ所罰ヲ要求スルニ止メ公然ナラサル方法ニテ支那側ト打合セテ遂ケ其自発的の行為トシテ実行セシムルノ筋途ニ據ルコト得策ト思考ス

尚將來ノ保障即チ一般共通ノ問題ニ付テハ当方ニ於テモ關係各国ト同等ノ地位ニ立チ交渉ニ当ルコト言フ俟タスト雖モ本項ノ如キ制裁ノ要求ハ寧ロ被害關係ノ直接事項ト認メラレ本来被害關係国ニ於テ支那政府ト商議スヘキ事柄ニテ我方トシテハ協調ノ精神ヨリ之ヲ支持スルノ程

於テハ単ニ其主義ヲ支持スルモノナリトノ趣旨ニ改ムル方妥当ト思考セラルルニ付右様訂正ヲ見ル様御尽力相成タシ

五三六 七月十三日(着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

鐵道警備中央監督庁ノ議長順番制ニ関シ仏国

公使申出等申進ノ件

第六二四号

往電第六一四号ニ関シ鐵道警備中央監督庁ノ組織ニ関シ仏公使十一日申出ハ左ノ通

「小人人ハ遂ニハ何レカ大国ノ傀儡トナルモノナリ現ニ波斯憲兵隊長タル瑞典人ハ独乙ノ使願ニ任シ連合国ノ不便ヲ来タシタリ故ニ右官庁ハ委員組織トシ諸外国人順番ニテ議長トナルコトトシタシ」

貴電第四三八号ニ関シ

十二日米公使來訪本國政府ヨリ通報アリトテ

一、日本參事官ハ國務省極東局長ニ対シ日本政府ハ運輸、會計主任ニ関スル英政府ノ提議ニ同意シタルモ外国人ノ

一、鐵道警備及運輸主任會計主任ノ件ハ往電第四一六号英國代理大使申出通りノ程度ナレハ主義上同意差支ナク尤モ其ノ具体的実行方法例ヘバ外国士官ノ選任及配置、會計主任又ハ運輸主任ヲ入ルヘキ鐵道ノ種類並ニ其ノ外国人ノ振宛等ノ問題ニ関シテハ所期ノ実績ヲ挙ケ且公正ノ解決ヲ期スルコト肝要ナルノミナラス本件ハ我國ニ取リ重要ナル利害關係アル義ニ付關係国公使ノ意向等隨時電報セラルル様致タシ

一、損害賠償ノ件ハ外交団全体ノ請求トスルコト聊カ考慮ヲ要スルニ付支那政府宛公文案所載ノ主義ノ下ニ關係各国ヨリ夫々直接支那政府ニ商議ヲ為スコトトシ外交団ニ

振当等ニ付考慮ヲ要スヘキ旨語リタル趣ナルガ米國政府ハ本件ニ付「シンパセチック」ノ考アリ日英兩國已ニ其意向ナラバ米政府ハ同意スベシト思ハル、尤モ自分ハ嘗テ英公使ニ津浦線ノ會計主任等ニハ支那ニ利害關係ナキ小國例ヘバ瑞典ヨリ採用スルコトヲ勸メタルモ同公使ハ贊意ヲ表セザリシト語リタルニ對シ本官ハ主任問題ハ帝國政府ニ於テ主義上異議ナキノミニテ之ヲ入ルル鐵道及外國人割当表決定ノ上迄ハ確定的ニ同意セザルコトト解シ居レリト答ヘタル上此種鐵道ニ就テモ英國公使ノ所說（往電第五五号及同第六一四号）ヲ談シタルガ米公使ハ右主任ノ權限ハ一般主任等ト同一ナルヘキヤ否何等訓令ナシト答ヘタリ

二、國務長官ハ示威運動ハ効果ナシトテ贊成セストノコトナリ

三、同公使ハ上海諸問題ヲ支那宛公文案ヨリ削除シタルニ付何等訓令ナキモ支那政府ニ對スル制裁トシテ何カシタシ日本政府増兵如何ト云ヒシニ付本官ハ右ノ意ナカラムト想像ス日本ハ必要ノ場合速ニ派兵シ得ヘキヲ以テナリト答ヘシニ公使ハ米國天津駐屯連隊ノ内一大隊ハ馬尼刺

ニアル故之ヲ招キテ連隊ヲ充塞セハ支那人殊ニ支那政府ニ及ホス心理上ノ影響如何ト言ヒシニ付本官ハ増兵ハ米國ノ隨意ニテ支那ハ抗議シ得サルノミナラス一部支那人ハ之ヲ喜ブ位ニテ支那政府ハ何等痛痒ヲ感セサルヘキニ付制裁トシテノ増兵ハ意味ナカラムト答ヘタルニ米公使ハ右尤ナリト言ヒ乍ラ頻リニ制裁ニ付關心シ居レリ

四、警備問題ニ付テハ米公使ハ何等訓令ニ接セス（奉天經由七月十三日後〇、一〇）

五三七 七月十三日

内田外務大臣ヨリ
在本邦英國代理大使宛

臨城事件解決ニ關スル英國提案ニ對シ回答ノ

件

付記 右省議決定

亜一機密第八八号

大正十二年七月十三日

内田外務大臣

在本邦

英國代理大使宛

臨城土匪事件ニ關スル件

以書翰致啓上候陳者臨城土匪事件解決方ニ關シ六月二十一日附貴翰第七七号及七月一日附貴翰第八三号ヲ以テ貴國政府訓令ニ依リ御申越ノ趣致聞悉候

臨城土匪事件タル洵ニ近來ノ不祥事ニシテ帝國政府ハ本事件被害者ニ對シ深甚ノ同情ヲ表スルト同時ニ現在支那ニ於ケル秩序紊亂治安維持ノ弛廢ニ對シ憂慮禁スル能ハサル所ニ有之此機會ニ於テ支那政府ノ深甚ナル反省ヲ促シ在支外國人ノ安全ニ對スル有効ノ保障ヲ要求スルノ措置ヲ講スルコト極メテ緊要ト被思考候ニ付旁帝國政府ハ右目的達成ノ為貴國政府並ニ他關係諸國ト十分ノ協力ヲ辞セサル所存ニ有之候

目下北京外交團ニ於テ審議中ノ支那政府宛公文案ニ付テハ左記ノ除外及諒解ノ下ニ主義上帝國政府ニ於テモ大体異存無之候

上海ニ關スル四問題ノ如ク当面ノ問題ニ直接關係ナキ事項ヲ要求スルハ列國ノ動機ヲ疑ハシムルノ虞アルノミナラス本件自体ノ善後解決ヲ困難ナラシムルコトナキヲ保セスト思料セララルニ付帝國政府ニ於テモ貴國政府ト所

見ヲ一ニシ之ニ贊成ヲ表スルニ躊躇セサルヲ得サル次第ニ有之候

鐵道警備隊及會計主任並運輸主任ノ件ハ六月二十一日附貴翰ヲ以テ御來示ノ次第モ有之候処本問題ハ六月二十七日貴翰添付在支貴國公使說明通りノ趣旨トセバ主義トシテ帝國政府ニ於テ異議無之候得共其ノ具體的実行方法例ヘハ外國士官ノ撰択及配置、會計主任又ハ運輸主任ヲ入ルヘキ鐵道ノ種類並ニ其外國人ノ振宛等ノ問題ニ關シテハ所期ノ実績ヲ挙ケ且公正ノ解決ヲ期スル為今後必要ニ応ジ關係各國間ニ所見ヲ交換スルコトト致度意向ニ有之候

尚其他支那政府宛公文案中一二今一応考慮ヲ要スル事項ナキニアラサルモ右ハ北京ニ於テ右公文案審議ニ當リ日本公使ヨリ關係各國公使ト協議セシムルコトト可致候將又本件解決要求ニ對スル支那政府ノ態度如何ニ依リテハ目的貫徹ノ為メ何等カノ措置ヲ必要トスルコトナキヲ保セスト雖支那ノ現政局ニ顧ミ御來示ノ如キ強制手段就中海軍示威運動ノ効果並影響如何ハ尚頗ル研究考慮ヲ要スルモノアリト思考セラレ候ニ付之等強制手段ニ付テハ今後形勢ノ推移ニ応シ篤ト關係國間ニ協議ヲ遂クルコトト致度意向ニ

有之候尚在支帝国公使ニ対シテハ前頭ノ趣旨ニテ十分北京外交団ト協力スル様訓令致置候此段回答申進旁々本大臣ハ玆ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

(附記)

右省議決定

海軍示威運動ニ関スル英國政府提議ニ対スル措置方ノ件

(大体方針) 七月十三日

一、臨城事件ニ関スル外交団ノ要求ハ現下支那政局ニ顧ミ支那政府ニ於テ容易ニ同意スヘキヤ否ヤ疑問ナリ從テ之カ為英國ノ提議ニ從ヒ海軍示威運動ニ参加スルコトハ対外關係及対内關係ノ両方面ヨリ考究ヲ要スヘシ
対外關係ヨリセハ果シテ海軍示威運動ヲ実行スルモ現在ノ政局ニ顧ミ支那側力直ニ屈服スルヤ否ヤハ問題ニテ或ハ勢ヒ更ニ第二ノ強制手段ヲ必要トスルカ如キコトナルヤモ測リ難ク斯クテハ局面ハ一段ノ紛糾ヲ加フルニ至ルヘシ又第一若ハ第二ノ示威運動ニ依リ結局支那側ノ屈服ヲ見ルニ至ルトモ之カ為支那民衆ニ一種排外的思想ヲ与ヘ而モ其ノ中心力種々ノ關係ヨリ日本ニ集中シ来タル

陷ル次第ニ付右様ノ示威運動ハ之ヲ見合ハスコト得策トス

一、万一英米兩國ニ於テ将来ノ保障ハ勿論賠償問題等ヲモ含メ示威運動ヲ為スコトヲ断念セサルカ如キ場合ニハ已ムヲ得サルニ付日本ハ其ノ参加ヲ辞スルノ覺悟ヲ要ス唯排日問題其ノ他ノ情勢如何ヲ按シ日本トシテハ之ト関連シ単独ニ別個ノ措置ニ付攻究スルノ必要ヲ見ルニ至ルコトナキヲ保セサルベシ

五三八 七月十四日 (発)

内田外務大臣ヨリ
在中国吉田臨時代理公使宛 (電報)

鐵道警備ニ関スル我方ノ方針ニ付訓令ノ件

第四五四号

貴電第六一四号ニ関シ

(前編五二一文書)

一、鐵道警備ニ関スル当方ノ意向ハ往電第四一九号等ニテ御承知ノ通りナルカ貴電第六一四号ニ依レハ英國公使ノ意見ハ外人警備士官ヲ外国側ノ節制ニ服セシメムトスルモノノ如キ処斯クテハ仮令右外国士官ハ支那政府ニ傭聘セラルルノ形式トナルモ其ノ実外人管理ニ外ナラサル次

コト逆睹スルニ難カラス之レ我方トシテハ大ニ考慮ヲ要スル点ナリ

又対内關係ヨリ見ルニ日支ノ懸案タル珲春事件頭道溝事件乃至目下ノ排日運動ハ之ヲ等閑ニ附シ日本海軍ニ於テ外国側ノ被害事件解決ノ為スル示威運動ニ参加スルトキハ内部各方面ヨリ激烈ナル政府攻撃ヲ招クニ至ルヘシ
一、前頭ノ事情ニ顧ミ日本トシテハ臨城事件解決ノ為示威運動ニ出ツルカ如キコトナキ様最善ノ措置ヲ講スルコト得策トス

一、英國政府ニ於テモ飽迄示威運動ノ主張ヲ為スモノニハアラサルカ如ク米國政府亦難色アル模様ニ付結局示威運動ノ提案ハ実現ヲ見ルニ至ルコトナキヤニ推想セラルルモ万一今後英米兩國ノ態度強固トナリ此ノ上示威運動ノ提唱ヲ見ルカ如キ場合ニハ問題ヲ嚴ニ将来ノ保障ノ如キ一般共通ノ事項ニ限定シ示威運動ニ参加スルコト或ハ已ムヲ得サルコトナキヲ保セスト雖モ損害賠償ノ如キ問題ヲモ含メ一括シテ要求シ其ノ貫徹ヲ図ル為メ示威運動ニ出ツルコトハ多ク類似ノ被害事件ヲ有スル日本トシテハ山東還附等幾多寛容ナル態度ヲ示シタル後尚排日運動ノ盛ナル昨今前頭ノ通り対内關係上甚タ困難ナル立場ニ

第ニテ当方ノ方針ト相違スルノミナラス往電第四一六号英國公使説明トモ符合セス尤モ支那政府ヲシテ外国士官ノ建言ヲ尊重セシムル為事實問題トシテ必要ニ応シ外交団ヨリ支那政府ノ考慮ヲ促スカ如キ方法ヲ講スルコトハ当然ニシテ右ニテ本来ノ目的ヲ達スルコト困難ナラサルヘシ從テ右ノ趣旨ニテ支那側ヨリ了解ヲ取付クルカ又ハ外交団ヨリ支那政府ニ通告スルカ如キ措置ヲ執ルコトハ何等差支ナカルヘシ

(前編四九四文書)

二、津浦鐵道ノ件ニ付テハ往電第三三四号等ニテ御承知ノ通り此機會ニ乗セムトスル利權の導念ニ胚胎スルカ如キ要求ハ一切之ヲ排シ真ニ交通ノ安全乃至鐵道警備費捻出ヲ確保スル見地ヨリ公正ノ解決ヲ期シタキ方針ニテ且ツ津浦鐵道北段ニ対シテハ往電第三三四号末段ノ通り日英間ニ交渉ノ行懸リアルノミナラス同鐵道ノ山東鐵道ニ対スル關係ヨリ云フモ該鐵道ニ対シテニ英國ノ勢力ヲ伸張セシメムトスルカ如キ企画ニハ到底同意ノ限リニアラス從テ若シ英國側ニテ強而津浦鐵道ニ対スル勢力伸張ノ提議ヲ為スカ如キ場合ニハ之ヲ牽制スル意味ニ於テ尠クモ北段ニ日本人ノ採用ヲ主張シ英國提議ノ撤去ヲ図ルコト

ヲ必要トスル場合ナキヲ保セサルヘシ其他ノ鉄道ニ付テハ情勢ニ応シ申進スルコトアルヘキモ以上ハ当方差向ノ意向ニテ尚攻究ヲ要スヘキニ付貴官限り御含置ノ上可然御応酬相成且必要ノ場合ハ請訓相成タシ

五三九 七月十七日 (着) 在中国吉田臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

臨城事件善後措置ニ関スル外交団委員會第九
回會議ニ付報告ノ件

第六三一号

往電第六一四号ニ関シ

十六日會議アリ貴電第四四七号損害ニ関シテハ電文不明ニ付問合中ナリト辛フシテ往電第六二八号後段ニ関シ外交団會議ニ申出ズル必要アル場合ニ対スル素地ヲ作り置キシガ議定書河南事件責任者処分ニ関スル御来示ノ点何人モ賛成セズ本官亦強イテ主張セズ

公文案ハ二ヶ所小修正ノ上首席公使ニ報告スルコトセリ

(奉天中継七月十七日前、九、五〇)

問題ニアラス後者ハ時機既ニ遅ク又危険ナリ支那人ハ言ハン撤回ニ依リ失フ処多キハ支那ニアラズシテ外国ナリト然ラバ残ル処ハ要求ヲ応諾スル様支那ヲ説得スルニアルノミト語レリ

鉄道警備ニ就テハ英国公使強硬論ナルモ米、仏、蘭ハ監督説ニシテ大勢之ニ傾ケリ主任ニ関シ英国公使ハ津浦線英人主義ナル事疑無ク仏ハ權衡上京漢線ヲ得バ満足スベシ警備及主任ニ関シ我主張スベキ点至急御訓示ヲ請フ

五四一 七月十八日 (着) 在米國植原大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

对中国申入レ公文案ニ関スル米政府ノ意向ニ
付申進ノ件

第四四二号
(對支公文案ニ對スル米政府意見)
往電第四二九号ニ関シ

七月十七日極東部長ハ在米國英國代理大使宛國務長官ノ回答(七月九日附)ヲ佐分利ニ読ミ聞カセタルガ其冒頭ニ列國ガ華府會議ニ於テ一定ノ準則ヲ定メ支那ガ自ラ有力且安固ナル政府ヲ確立維持スル為完全且障害ナキ機會ヲ供与ス

五四〇 七月十八日 (着) 在中国芳沢公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

鉄道警備外人管理並ビニ主任問題ニ関スル米
國公使ノ談話申進ノ件

第六三三号

(前掲五三八文書)

十六日吉田、米公使ニ貴電第四五四号ヲ内話シタルニ公使ハ國務省來電中ニ日本政府ハ鉄道警備外人管理ニ異議無キ意味ノ字句アリト言ヒシニ付貴電第四一九号及第四五四号ノ通説明セシ処公使ハ支那政府外人保護ノ責任ヲ輕減スヘカラサルニ付自分ハ支那自ラ警備ヲ為シ外人委員會ガ其監督ヲ為スニ止マル事ト為シタシト語レリ

主任ニ関シ公使ハ米政府ハ英國案ニ同意スルモ一条件ヲ附セリ此機ニ於テ何國モ bond holder ヲ保護シ又ハ財政上ノ利益ヲ得ル之ナリ依テ自分ハ支那ニ關係ナキ小國ヨリ之ヲ採用スル主義ナル処日本政府ハ外人ノ振當ヲ云々セラルルガト言ヒナガラ首ヲ傾ケタリ

吉田ハ貴電第四五四号利權の云々ニ顧ミ日本ガ右ノ小國人將官ヲ採用スルニ異議無キカ不明ニ付聴流シ置ケリ

公使ハ強制方法トシテノ兵力使用及承認撤回ノ如キ前者ハ

ルコトトナシタルモ其以後ニ於ケル支那ノ事態ハ列國ノ期待ニ反シ大ニ失望セザルヲ得サルコト及支那政府ハ全然責任ノ觀念ヲ失ヒタルニ依リ条件ヲ提出スルニ當リ之ヲ快諾セシムルノ手段ヲ考量シ置クノ必要アルコトヲ述ヘタル後大体往電第四二九号ノ趣旨ヲ掲ゲ最後ニ支那政府承認取消問題ニ対スル英國政府ノ意見ヲ承知シ度キ旨ヲ附記シアリ尚極東部長ハ鉄道ノ警備及監督ニ付テハ特ニ更メテ意見ヲ述ヘサルコトトシタル旨ヲ内話セリ尚極東部長ハ承認取消問題ニ付テハ英國政府ヨリ又駐支米國公使ヨリ未タ何等意見ヲ述ヘ來ラサル旨ヲ答ヘタリ

(文案ニ関スル我意向)
貴電第三二六九号ノ大要ハ極東部長ニ内話セシメ置ケリ
英ヘ転電シ仏伊ヘ郵報セリ

五四二 七月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
内田外務大臣宛

鉄道警備問題ニ関スル中国外交部ヨリノ通報
文送付ノ件

付屬書 七月十六日付右外交団回章

公第四六一号 (七月三十一日接受)

大正十二年七月二十日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那鉄道警備問題ニ関スル件

本件ニ関シ外交部ヨリ通報ノ次第アリタル趣ヲ以テ首席公使ヨリ別紙写ノ通り外交団回章有之候条委細別紙ニ付御了知相成度此段報告申進候也

(付屬書)

同右外交団回章

Peking, July 16th, 1923.

Circular No. 189

Subject:—Protection of Government Railways.—

Letter From W.C.P.

The Dean has the honour to circulate herewith translation of a letter from the Wai Chiao Pu regarding certain measures to be adopted for the protection of the principal Government railways.

Copy.

From Wai Chiao Pu to Dean.

Translation

LETTER.

July 5th, 1923.

Monsieur le Doyen,

We have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's letter dated the 14th May last, requesting that steps should be taken to reinforce the soldiers and police for the protection of the principal Government railways.

We at once consulted with the Ministry of Communications with the object of issuing circular instructions to each railway office to adopt protective measures.

Now we have received a letter from the Ministry of Communications, as follows:—

“Now with the object of emphasizing the importance of guarding each railway, it is proposed to first proceed to improve the instruction and training of the police of the following six railways:—Peking-Hankow, Peking-Mukden, Tientsin-Pukow, Peking-

英国公使提案送付ノ件

付屬書 右英国公使提案

機密第七〇〇号

(八月十三日接受)

大正十二年八月四日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

臨城事件善後措置トシテノ鉄道警備ニ関スル英国

公使提案送付ノ件

臨城事件善後措置トシテノ鉄道警備問題ニ関シ英国公使ヨリ一案提出アルヘキコトハ客月九日附機密第六一九号往信ヲ以テ報告致置候処本日別紙写ノ通同公使ヨリ該案送付越候ニ付不取敢右供貴覽候也

(付屬書)

(別紙) 右英国公使提案

British Legation

Peking

Confidential

His Britannic Majesty's Minister presents his com-

Suiyuan, Kiaochow-Tsinan and Lung hai, and for this

purpose to establish a Department for drill-supervision, and to appoint as chief of this Department General Munthe, instructor of 'Pao An Tui', with instructions to improve the training and 'morale' of the railway police”.

We have the honour to address this letter to Your Excellency and request you to be so good as to bring the information to the notice of the Diplomatic Body.

We avail etc.,

Seal of the Wai Chiao Pu.

His Excellency

Monsieur J. B. de Freitas,

Minister of Portugal and

Dean of the Diplomatic Body.

~~~~~

五四三 八月四日

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛

臨城事件善後措置トシテノ鉄道警備ニ関スル

九 臨城事件 五四三

pliments to His Excellency the Minister for Japan and has the honour to transmit herewith the draft of a scheme for the reorganization of the Chinese Railway Police with foreign assistance as contemplated in the draft Note embodying the demands of the Diplomatic Body in connection with the Lincheng outrage, together with an explanatory memorandum indicating the lines on which the scheme has been elaborated.

Copies of this paper have also been submitted to Their Excellencies the Ministers for Holland, Belgium, The United States, France and Italy.

Peking, August 4th, 1923.

*RAILWAY POLICE  
DRAFT SCHEME*

1. The Directorate of Railway Police shall be a department of the Directorate General of Railways in the Ministry of Communications and shall be controlled by a Chinese Director of Railway Police and a

foreign Associate Director. The latter shall have equal rank and authority with the Chinese Director, and shall be appointed by the Chinese Government in consultation with the Diplomatic Body and on terms acceptable to them.

2. The Directorate shall reorganize and manage the police on all railways under the control of the Ministry of Communications, of which a list is hereto annexed (Schedule A). When further lines of railway are constructed, or come under the control of the Ministry of Communications, the functions of the Directorate will be extended thereto.

3. Within a period of two months following on their appointments the Chinese Director of Railway Police and the foreign Associate Director shall draw up together a detailed scheme for the reorganization and efficient management of the Railway Police under their control on the lines of this initial project and with a view to carrying out the objects herein enu-

merated. This detailed scheme when completed shall be submitted in the first instance to the Diplomatic Body for their approval and when this approval has been duly notified to the Chinese Government the detailed scheme shall thereupon be put into force and no alteration shall be made in its provisions without the consent and approval of the Directors. The detailed scheme shall provide for the appointment of a certain number of foreign officers possessing the necessary experience and qualifications, who shall act as instructors, superintendents and inspectors of the Railway Police under the orders of the Directorate. These foreign officers shall be selected by the Chinese Director and the foreign Associate Director from a list of candidates prepared by the Diplomatic Body and their contracts of service and terms of appointment shall be determined by the Directors in consultation with the Diplomatic Body.

4. The Directorate of Police, as forming part of the

Directorate General of Railways, shall work in close co-operation with, and shall receive the fullest assistance from that office and all its departments. In consultation with the Directorate General of Railways, the Directorate of Police will frame an estimate of its requirements of personnel in Peking and on the various railways, and of funds needed to defray the cost of the same. Such estimates shall be subject to revision from time to time as occasion demands, either annually or half-yearly, and shall be drawn up and treated generally in the same manner as other classifications of railway estimates. They shall be subject to the approval of the Directorate General of Railways, and shall, in the first instance, be based as far as possible on the expenditure now incurred for police purposes by the various railways.

5. The Directors shall have full authority within the limits of their estimates when approved, to appoint, transfer and dismiss members of their staff, and

officers and men of the Police Service on the various railways, as well as to promote or degrade them, and to take all necessary disciplinary measures.

6. All business and correspondence of the Directorate shall be conducted in the joint names of the two Directors.

7. By arrangement with the Directorate General of Railways, the funds needed in Peking for the expenses of the Directorate shall be contributed quarterly in advance by the various railways, and shall be remitted by cheques to the order of the Railway Police Directorate. The funds needed by the Directorate for police expenses on the various railways shall similarly be contributed by the railways from revenue, and shall be supervised by the foreign Chief Accountants of the railways, who will be charged by the Directorate General of Railways with the duty of paying the police staff and expenses monthly in accordance with pay sheets and vouchers signed by the Chief of

Police on the railway concerned. The accuracy of such pay sheets and vouchers will be checked by inspectors of the Police Directorate, but it shall also be the duty of the Foreign Chief Accountants of the railways to draw attention to any irregularities which may come to their notice.

8. The entire expenditure for police purposes shall be treated by the foreign Chief Accountants of the various railways under the heading General Expenses as shown in the Chinese Government Railway System of accounts.

9. The object of the present reorganization of the railway police is primarily to form an efficient force for the protection of travellers on the railways, and for protecting railway property against theft or damage, maintaining order at stations, and assisting the railway administration to deal with disorder or the breach of regulations on trains. In order to carry out these objects the aim of the Directorate shall be to

introduce and maintain a high standard of discipline in the force by the employment of experienced foreign officers, who shall act as instructors, superintendents, and inspectors as provided for in Article 3.

10. With the further object of co-operating with the Provincial Authorities in preventing attacks on the railways by brigands, the Directorate of Police shall organize a detective department to watch for any movements, and for this purpose to collect information in the vicinity of the railways for transmission by the railway administration to the Provincial Authorities, upon whom the responsibility rests for the prevention of such attacks. As a further assistance to the Provincial Authorities the police measures shall also include a system of railway patrols with facilities for communicating rapidly with stations, by telegraph, telephone or signals, both by day and night, in order that traffic may be suspended in case of danger to on coming trains.

11. In order to avoid conflicts of authority and prevent disorder, all railways property shall be put out of bounds for military officers, or soldiers, except when their assistance is called for by the railway police in the event of emergency, or when travelling with tickets as ordinary passengers. Whenever the movement of troops by railways is specially authorised the Directorate of Police shall be duly notified by the Ministry of War, and it shall be the duty of the railway police to assist the railway administration in preventing the seizure of engines and/or rolling stock by military units, and to support the railway administration in conducting the movement of troops in an orderly manner and in accordance with regulations to be drawn up by the Directorate General of Railways and Police Directorate in consultation with the Ministry of War.

12. In order that the foreign Chief Accountants of the various railways may be in a position to furnish

without fail or delay the funds required for police expenses, the Directorate General of Railways will make arrangements satisfactory to the Diplomatic Body on all lines where such arrangements are not already in force, for the safe custody of railways revenue and for its application only to railway purposes and obligations under the joint supervision of the Chinese Managing Directors and foreign Chief Accountants, and, as a measure for improving the efficiency of railway operation and increasing the revenue, the Directorate General of Railways will employ on all lines experienced foreign traffic managers and inspectors to co-operate with the Railway Police in the due discharge of their functions.

13. The arrangements herein contemplated shall remain in force for ten years when their continuance, revision, or abrogation shall be decided upon after consultation between the Chinese Government and the Diplomatic Body.

Chuchow Pinghsiang Railway (Chu-P'ing)  
Canton Kowloon Railway (Kuang-Chiu)

五四四 八月六日(着) 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

北京外交団ノ臨城事件ニ關スル对中国公文案  
二同意方請訓ノ件

第六八五号

臨城事件ニ關シ貴電第四六二号御訓示ノ次第アリタル処八月五日北戴河ニ避暑中ノ首席公使ヨリ本使ニ宛支那ニ送付スヘキ公文ニ対シ本使ニ於テ何等異存ナキ節ハ直ニ帰京ノ上外交部ニ送付方取扱フヘキ旨並ニ、三ヶ国公使ヨリ意見提出セラレタルモ各公使ニ於テ既ニ之ヲ承認シタル旨申越スト同時ニ本使ヨリ電報ニテ回答ヲ得タク左スレハ直ニ帰京スヘキ旨来信アリタル処支那政府宛公文案ニ付テハ七月十六日付機密第六四五号ニテ吉田代理公使ヨリ詳細報告ノ囑同日ノ會議ニ於テ同代理公使ヨリ議定書ノ件、河南事件、責任者処罰及損害賠償等ニ付説明シタルニ拘ハラス何人モ賛成セサリシノミナラス对支公文案トシテ委員会ニ於テ調

SCHEDULE A  
LIST OF GOVERNMENT RAILWAYS

under the control of the Ministry of Communications.

|                                  |                |
|----------------------------------|----------------|
| Peking Mukden Railway            | (Ching-Feng)   |
| Peking Hankow Railway            | (Ching-Han)    |
| Peking Suiyuan Railway           | (Ching-Sui)    |
| Tientsin Pukow Railway           | (Ching-P'u)    |
| Shantung Railway                 | (Chiao-Chi)    |
| Shansi Railway                   | (Cheng-T'ai)   |
| Taoku Chinghua Railway           | (Tao-Ch'ing)   |
| Lung Hai Railway                 | (Lung-Hai)     |
| Kirin Ch'angsh'un Railway        | (Chi-Ch'ang)   |
| Ssu-P'ing-k'ai Taonanfu Railway  | (Ssu-Tao)      |
| Shanghai Nanking Railway         | (Hu-Ning)      |
| Shanghai Hangchow Ningpo Railway | (Hu-Hang-Yung) |
| Hankow Canton Railway            | (Hsiang-O)     |
| (Hupei Hunan Section)            |                |

製セラレタルモノニハ追テ外交団會議ニ附議セラルヘキ旨ナルニ拘ハラス他ノ各公使ハ絶対ノ必要ナキ限り公使団會議ヲ開カサルヘシトノ首席公使ノ態度ニ反对セス(米仏公使ヲ除キ総テ北戴河ニ在リ)公使団トシテハ本使ヲ除ク外全部之ヲ承認シ居レル次第ナリ而シテ前四項ノ内議定書ノ件河南事件ノ二者ハ最輕微ニシテ敢テ顧ミルノ必要ナシトシテ責任者処罰損害賠償ノ二件殊ニ損害賠償ニ付テハ本使ニ於テモ素ヨリ御訓示ノ御趣旨ニ同感ナルモ臨城事件ニ關係ナキ他ノ諸国ニ於テ既ニ同意セル以上日本ノミ飽迄頑強ニ反对スルハ事態「デリケート」ニシテ徒ニ各国ノ感情ヲ害シ日本トシテ果シテ得ル所アリヤ疑ナキ能ハス日本カ本件对支公文ニ調印スルモ支那ハ日本ノ主動者ニアラサルコトヲ承知スルカ故日本ニ対シテ之カ為特ニ惡感ヲ生スルコトナカルヘシ目下排日運動ハ多少緩和セラレタルモ未タ終熄ノ模様ナキ際本件公文ノ提出ニシテ実行セラルルニ於テハ輕浮ナル徒ニ対シ人心ヲシテ本問題ニ転換セシムルコトトナルヤモ測リ難ク殊ニ鉄道警備運輸會計兩主任ノ問題等トハ異ナリ前記四項ノ如キハ何等我方ニ取り利害關係ナキ所ニ係ル以上ハ既ニ貴電第四四六及四四七号ヲ以テ飽迄強

硬ナル態度ヲ以テ貫徹スル必要ナキヤノ趣旨御垂示相成居  
ルト英國政府ニ対シ主義上御同意相成居レル等ノ事情ニ顧  
ミ此際該公文案全部ニ同意スルコトト致シタク首席公使ニ  
対シテハ為念請訓中ニ付数日間延期ヲ請フ旨返電スヘシ尚  
二、三ヶ国公使ノ提出シタル意見中将来同様ノ状況ニ於テ  
外人カ土匪ニ拉致セラレタル場合關係公使ハ其ノ提出スヘ  
キ賠償要求ニ付外交(脱)ヲ得ベシトノ主義ヲ外交団ニテ  
認ムヘシトノ提議ノミハ重要ニシテ考慮ニ値スルモ他ハ殆  
ト字句ノ變更ニ止マリ極メテ輕微ニシテ電報ノ必要ナシ就  
テハ以上至急御詮議ノ上何分ノ御電訓ヲ請フ

(奉天中継八月六日前一〇、三〇)

五四五 八月六日 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛

外国人ノ中国内地危險地域遊歴制限方中国政  
府ノ申出ニ関スル件

付屬書一 同日付芳沢公使發在中國各領事宛通報

二 七月十九日付首席公使ヨリ中国外交部宛返翰訳  
文

公第四九一号

ノ遊歴暫時停止方同文照会シ来リタルニ付外交団會議ノ結  
果略客年ノ場合ト同様ノ意味合ノ回答ヲナスコトトナリタ  
ル処偶臨城事件ノ發生アリ且其後浙江方面ニ付テモ遊歴停  
止ノ申出アリ旁本件ハ一般問題トシテ之ヲ考慮スルコトト  
シ我方ヨリモ本問題ニ対スル從來ノ經驗等ニ鑑ミ提議スル  
所アリ結局首席公使ヨリ外交部ニ対シ別紙訳文(原文英  
文)写ノ通回答發送済ニ有之候ニ付委細別紙ニ付御了知相  
成度此段申進候也

本信送附先 在支各領事

本信写送附先 大臣

(付屬書二)

首席公使ヨリ中国外交部宛返翰訳文

外国人支那内地危險地域遊歴一時停止方ニ関シ首席公使  
ヨリ外交部ニ送致セル一九二三年七月十九日附書翰訳文  
拝啓陳者四月十六日附貴翰ヲ以テ熱河地方ハ土匪猖獗ヲ極  
メ軍隊及警察共ニ充分外国人旅行者ヲ保護スルコト困難ナ  
ル趣ヲ以テ各国代表者ヨリ在支各国領事ニ対シ一時右地方  
ニ於ケル外国人ノ遊歴差止方訓令アリタキ旨御來照ノ次第  
閱悉致候

大正十二年八月六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大正十二年八月六日附在支各領事宛公合第二四号信写送附

外国人ノ支那内地危險地域遊歴制限方支那政府

申出ニ関スル件

(付屬書一)

芳沢公使發在中國各領事宛通報

公合第二四号

大正十二年八月六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉

在支各領事宛

外国人ノ支那内地危險地域遊歴制限方支那政府申

出ニ関スル件

本件ニ関連シ曩ニ客年六月二十一日附公合第一二号往信ヲ  
以テ申進置キタル次第有之候処最近更ニ外交部ヨリ各国公  
使館ニ対シ熱河地方ハ土匪猖獗ヲ極メ甚タ危險ニ付外国人

査スルニ各国公使ハ各自国民ニ対シ熱河地方旅行ノ危險ニ  
付注意スルコト格別差支無之モ元來貴國領土内ニ於ケル治  
安保護ノ維持ハ当然貴國政府ノ責務タルコトハ申迄モ無之  
殊ニ外交団ハ支那政府カ外国代表者ニ対シ共和国ノ首府ヲ  
距ルコト遠カラス而モ目下多数官兵ノ集中セル地方ニ対シ  
各国民遊歴ヲ停止セラレタキ旨要望セラレタルニ対シテハ  
寧ろ驚(脱)ノ念ヲ禁シ能ハサル次第ニ有之候

然ルニ更ニ五月二日ニ至リ各国代表者ハ安徽省ニ於テハ最  
近解隊セル新軍隊ノ兵士ノ行動極メテ不穩ナルヲ以テ安徽  
省北部ヲ旅行スル外人ハ大ナル危險ニ遭遇スヘシトノ安  
徽省督理ヨリノ電報並五月廿一日綏遠管内山(脱)套乃地  
方ハ土匪多数ニシテ外人ノ旅行危險ナリトノ綏遠都統ヨ  
リノ電報ヲ同様送附シ来レリ各貴翰ヲ以テ前回同様一時外  
国人ノ遊歴停止方御來照ノ次第有之候

(附書)

就テハ各国公使ハ貴國政府ヨリ屢次候申出ノ次第ニ鑑ミ各  
地方ニ於ケル外人ノ遊歴停止問題ヲ一括シテ考慮スルコト  
ト相成候処惟フニ是等屢次ノ御申出ニ関シテ悉ク之ニ適応  
スルニ於テハ結局貴國領土大部ヲ拳ケテ中央政府モ地方政  
府モ共ニ外国人ノ條約上ノ權利ノ享有ヲ保障セサルノ結果

ト相成ヘク殊ニ是等御申出ニ付最モ遺憾ナル点ハ殆ト撤廃セラレタルコト無之コトニシテ結局貴国各当局ハ条約ノ効果ヲ根本的ニ變更セントスルモノナルカ又ハ永久ニ是等ノ重要ナル条約上義務ヲ履行シ得サルコトト相成可申候

外交団ノ意見ニ拠レハ外交部ヨリ外国人ノ游歴ニ対シ警告ヲ与ヘムコトヲ要求セラルルトモ（尤該要求ハ地方当局ヨリ外国領事ニ宛テテ為スヘキモノニアラス）右ハ決シテ貴国政府又ハ其ノ管理ノ外国人ノ生命財産保護ノ責任ヲ解除スルモノニハ無之將又貴国内何レノ部分ヲモ自由ニ旅行シ得ヘキ現行条約上ノ權利ハ之カ為ニ何等ノ制限ヲ受クヘキモノニアラサルハ勿論ノ儀ニ有之若シ地方官憲ニシテ自己ノ地域内ニ於ケル治安ノ維持不可能ナルヲ以テ外国人ノ旅行ニ対シ警告ヲ發スルノ必要アルコトヲ告白スルノ止ムヲ得サルカ如キ場合アリタリトスルモ斯クノ如キ必要ハ極メテ一時的ノモノナルヘク蓋シ何レノ場合ニ於テモ迅速ニ秩序恢復ニ努メツツアルモノト推定セラルヘキ次第ニ有之候

右ノ次第ニ付特ニ反对御申出無之限り外国人ノ游歴ニ対シ警告スルコトヲ必要トスルカ如キ無秩序ノ状態ハ外交部ヨ

リ該通告ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月以内ニ鎮庄セラレタルモノト認メ從テ斯ク一ヶ月間ヲ限り發セラレタル警告ハ特ニ其更新ヲ見サル限り撤廃セラレタルモノト認ムヘク候ニ付テハ右ノ趣ハ貴総長代理ヨリ各省及特別行政区域ノ責任当局ニ対シ御通告相成度此段回答得貴意候 敬具

五四六 八月六日 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛

中国政府ニ対スル外交団申入レ公文ニ関シ首

席公使ヨリ申越ノ件

付屬書 八月四日付首席公使書翰

機密第七一〇号 (八月十七日接受)

大正十二年八月六日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

臨城事件善後措置ニ関スル支那政府宛外交団公文

案ニ付首席公使ヨリ申越ノ件

臨城事件ニ関スル支那政府宛外交団公文案主席公使ヨリ送

附ノ次第ハ客月二十六日附機密第六七八号拙信ヲ以テ報告致置候処同公使ヨリノ一昨四日附別紙寫ノ通り書面昨五日接受致候ニ付往電第六八五号ヲ以テ請訓スルト共ニ同公使ニ対シテハ確答迄ニハ猶ホ数日ヲ要スヘキ旨挨拶致置候

然ルニ本日葡国公使館外交団事務主任者タル das Chagas 氏ノ吉田参事官ニ内話スルトコロ左ノ通ニ有之候

本月三日在北戴河主席公使ヨリ本日帰燕ノ旨通報ニ接セシニ付自分ハ直ニ返書ヲ送り日独蘭白四国公使ヨリ未タ公文案ニ対スル回答ナキニ付該公文支那政府へ提出ノ為ノ帰燕ハ無用ナリト報告セリ本月四日附日本公使宛主席公使書面ハ自分ヨリノ右報告ニ基キ發セシモノナラン此段報告申進候也

(付屬書)

同首席公使ノ書翰(附、回章)

Petaiho, 4th August, 1923.

Monsieur le Ministre and dear Colleague,

The note on the Lincheng affair is ready. I made only a few suggestions to cover remarks presented by some colleagues that were not on the sub-commit-

tee that approved the draft. These suggestions are of so little importance that I believe you will give them your approval. They are already approved by all the colleagues.

I am sending, enclosed, a copy of my circular that will reach you in due time.

As I want to go to Peking, only when everything is ready, to deliver the note, may I ask from you the special favour of an answer, by a short telegram, telling me if you agree and if you are prepared to sign the note? I intend to leave Petaiho for Peking as soon as your answer reaches me.

Awaiting to have the pleasure to meet you personally very soon, having missed you when I called in Peking, and with thanks in advance for the trouble, believe me, my dear colleague.

Yours very sincerely,

(Signed.) J. B. de Freitas.

LEGACÃO DA REPUBLICA PORTUGUESA  
NA CHINA

le 31 juillet 1923.

Le Doyen a l'honneur de circuler pour la considération de ses Honorables Collègues les lettres qu'il a reçues de Leurs Excellences les Ministres de Norvège et d'Espagne et des Chargé d'Affaires de Suède et de Danemark à propos du projet de note sur l'affaire de Lincheng.

Monsieur de Freitas, après consultation verbale et par correspondance avec la majorité des Chefs de Mission, propose, d'accord avec les différents suggestions reçues, que la note soit modifiée dans les termes suivants qu'il croit peuvent être acceptés par tous les collègues:

(pg 2) Dans le paragraphe 3 qui commence par *Tout en formulant* ..... après les mots *corporels subis* et avant les mots la *perte de gains* ajouter les mots *les soins médicaux*,

(pg 2) Dans le paragraphe 4 qui commence par *En formulant* ..... supprimer la première phrase *En formulant* ..... jusqu'à *depuis ses débuts*. Ce paragraphe commencera donc par *Le Corps Diplomatique appuie après* .....

Dans la dernière ligne de ce même paragraphe remplacer le mot *Aout* par le mot *Juin*.

(pg 4) Dans le premier paragraphe qui commence par *Le Corps Diplomatique* après le mot *remettre* et avant les mots *au Gouvernement Chinois* ajouter les mots *dans un délai aussi court que possible*.

Il suggère aussi que le Corps Diplomatique accepte le principe qu'à l'avenir un Chef de Mission à Pékin puisse compte sur l'appui du Corps Diplomatique quant aux réclamations qu'il pourrait présenter au Gouvernement Chinois au cas d'enlèvement d'un de ses ressortissants par les bandits dans des circonstances analogues à celles de l'incident de Lincheng.

Aussitôt que ce principe et les modifications pro-

posés auront reçu l'approbation unanime de tous les Chefs de Mission la note sera considérée approuvée et Monsieur de Freitas s'empressera de la faire signer par tous ses collègues et la remettra, en personne, au Ministre des Affaires Etrangères.

五四七 八月十日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

中国宛公文ニ対スル關係各公使ノ調印ニ付報

告ノ件

第七〇〇号 (至急)

貴電第四九三号ニ関シ (対支公文案ニ同意ノ件)

八月八日早速公文案ニ同意ノ旨首席公使ニ電報シタル処九日同公使帰京九日夜關係各公使ノ調印ヲ了シタリ首席公使ハ十日外交総長ヘ之ヲ手交スベク手交済ノ上ハ直ニ發表方差支ナキ旨九日夜本使ニ語リタリ

依テ当館ニテハ首席公使ヨリ手交済ノ電話アリ次第發表スベキニ付貴方ニ於テモ適宜發表方御取計相成リタシ

五四八 八月十日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

臨城事件ニ関スル北京外交団ノ連名申入レ公文發表ノ件

第七〇二号

往電第七〇〇号ニ関シ

八月十日正午首席公使ヨリ外交総長ニ公文ヲ交付シ午後公文ノ内容ヲ發表セリ当館ニ於テモ右公文ノ概要ヲ發表シ置ケリ

五四九 八月十三日 外務省公表

臨城事件ニ関スル北京外交団ノ中国政府宛申入レ公文公表ノ件

公表第十五号

大正十二年八月十三日 外務省公表

臨城土匪事件ニ関シ北京外交団ハ八月十日各公使ノ連名公文ヲ以テ左ノ趣旨ヲ支那政府ニ申入レタリ

臨城事件 (千九百二十三年五月五日ヨリ六日ニ至ル夜間天

津、浦口線ノ急行列車襲撃ヲ受ケ外人土匪ニ拉致セラル  
ニ関スル支那政府宛前照会ニ引続キ外交団ハ同政府ニ対シ  
左記事項ニ関スル決定ヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

第一、右被害者ノ為ニ支那政府ニ要求セムトスル賠償金  
第二、将来ニ対シ必要ナリト認ムル保障、督軍及其ノ他  
ノ官憲ノ制裁、鉄道保護ノ手段

第三、官吏ニシテ本事件ニ関シ職務怠慢ナリシ者又ハ土  
匪ト共謀セル者ノ処罰

#### 一 賠償

外交団ハ臨城事件ノ被害外国人ノ為ニ支那政府ニ対シ賠償  
金ヲ請求ス

本賠償金ハ左ノ通区分ス

(イ)列車襲撃ノ際竊取セラレ若ハ紛失シタル荷物其ノ他ノ物  
件ノ損害及抑留中ニ於ケル各抑留者ノ医療手当ニ対スル  
賠償

右賠償金ハ利害関係者所屬国領事ノ受理セル同関係者ノ  
宣誓ニ拠ル申告ヲ基礎トスヘシ

(ロ)抑留中外国人旅行者ノ受ケタル生命若ハ自由ノ剝奪、疲  
勞暴行ニ対スル一定ノ賠償金右賠償金ハ左ノ通計算ス

対シ諸公使館ヨリ各別ニ提出シ若ハ提出スヘキ要求ヲ支  
持シ以テ同要求カ外交団ノ承知スル所ニシテ且主義上其  
ノ承認スルモノナルコトヲ明ニセムトス

#### 二 将来ニ対スル保障

土匪ハ単ニ山東省ノミナラス尚直隸、江蘇、河南、安徽各  
省ノ全部若ハ一部及其ノ他ノ省内ニモ跋扈シ而カモ之カ討  
伐手段ノ現況著シク不満足ナルモノアルハ外交団ノ頗ル遺  
憾トスル所ナリ支那政府ノ最重要ナル義務ハ秩序ヲ維持シ  
匪賊ノ暴虐ニ対シ外国人及支那人ヲ保護スルニ在ルカ故ニ  
外交団ハ中華民國政府ニ対シ巡閱使督軍等ヲシテ相協戮シ  
其ノ有スル最良ノ軍隊ヲ以テ徹底的ニ土匪討伐ヲ為ス為直  
ニ必要ノ措置ヲ執ラシメムコトヲ求ム外交団ニ於テハ或ハ  
外国公使館附武官ヲシテ親シク右討伐ノ模様ヲ視察セシメ  
之カ情況ヲ報告セシムルコトアルヘシ

甲、督軍及其ノ他ノ地方官憲ノ責任

千九百年ノ事件解決ニ関スル最終議定書(第十条並附屬  
書第十六号)ハ總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管  
轄内ニ於テ排外ノ紛擾再発ノ場合最モ有効ナル方法ヲ以  
テ外国人ヲ保護シ秩序ヲ維持スルノ職責ヲ有スルコトヲ

五月六日土匪ノ列車襲撃ノ際殺サレタル外国人旅行者ニ  
対シテハ銀二万弗

五月六、七、八ノ最初ノ三日間ノ抑留ニ対シテハ一人一  
日銀五百弗、五月九日以後一週間ノ抑留ニ対シテハ一人  
一日銀百弗、五月十六日以後一週間ノ抑留ニ対シテハ一  
人一日銀百五十弗、五月二十三日以後一週間ノ抑留ニ対  
シテハ一人一日銀二百弗、五月三十日以後一週間ノ抑留  
ニ対シテハ一人一日銀二百五十弗、六月六日以後一週間  
ノ抑留ニ対シテハ一人一日銀三百弗

(イ)抑留者ノ救助費用償還ノ為ノ賠償金

右外交団自身決定提出セル(イ)(ロ)ノ賠償要求ニ拘ラス外  
交団ハ臨城事件ノ被害外国人カ抑留自体若ハ其ノ結果ニ  
係ル身体上ノ傷害医療手当利得ノ喪失、一時的若ハ永久  
的ノ活動能力ノ減退ニ付キ各人各別ノ追加賠償ヲ支那政  
府ヨリ受クルノ權利アルコトヲ宣言ス右個人の賠償ハ各  
場合ニ付キ利害関係者所屬国ノ公使館ニ於テ審理提出ス  
ヘキモノトス

外交団ハ支那政府ニ対シ千九百二十二年六月ヨリ十二月  
ニ亘リ河南土匪ニ拉致セラレタル外国人ノ被レル損害ニ

宣言シ更ニ同議定書ニハ右職責ヲ竭ササル者ニ対シ左ノ  
刑罰ヲ規定セリ「若或ハ漫ニ覺察スルナク甚シキハ故意  
ニ縱容シ以テ巨案ヲ醸成シ或ハ条約違反ノ所行アルモ即  
時ニ彈圧セス犯罪人モ亦立ニ懲弁セサルニ於テハ当該總  
督、巡撫、文武大官及地方有司各官ハ一概ニ革職シ永ク  
叙用セス他省ニ投効シ開復ヲ企図スルヲ准サス亦別ニ獎  
叙ヲ給スルヲ得ス」土匪ノ害ハ在支諸外国人命生命、財  
產及權利ノ一大脅威トナレルヲ以テ外交団ハ右特殊ノ混  
乱状態ニ関シ正確ナル報道ヲ得ムコトヲ欲シ之カ為同団  
ニ於テ有要ト認メタル場合土匪ノ跋扈スル地方ニ其ノ状  
態ヲ調査シ其ノ結果ヲ報道スルノ任務ヲ有スル代表者ヲ  
派遣スルコトニ決定セリ督軍軍隊指揮官若ハ省又ハ地方  
官憲ニシテ前記千九百一年ノ議定書ノ規定ニ遵ヒ外国人  
ノ安全ヲ確保スルノ義務ヲ怠リ又ハ怠レリト認ムルトキ  
ハ外交団ハ此等有罪者ニ対シ右議定書ニ規定ノ制裁ヲ即  
決適用セムコトヲ要求スヘク尚其ノ外其ノ時ノ事情ニ応  
シ附加刑罰金等ヲ要求スルコトアルヘシ

尚外交団ハ此等指揮官又ハ官吏ニ対シ条約港ニ於ケル外  
国人「コンセンション」若ハ「セトルメント」ノ保護

ヲ与ヘサルコトヲ命スルノ權利ヲ保留ス  
乙、鐵道保護ノ方法

臨城事件ハ支那重要交通路ノ一タル津浦線及支那鐵道ニ便乗セル外國人旅行者カ現突ノ危險ヲ冒スモノナルヲ示セリ

外交団ノ為セル調査及外交団ノ得タル報告殊ニ其ノ臨城ニ派遣シタル國際軍事委員ノ報告ニ依レハ支那鐵道ノ保護ニ關スル現在ノ制度ハ此等鐵道ノ保護ヲ有効ニ確保スルニ適セス

外交団ハ右ニ對スル改革ノ必要ヲ認ムルト共ニ改革實現ノ為支那政府ト協力シ之ヲ援助スルノ義務アリト思惟ス外交団ノ企圖スル改革ハ支那特別警察隊ヲ組織シ之ヲ外國人士官ノ監督ノ下ニ置キ以テ支那鐵道線路ノ保護ヲ全ウセシムルニ在リ

外交団ハ本問題ニ付キ更ニ篤ト研究ノ上支那政府ニ對シ今後同國ニ於テ採用スルコトアルベキ計畫ヲ遲滞ナク申出ツヘキコトヲ保留ス

### 三 制裁

外交団ハ文武官及津浦鐵道従業員ニシテ土匪ト通謀セル証

指揮官ニモ任スルヲ得サルヘキコト

(一)津浦鐵道警備隊司令張文湯將軍ハ同鐵道系統ノ線路及列車上ニ於ケル警備隊ノ規律及行為ニ對シ責任アルヲ以テ其ノ職ヲ免シ將來再ヒ如何ナル鐵道警察ノ職務ニモ就カシムルヲ得サルヘキコト

(二)五月六日襲撃セラレタル列車警備兵ノ指揮官タリシ趙得紹ハ襲撃ノ當時制服ヲ着セス又何等ノ手段ヲモ執ラスシテ土匪ニ捕ハルルニ至レルヲ以テ其ノ現職ヲ免シ以後再ヒ警察職務ニ就カシメサルコト

本書第二項甲後段所述ノ趣旨ニ遵ヒ外交団ハ此等四名ノ官憲ニ對シ條約港ニ於ケル外國人「コンセツション」若ハ「セトルメント」ノ保証ヲ与ヘサルコトヲ命スルノ權利ヲ保留ス

然レトモ單ニ數名將校ノ処罰ハ外交団ノ正当ナル要求ニ對シ満足ヲ与フルモノニアラス土匪ノ津浦線列車襲撃外國人ノ拉致、其ノ抑留ノ期間、彼等ヲ救出スル為ニ執ラサルヘカサリシ手段ハ外國人カ支那ニ於テ其ノ權利タル安全ノ保証ヲ有セサルコトヲ世界ニ表明セリ故ニ臨城事件ノ眞ノ制裁ハ支那政府及總テノ支那官憲ヲシテ嚴格ニ外國人ノ

左アルモノ、職務怠慢、不用意若ハ無能ニ依リ犯罪遂行ヲ容易ナラシメタル者、又ハ其ノ態度ニ依リ外國人抑留ヲ永引カシムルニ至レルモノノ処罰ヲ支那政府ニ要求スルコトニ決セリ

臨城事件ニ關シ執ラルヘキ總テノ訴追ノ詳細ニ立入ルコトハ姑ク措キ外交団ハ國際文官委員及國際武官委員ニ依リ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ精密ナル調査ヲ遂ケタル上支那政府ニ對シ或ル數名ニ外交団ノ決定セル処罰適用ヲ左ノ通要求セサルヘカラスト思考ス

(一)山東督軍田中玉將軍ハ山東督軍トシテ同省内ニ於ケル秩序維持外國人保証ニ對シ直接且全幅ノ責任ヲ有シ又同省ニ於テ全軍隊ノ最高指揮官トシテ其ノ軍隊ノ給与規律及行為ニ對シ責任アルヲ以テ直ニ現職ヲ即決罷免シ向後再ヒ支那領土内ニ於ケル公職公務ニ就カシメス又新ナル榮譽ヲ授与セサルヘキコト

(二)兗州鎮守使兼山東第六混成旅長何鋒鈺將軍ハ兗州鎮守使トシテ山東ノ南部地方ニ於テ田將軍カ全省ニ對シ有スルト同一ノ責務ヲ有シ田將軍ニ次キ山東南部地方ニ於ケル匪賊跋扈ニ對シ責任アルヲ以テ其ノ職ヲ免シ再ヒ如何ナル軍隊

權利及現行條約ヲ尊重セシムルコトニ存セサルヘカラス、外交団ハ其ノ權限内ニアアル有ユル手段ヲ以テ此等ノ權利ノ擁護及條約ノ履行ヲ監視勵行スヘキコトノ鞏固ナル決定ヲ為セリ蓋シ此等ノ權利及條約ハ支那共和國樹立ノ際千九百十三年十月十日附ヲ以テ公布セラルルニ先チ同六日附ヲ以テ各公使館ニ通告セラレタル宣言ニ依リ嚴肅ニ確認セラレタルモノナリ終ニ臨ミ外交団ハ今ヤ支那全國ニ對シ將又外國人ノ權利利益ニ對シ重大ノ危險ヲ成シツツアル支那土匪問題ニ關シ支那政府ノ注意ヲ喚起セムトス

外交部カ各公使宛公文通牒ヲ以テ屢々或ル地方ノ不安ナル状態ヲ通報シ來リ同地方ニ於ケル外國人ノ遊歴差控ヲ希望セルカ如キハ正ニ支那政府カ支那ニ於ケル土匪ノ存在及其ノ最近ノ發展ヲ承知シ得ルコトヲ自認セルモノト認メサルヲ得ス

外交団ハ曩ニ右通告ヲ以テ單ニ一定ノ期間ヲ限り有効ナルモノト看做スヘキ旨支那政府ニ通告セルカ今後右通告ヲ以テ支那政府カ該地方ニ於ケル土匪ノ存在ヲ公然認定スルモノト看做シ而シテ一定ノ猶余期間ヲ置キ其ノ後更ニ同様ノ通告ヲ繰返ストキハ之ヲ以テ支那政府カ一旦土匪ノ存在ヲ

否定セル地方ト雖尚其ノ鎮圧ヲ為ス能ハサリシコトヲ公然認定セルモノト看做スヘキ旨ヲ茲ニ言明ス

外交団カ支那ニ於ケル土匪鎮圧ヲ追求スルハ外交団ニ於テ保護ノ責任ヲ有スル外人ノ權利利益カ土匪ニ依リ侵迫セラレルカ為ナリ然レトモ土匪ノ害ヲ被ルハ独リ外人ニ止ラス支那人モ亦之ニ讓ラスサレハ土匪鎮圧ニ於ケル支那ニ於ケル外人ノ安全ヲ確保スヘシトノ外交団ノ要求ハ事実上支那人モ亦自國領土内ニ於テ其ノ安全ヲ確保セラレサルヘカラストノ要求ナリ

最近ニ於ケル土匪ノ發展及其ノ結果タル慘禍ノ原因ハ全然兵力ノ欠乏テフ事実ニ存セス、現在支那ニハ世界ニ於ケル他ノ孰レノ國ヨリモ多数ノ武装兵アリ、然レ共此等軍隊ハ土匪ノ討伐ヲ為サス蓋シ給料不払ノ為兵士ハ何等ノ努力ヲモ為スヲ肯セス甚タシキニ至ツテハ土匪ト妥協シ殊ニ最良ノ軍隊ハ別種ノ勤務ニ服セシメラルルカ為ナリ支那政府カ最良ノ訓練アル軍隊ヲ此ノ大國ノ各地方ヲ絶エス荒廃スル内乱ニ從事スルヲ放置スル限り中央及地方ノ各軍隊孰レモ益々其ノ本来ノ職分ヨリ遠カリ土匪ノ暴虐ニ対スル支那國民ノ保護者タラスシテ却テ其ノ慘禍ヲ醸成スル主タル機關

ニ至ルヘシ

若シ支那政府ニシテ此ノ弊害ヲ公認若ハ認答シ支那ニ於ケル外人ノ權利利益ヲ侵迫スル土匪鎮圧ノ為斷乎タル手段ヲ講セサルニ於テハ外人ノ生命財産權利及利益ヲ保護スル如何ナル他ノ手段ヲ執ルヘキヤヲ講究スルノ已ムナキニ至ルヘシ蓋シ支那ハ假令世界國際団体ノ各員ニ認メラルル權利特權ヲ享有スト雖右權利享有ノ根拠タル國家ノ根本的義務履行ノ能力ナキヲ表明スルニ至ルヘケレバナリ外交団ハ臨城事件ノ賠償トシテ本覺書ニ列挙セル賠償金、保証及制裁ニ関スル要求ノ貫徹ヲ期スルモノナルヲ茲ニ支那政府ニ言明ス

五五〇 八月十六日（発）

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

### 鉄道警備問題ニ関スル外交団會議ノ経過報告

ノ件

第七二九号 至急

往電第七二二号ニ関シ

八月十六日午前十一時會議ヲ開キ劈頭和蘭公使ハ英國公使

提案ヲ議題ニ付センコトヲ提言シ英國公使ヨリ機密第七〇〇号拙信付屬書類ノ各要所ニ付一応ノ説明アリタルカ和蘭公使ハ支那側ニ於テ本件英國案ヲ其儘承諾スヘキヤト問ヒタルニ英國公使ハ此儘承諾セシムルコト困難ナルヘク結局外交団ト支那政府トノ商議ニ移リ何等カノ妥協案ニ達スルコトトナルヘシト答ヘタリ次テ各國公使ノ間ニ所見ノ交換アリ和蘭公使ハ此種鐵道警備案ヲ支那側ニ強ユルコトモナラハ結局外交団ハ責任ヲ負ハサルヘカサルニ至ルヘク旁之ヲ強要スルカ如キ態度ニ出テサル方然ルヘシト述ヘ和蘭公使ハ過日送致セル連名公文書ニ對シ支那政府ヨリ回答ニ接セサルニ先タチ当方具體案ヲ提示スル方有利ナルヘシト提言シタルニ對シ米國公使ハ既ニ公文ヲ交付セル以上支那側ヲシテ是レヲ承諾セシムル為必要ノ手段ヲ講シ之カ成功ヲ期セサル可カラスト応酬シ和蘭公使ハ和蘭案ト英國案トノ相異ハ Committee ニ依ルカ Directorate ニ依ルカニ過キストテ英國案ノ大体ニ對シ格段ノ異議ナキ如キ口吻ヲ仄シタリ右ニ對シ和蘭公使ハ Committee 說ニ反對ノ意ヲ表シ該案実行ノ曉ハ年月ヲ經ルニ從ヒ實際上ノ權限縮少シ終ニ其存在ヲスラ疑ハル、ニ至ルヘシト述ヘタリ次テ本

使ヨリ試ミニ「ムンテ」ノ鐵道警備案ニ関スル新聞報等ヲ指摘シ此（脱）所見ヲ知ルニ於テハ何等カノ參考ニ資スルヲ得ヘシト提言シタルニ白耳義公使ハ「ムンテ」ハ軍曹出身ニシテ軍事上ノ知識ヲ有セサルヲ以テ多クヲ期待スヘカラスト難シタルカ米國公使ハ外交団ノ提案ハ既ニ連名公文書ニ明ナル如ク支那政府ニ對シ改革ノ実行ニ協力セント強イントスルモノニハ非スト陳弁セリ次テ本使ヨリ英案ノ趣旨ハ舊ニ借款鐵道ノミナラス純然タル國有鐵道ニ對シテモ運輸及會計主任ヲ置キ同一組織ノ下ニ各鐵道ヲ統一セントスルモノナリヤト推問シタルニ英國公使ハ然リ一切ヲ統轄シテ有効ナル運用ヲ期セントスルモノナリトテ各鐵道ノ現情ニ付説明シ又和蘭公使ヨリ英國案ハ土匪ノ攻撃ニ對スル防衛ト同時ニ支那人全般ニ對シ鐵道ヲ防衛スルヲ目的トスルモノナラスヤト質問シタルニ對シ英國公使ハ全ク其通ニシテ畢竟鐵道管理ノ不完全ニ基ク事態ヲ改善センコトヲモ希望スルモノナリト応酬セリ。

当日會議ノ經過ハ大体前述ノ通ニシテ本使ハ會議間際ニ接受セル貴電第五〇六号ノ趣旨ニ依リ主トシテ各國公使ノ態度ヲ探究スルニ努メタル次第ナルカ結局何等纏マリタル談

合ニ達セス和蘭公使ノ提議ニ依リ来ル二十日(月曜日)重  
ネテ會議ヲ開キ本件ヲ外交団ニ進達スル案文ヲ討議スルコ  
トトシ散会シタリ当日ノ會議ニ依リ本使ノ得タル印象ニ依  
レハ仏、米、蘭三国公使ノ如キ其ノ各自ノ提案ヲ固持セン  
トスルノ模様無ク殊ニ米國公使カ本使ノ予期ニ反シ英案ニ  
反対ノ態度ヲ示サ、リシコトハ意外トスル処ニシテ或ハ大  
勢ハ英國提案ヲ採用スルニ至ルヘキカト思考セラルル処若  
シ我方ニ於テ英國案ニ対シ主義上ハ勿論「ディテイル」ニ  
付テモ何等異議アルニ於テハ委員會ヨリ外交団ニ移牒セラ  
レサルニ先タチ所見ヲ述ヘテ適宜調整ノ途ヲ講スルコト必  
要ト認メラルルニ付テハ何分ノ儀十九日(日曜)迄ニ御電  
訓アランコトヲ切望ス

五五一 八月十七日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

对中国通牒ニ関スル外交団會議ニ於ケル我方  
ノ対応振ニ付訓令ノ件

第五〇九号

貴電第七二九号ニ関シ

八月十日ノ对支通牒モ既ニ支那側ノ強硬ナル反对論ヲ惹起  
シ居ル処本件英國案ハ国有鉄道全体ノ警備統一及運輸會計  
ノ監督ヲ企図スルモノニシテ事態頗ル重大ナルニ鑑ミ本案  
ニシテ提議セラルルニ至ラムカ更ニ一層支那側ノ輿論ヲ刺  
戟スヘキハ勿論他方我國論ヲモ顧慮スルノ要アリ旁ラ政府  
ノ意見決定ニハ慎重措置ヲ要シ閣議ヲ経ルノ必要モアルニ  
付二十日ノ會議迄ニ訓令ヲ発スルコト困難ナリ就テハ当日  
ノ會議ニ於テハ貴官一個ノ私見ヲ述ヘラルルハ差支ナキモ  
政府ヨリ未タ訓令ニ接セサル旨明言セラレ専ラ他國側ノ意  
見ヲ聴取スルニ止メ何等決定ヲ見ルニ至ラサル様御配慮ア  
リ度シ

五五二 八月十七日(発) 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

对中国通牒英國案ニ対スル我方方針ニ付意見  
開陳ノ件

第七三五号(大至急)

往電第七二九号ニ関シ

我方ノ執ルベキ態度ニ付テハ折角御審議中ト思考スル処外

交団ノ大勢ハ既ニ英國案ニ傾キツツアリテ他國公使ニ於テ  
モ各自ノ意見ヲ支持セントスルノ決意アル模様モナク又帝  
國政府ニ於テモ既ニ主義上英國案ニ同意セラレタル次第モ  
アリ此際英國案ヲ基礎トシ公正妥当ノ見地ヨリ必要ノ修正  
ヲ試ムルノ外ナシト思考セラルル処英國案ノ骨子ハ当面ノ  
目的タル鐵道警備ノ問題ヲ超越シ塩務関稅ノ例ニ倣ヒ鐵道  
國際管理ニ一步ヲ進メントスルモノニシテ支那將來ニ対シ  
重大ナル結果ヲ齎スモノニ之レアリ從テ此際我方ノ執ルヘ  
キ方針ハ右國際管理ノ色彩ヲ薄クシ鐵道ニ対スル特定國ノ  
勢力進暢ノ弊ヲ防止シ出来得ル限り本来ノ目的タル鐵道警  
備充實ニ局限スルニ在リ右ノ見地ヨリ考フルニ英國提案中

(一) 外国 director ノ地位ハ諸鐵道ニ借款關係ヲ有スル  
各人ヲシテ數年間ノ期間ニテ就任スルコトトスルカ又  
ハ associate director ノ設置ヲ削除スルコトトスルコ  
ト  
(二) 運輸主任ノ問題ハ本来ノ目的タル警備問題ニ直接ノ  
關係ナキヲ以テ之ヲ削除スルコト  
(三) 會計主任ノ權限ヲ確實ナラシムルハ鐵道警備費支弁  
等ノ点ヨリ謂ヘバ望マシキ事ナルモ借款契約ニ依リ現ニ

外国人ヲ僱聘シ居ルモノノ外必ズシモ新タニ各鐵道ニ対  
シ聘任セシムル必要ナキコト  
以上三点ニ付適當ノ修正ヲ加フルコトトセバ差シ当リ前叙  
ノ憂慮ヲ防止シ得ベキカト思料セラル就テハ何分前述ノ如  
ク大勢既ニ英國案ニ左袒シツツアリト認メララルル今日該提  
案ノ骨子ヲ覆スニモ等シキ如上修正案ヲ容レシムルコト頗  
ル困難トハ思考スルモ(脱)同感ナルニ於テハ二十日會議  
ニ於テ御電訓ニ基クトシテ以上方針ニ依リ修正意見ノ提出  
ヲ試ムルコトト致シタク就テハ当方準備ノ都合モ有之ニ付  
御異存有之節ハ十九日夜迄ニ御電訓ヲ拝受スル様其旨御發  
電ヲ請フ

五五三 八月十八日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢公使宛(電報)

对中国通牒英國案ニ対スル我方ノ対応振リニ  
付訓令ノ件

第五一〇号 至急

貴電第七三五号ハ往電第五〇九号ト行違ヒタルコトト存ス  
ル処本件英國案ハ數日前始メテ入手セル次第ニテ目下折角

研究中ナルノミナラス右往電ニテモ申進シタル通将来ニ重大ナル影響アルモノニシテ慎重措置ノ要アリ忽急ニ政府ノ意見ヲ決定スルコト困難ニ付廿日ノ會議ニ於テハ御来示ノ修正意見ヲ貴官ノ私見トシテ述ヘラルルハ差支ナキモ政府ヨリハ未タ訓令ナキコトヲ言明セラレ成ルヘク深入リセル事態ニ導カサル様篤ト御配慮相成タシ

五五四 八月十八日（着） 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

鉄道警備問題英國案ニ対スル各国ノ同意ノ  
見通シ並ビニ我方方針回電方請訓ノ件

第七三七号

往電第七三五号ト行達ニ貴電第五〇九号接到、就テハ御訓示ノ趣旨ニ從ヒ適宜応酬致スヘシ尤モ迭次具報ノ通各国公使ハ其ノ態度ニ顧ミ多少ノ修正ハ兎ニ角大体英國案ニ同意ヲ表スルコトトナルヘク從テ本件ノ談合ヲ急クコトト思考セラル現ニ昨十七日夜和蘭公使ヨリ本件鉄道警備案ヲ外交団ヨリ支那政府ニ提出スル案文（此案文ハ即チ委員會ヨリ外交団ニ提出附議スル案文ナリ）ヲ送り越シタル様ノ次第

ルヘシト信ス

（奉天中継八月十九日前十時四十分）

五五六 八月二十日（発） 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

鉄道警備問題ニ関スル外交団會議ノ経過報告  
ノ件

第七四一号（至急）

貴電第五〇九号ニ関シ（鉄道警備問題）

二十日午前十時會議開催先ツ蘭国公使ヨリ往電第六三八号本使ノ同公使ニ対スル書面ノ内容ヲ披露シ右ハ本問題ノ討議ヲ差シ控ヘタシトノ趣旨ナルベキヤト諮リタルヲ以テ本使ハ日本政府ハ僅ニ数日前英國公使提案全文ヲ接（脱）シタルニ過ギザルヲ以テ本日迄ニ政府ノ確定的意見ヲ本使ニ訓示シ難シト謂フニ在リ本日討議ヲ続行スルニ対シテハ何等異存ナキ旨ヲ答ヘ討議ニ入ル、會議ノ経過大要左ノ通り

（一）和蘭公使ノ起草セル本件警備案ヲ外交団ヨリ外交部ニ進達スル公文案ハ協賛修正ヲ加ヘタル上各国公使ノ同

ニ付本問題ニ対スル帝國政府御方針ハ至急御決定ノ上一日モ速ニ御電訓アランコトヲ切望ス

五五五 八月十九日（着） 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

对中国公文案ニ関シ外交団會議ノ期日迄ニ我方政府訓令ノ接到困難ノ旨和蘭公使宛申入レ  
ノ件

第七三八号

往電第七三七号ニ関シ

已ニ和蘭公使ハ支那政府宛公文案ヲ送越シ委員會ノ議ヲ經タル上各国公使ノ同意ヲ得次第直ニモ支那側ニ發送ノ手続ヲ執ラントスル模様ナルニ拘ハラス二十日ノ會議ニ於テ突然本使ヨリ政府ノ訓令ニ接セサル旨ヲ披露スルモ如何カト思考シタルニ付右蘭国公使ヨリ公文案ノ送付アリタルヲ機トシ十八日同公使ニ宛本問題ハ目下帝國政府ニ於テ慎重攻究中ニテ二十日迄ニ本使ニ対シ何分ノ訓令ヲ与フルコト困難ナルヘシトノ電報ニ接セリトノ簡單ナル趣旨ヲ不取敢申入置キタリ右ハ委員會ノ決定ヲ遅延セシムル為ニモ有効ナ

意ヲ經タリ（委細公信報告ニ譲ル）

（一）警備問題ニ関スル英國案第三項ニ対シム国公使ヨリ一二修正意見出デタル結果討議ノ末第三項中“the detailed scheme shall”以下 orders of the directorate 迄ヲ七項ノ前段 the objects herein enumerated ノ次 this detailed scheme ノ前ニ挿入シ this detailed scheme then completed ノ次 shall be ノ前ニ together with the names of the foreign officers to be appointed and the terms of their contracts of service ヲ加ヘ同項末段 these foreign officers 以下 diplomatic body 迄ヲ削除スルコトトナリ右ノ外英國提案ニ対シ他各国側ニ於テ何等ノ異論出デザリシニ付本使ハ本提案ニ対シ差当リ日本政府ノ意見ヲ表明シ難キ旨ヲ保留声明シタルガ和蘭公使ノ發議ニテ兎ニ角本提案及外交部宛公文案ヲ外交団全部ニ回付シテ其意見ヲ聴クコトトナリ追テ本使始メ各国公使ノ意見一致シタル上ハ首席公使ヨリ外交部ニ送致スルコトナレリ

（三）米国公使ヨリ臨城事件公文ニ記載セル賠償額ヲ支那政府ニ通（脱）スル方式ニ付提議アリ評議ノ末首席公使

ヨリA、B、C諸項ノ「ランブサム」ノミヲ通告スルコトナレリ

五五七 八月二十日（発） 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

鉄道警備問題英國案ニ対スル政府方針ニ付至  
急回電方訓ノ件

第七四二号（至急）

往電第七四一号ニ関シ

当日ノ會議ニ於テ往電第七三五号各項ヲ本使ノ私見トシテ  
提言スルハ未タ政府御方針ノ大綱ヲモ承知セサル今日得策  
ニアラスト認メ之カ提言ヲ差控置タル次第ナルカ英國案カ  
本使ニ於テ留保ヲ声明シタルノ外他ノ各公使ニ於テ同意シ  
タル次第ハ前記往電ノ通ニ之アリ就テハ本問題カ我方ニ取  
リ頗ル重大ナル利害關係ヲ有スルハ申迄モナキ次第ナルモ  
元来英國案ノ骨子タル各鉄道ニ外国人ヲ聘任セシメ塩務等  
ト同様ノ組織ノ下ニ置クコトニ対シテハ已ニ在本邦英國代  
理大使ニ主義上同意ヲ表セラレタル行懸アルノミナラス本  
案ハ既ニ本使ヲ除クノ外主ナル各国公使ノ同意ヲ經外交団

(一)交通部鉄道総局ノ一部局トシテ鉄道警察管理局ヲ置キ支  
那人局長ト外国人会弁 (associate director) ヲ其長官  
トス

会弁ハ外交団ト協議ノ上其承認ノ下ニ支那政府ニ依リ任  
用セラル

兩者ハ同等ノ地位権限ヲ有シ職務執行通信等總テ兩者連  
名ヲ以テス

(二)管理局ハ交通部管理ノ鉄道全部ニ対シ警察隊ヲ組織シ之  
ヲ統制ス

(三)局長及会弁ハ任命後二ヶ月内ニ警察隊組織ニ関スル詳細  
ノ案ヲ立テ其ノ中ニハ一定數ノ外国人士官（約二十名見  
当）ヲ教官監督官等ニ備聘スルコトヲ規定シ外交団ノ承  
認ヲ經テ実施ス

(四)管理局及警察隊ノ所要人員ノ予定其經費予算ハ鉄道総局  
ノ承認ヲ要スルモ右承認ヲ得タルトキハ其範圍内ニ於テ  
管理局ハ配下ノ人員ニ対シ完全ナル支配權ヲ有ス

(五)管理局及警察隊費用ハ鉄道收入ヨリ支弁ス右支弁ヲ確保  
スル為メ鉄道総局ハ各鉄道ニ外国人會計主任ヲ聘用シ外  
交団ノ満足スル方法ニ依リ鉄道收入ヲ安全ニ保管シ鉄道

全部ニ於テモ多分異議ナシト観測セラレ旁此際我方ヨリ全  
然新規ナル基礎ニ依リ対案ヲ提出スルモ右当地ニ於ケル大  
勢ヲ覆ヘシ其ノ議ヲ纏ムルコト不可能ト認メラルルニ付テ  
ハ我方ニ於テ対案ヲ提出スル場合ニ於テモ出来得ル限り英  
國案ヲ基礎トスルト同時ニ帝國ノ利益ヲ顧念セル適當ノ調  
整ヲ試ムルノ方針ニ出ツルヨリ致シ方之ナキニ付其ノ辺篤  
ト御酌量ノ上成ルヘク速ニ政府ノ御方針御決定ノ上御電訓  
ヲ請フ

五五八 八月二十二日（発） 内田外務大臣ヨリ  
在米國壇原大使宛（電報）

鉄道警備問題ニ関スル英國提案通報ノ件

第四三五号

本省発在英大使宛往電第二二九号ニ関シ  
鉄道警備ノ具体案ハ追テ支那政府ニ申入ルコトナリ居  
レル処今般在支英國公使ヨリ要旨左ノ如キ提案アリ我方ニ  
於テハ目下攻究中ニシテ尚賛否ヲ言明セサルモ主ナル國ノ  
公使ハ既ニ同意シタル趣ナリ

左記

局局長及會計主任ノ共同監督ノ下ニ之ヲ鉄道及鉄道債務  
ノ為メニノミ使用スルヲ得セシムルカ如キ方法ヲ講スル  
コト

又鉄道ノ運行ヲ改善シ收入ノ増加ヲ計ル為メ各線ニ外国  
人運輸主任ヲ聘用ス

(四)取極ノ期限ヲ十ヶ年トシ其ノ後之ヲ存続スヘキヤ否ヤ等  
ハ支那政府ト外交団トノ協議ニ依リ決定ス

仏伊英ヘ転電アリ度シ

五五九 八月二十三日（発） 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

对中国通牒ニ対スル全国商界連合会等ノ反对  
運動ニ付報告ノ件

第七四八号

当地全国商界連合会ハ臨城案通牒ニ対シ各省商務總會ニ通  
電シテ各国ノ要求ニ反对ノ氣勢ヲ揚ケシメント協議中ナリ  
シカ二十二日大要左記電文案ヲ可決シ直ニ發送スルコトト  
ナレル由ナリ

臨城事變ハ我國朝野ニ於テ事前ニ防備ノ法ナク事後ハ安全

ニ旅客ヲ救出セリ元排外ノ心ナク全ク団匪ノ場合ト同シカ  
ラス然ルニ各国ノ賠償要求タル団匪条約ニ根拠シ主權ヲ犯  
サントス華府會議ニ於テ列國ハ公理ヲ世界ニ表示セシニ拘  
ラス今ヤ却テキョウケンノイギヲ逞フセントシ我商民ノサ  
ンノ危キノミナラス亡國ノ慘ヲ見ントス痛嘆坐視スルニ忍  
ヒス望ムラクハ各界一致シ理ニ依テ要求ヲ反駁センコトヲ  
当局ニ電報シ以テ國體ヲ毀ケ主權ヲ失セサランコトヲ云々  
尚曹錕ハ二十日往訪セル日本新聞記者ニ對シ一地方警備ノ  
粗忽ニ出テタル事件ニ付列國カ鐵道共管ヲ云為スルハ奇怪  
極マルコトナリト卓ヲ叩キテ憤慨シ吳佩孚ハ米國通信員  
ニ對シ列國ハ臨城事件ノ小過ニ口ヲ藉リテ直ニ支那ノ共管  
ヲ叫フ果シテ如何ナル成算アリヤト詰問セシ由ナリ此ノ外  
山東全省軍界ヨリハ十七日附、山東紳商學法各界ヨリハ十  
九日附ニテ激烈ナル反對通電アリ又北京教育會ニ於テモ目  
下寄々協議中ニテ近ク反對示威運動等ニ出テントスル氣勢  
アリト云

(奉天中継廿三日後五)

五六一 八月二十三日 (発)

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

鐵道警備問題ニ關スル米國公使トノ會談ニ付

報告ノ件

第七五五号

往電第七五四号ニ関シ

會談後本使ハ支那鐵道警備問題ニ言及シ委員會ニ於テ日本  
政府ノ意見ヲ留保シ置タルカ帝國政府ノ訓令ハ或ハ米公使  
旅行中到達スルコトナルヤモ測リ難シ実ハ本使ニ於テハ  
委員會去ル二十日ノ會議ヲ以テ全ク終結セルモノトハ思量  
セス從テ本國政府ヨリ何等訓令ニ接シタル節ハ之ヲ委員長  
タル蘭國公使ニ通報シ委員タル各國公使ニ通告方ヲ申入ル  
ル所存ナル旨ヲ述ヘ本問題ノ重要ニシテ相當慎重ナル考慮  
ヲ要スヘキコトヲモ指摘シテ米國公使ノ底意ヲ探究スルニ  
努メタルニ同公使ハ委員會カ全然終結シタルモノニアラス  
トノ本使ノ所見ニ同感ノ意ヲ表シ從テ各國公使ハ今後何時  
ニテモ自由ニ其ノ意見ヲ發表シ得ヘキ筋合ナル旨ヲ答ヘタ  
ル上本問題ニ對スル日本側ノ意向ヲ叩キタルヲ以テ本使ハ  
日本政府ハ相當本問題ヲ重要視シ居ルヲ以テ何等カノ修正

九 臨城事件 五六一 五六二

五六〇 八月二十三日 (着)

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

鐵道警備問題ニ關スル外交団會議内容ノ新聞

漏洩ニ付報告ノ件

第七四九号

鐵道警備問題ニ關スル會議ノ經過ニ對スル内容ニ付テハ當  
地新聞紙ニ於テ種々ノ揣摩臆測ヲ伝ヘ來レル処二十日委員  
會後既ニ外國通信員ノ一部ニハ本件ノ内容ヲ探知セルモノ  
アリタル模様ニテ次テ二十一日「北京リーダー」ハ比較的  
公正ヲ得タル詳細ノ報道ヲ掲ケタル為公使中ニハ多少神經  
ヲ悩マシ居ル向アルヤニ承知セルモ右ハ素ヨリ日本ヨリ漏  
洩セルモノニアラス當館ニ於テハ右記事ノ確否ニ付新聞記  
者通信員等ノ質問ニ對シ之ヲ肯定セサルト同時ニ否定モセ  
サル態度ニ出テツツアル次第ナルカ当地新聞通信員等モ本  
問題ノ重要ナルニ顧ミ二十二日會合ノ上國論喚起ノ為何等  
カノ決議ヲ為シ夫々各本社ニ打電セルヤノ趣ナリ御參考迄

(奉天中継二十三日後一、一〇)

意見ヲ提出スルコトアルヘキカト思考スル旨輕ク答ヘタル  
ニ同公使ハ実ハ英國案ノ内容ニ付テハ二十日委員會後初メ  
テ「フューズ」國務卿ニ電報シ右ニ對スル米國政府ノ的確  
ナル訓令ハ二十九日北滿ニ出發前受領シタキ旨附言シ置タ  
ル次第ナル旨述ヘタルニ付本使ヨリ試ミニ英國案全文ヲ電  
報シタリヤト尋ネタルニ全文ニハアラサルモ英國案ノ骨子  
ハ自分ノ電報ニ依リ國務省ニ於テ十分會得シ得ヘシト信ス  
ル旨ヲ述ヘ尚種々本使ノ推問ニ答ヘテ英國案ハ其ノ「メリ  
ット」如何ハ姑ラク之ヲ措キ頗ル綿密且行届キタル提案ニ  
シテ極メテ「タクトフル」ト思考スル旨ヲ語レリ御參考迄  
尚本問題ニ關スル他國側ノ底意如何ニ付テハ今後トモ好機  
會アラハ成ルヘク各國公使トノ接觸ヲ計リ其ノ所見ヲ探知  
シタキ所存ナルモ出來得ヘクンバ帝國政府ノ御意向承知シ  
置ク方便利ト思考スルニ付テハ何日頃御訓令ニ接シ得ヘキ  
ヤ御電示アリタク若シ尚相當手間取ルニ於テハ大体ノ御内  
意ナリトモ御垂示ヲ得ハ好都合ト存ス

五六二 八月二十四日 閣議決定

中国鐵道警備英國案ニ對スル修正提議ニ關シ

## 閣議決定ノ件

大正十二年八月廿四日閣議

決定

在支

内田 大臣

芳沢 公使 宛

貴電第七四二号ニ関シ

鉄道警備ニ関スル英国案ハ形式のニハ支那政府傭聘者タル外国人ノ手ニテ鉄道警備ノ改善ヲ図ラムトスルモノナルカ如キモ実質的ニハ主トシテ外人ノ手ニテ支那国有鉄道全部ノ警備改善延キテハ鉄道ノ経営自体ニモ関与セントスルモノニテ單純ナル警備問題タルニ止マラス政治上經濟上頗ル重要ノ關係ヲ有スルモノト認メラル

帝國政府ニ於テハ真ニ鐵道交通ノ安全ヲ期スル見地ヨリ支那政府カ警備ノ改善ニ努力スルニ対シ相当ノ援助ヲ与フルコトハ素ヨリ之ヲ辞スル次第ニアラサルモ其ノ程度乃至方法ニ付テハ諸般ノ關係上慎重攻究ヲ要スル次第ト存シ篤ト詮議ノ結果英国案ニ対シ左記ノ趣旨ニ從ヒ適宜修正方提議スルコトニ決定セリ

一、鉄道警備ノ改善ハ支那政府ノ全責任ヲ以テ之ニ当ラシムルコトトシ苟クモ外国側ニ於テ其ノ責ヲ分ツカ如キ感想ヲ与フル仕組ハ絶対ニ之ヲ避クルコトト致度從テ英国案ノ如ク種々ノ点ニ於テ殊ニ警察隊ノ組織及統制 (management) 方案等ニ付外交団ノ承認ヲ条件トスルカ如キコトハ之ヲ避ケ此等ハ原則トシテ支那側ニ一任シ外交団ニ通告セシムル程度ニ止メタシ若シ支那側ニ於テ其ノ措置誠実ヲ欠クカ如キ場合ハ外交手段ニ依リ之ヲ矯正スル方途ニ出ツルコト然ルヘシ

二、鉄道警備機關ノ統一ヲ図ル為メ中央ニ鐵道警察管理局ヲ置キ支那人ヲシテ其ノ局長タラシムルコトハ素ヨリ差支ナキモ右局長ト同一ノ權限及地位ヲ有スル外人タル Associate director ヲ置クコトハ同管理局カ鐵道警備ノ全權ヲ有スル仕組ナルニ顧ミ事実上外人ニ於テ鐵道警備ヲ統制スル結果トナリ臨城事件公文ニ記載セル *Contrôle d'officiers étrangers* (監督ノ意味合) ノ趣旨ヲ超越スルノミナラス前記第一項ノ精神ニモ顧ミ同意ヲ困難トスル所ナリ尤モ已ムヲ得サル場合ニハ支那人局長ノ顧問トシテ外人 (例ヘハ「ムンテ」ノ如キモノ) ヲ傭聘

セシムル程度ナラハ強テ異存ナシ將又先般在本邦英国代理大使ノ申出ニ応シ警備ニ付キ外人ヲ傭聘セシムルコト主義上異議ナキ旨回答シタルハ御承知ノ通りナルモ右ハ當時警備改善ノ任務ヲ有スル外人ヲ外交団ノ監督下ニ置クヘシトノ議論モアリタルニ付右外人ハ支那政府ノ傭聘者タルコトヲ要スル主義ヲ明確ニシタル迄ニテ塩務ニ於ケルト同様ノ組織トナスコト迄同意ヲ為シタル趣旨ニハアラサルニ付此点貴官ニ於テ誤解ナキ様致度シ (往電第四一六号第四一九号及第四五四号ノ一参照)

三、英国案ノ如ク此際支那国有鐵道全部ニ亘リ警備ノ改善ヲ図ルコトハ余リニ早急ニ失スルノミナラス支那側ニ疑惑ノ念ヲ与ヘ却テ実績ヲ挙クル所以ニアラサルヘシト思考スルニ付差当リ外人ノ通行最モ頻繁ナル二三幹線例ヘハ津浦京漢ノ如キ鐵道ニ対シ実施シ其成績ヲ案シ必要ニ応シ徐ニ他ノ鐵道ニ及ホスコトト致度シ

四、運輸主任及會計主任ノ件ハ左ノ二点ニ付考慮ヲ要ス

(イ) 右兩主任ヲ配置セントスル眼目ハ元來警備費ノ捻出及其確保ニ存スルニ顧ミ普通ノ借款鐵道ニ於ケルカ如ク債權ノ確保ヲ図ラムトスルモノトハ自ラ其性質ヲ異ニ

シ從テ之ト全然同一ノ權限地位ヲ与フルノ必要ナカルヘシ就テハ專ラ警備費捻出ノ見地ヨリ差向キ先ツ相当ノ權限ヲ有スル外人ヲ會計主任トシテ傭聘セシムルコトヲ主眼ト致度シ

(ロ) 本問題ニ付テハ屢次往電ノ通り利權の導念ニ胚胎スルカ如キ要求ハ飽迄モ之ヲ排斥スルコトト致度從テ万一英国側力之ヲ利用シ津浦鐵道ニ対シ同国人ノ傭聘ヲ主張スルカ如キ場合ニハ往電第四五四号ノ二ノ趣旨ニテ可然措置相成度シ

貴官ハ前記帝國政府ノ方針ヲ体シ速ニ委員會ノ会合 (右同意ヲ得難キ場合ニハ公使団會議召集) ヲ求メ關係公使ニ対シ篤ト必要ナル説明ヲ与ヘ帝國政府ハ支那ニ向テ外人ノ生命財産ノ安全ニ対シ有効ナル保障ヲ要求スルコトニ付關係諸國ト協力ヲ辞スルモノニアラサルモ支那ノ政情著敷安定ヲ欠キ責任アル中央政府ノ存在スラ疑ハルル今日支那民心ノ反感ヲ挑発スルカ如キ措置ハ努メテ之ヲ避ケサルヘカラストノ見地ヨリ排日問題ニ対シテモ隱忍自重徐ニ支那官民ノ反省ヲ促シ居ル次第ナルカ他面日本ノ對支輿論モ近時殊ニ華府會議以後著敷寛容ニ傾キ現ニ排日問題ニ関シ一部

実業家及政治家家中極端ナル強硬論ヲ主張セルモノアルモ大勢ハ之ニ賛同セサル状況ニシテ今次ノ鉄道警備問題ニ対シテモ反對論相当高マリツツアリ右ハ要スルニ日支兩國力接壤國トシテ政治上經濟上特殊緊密ナル關係ニアリ從テ飽迄親善關係ヲ鞏固ナラシムル為支那ニ對シ出来得ル限り公正寛容ノ態度ニ出テサルヘカラストノ自覺心ニ胚胎スル現象ナルヲ以テ帝國政府トシテハ此健全ナル経路ヲ進ミツツアル國論ヲ尊重セサルヘカラサルコトヲ敷衍説明シ我修正意見ノ貫徹ヲ見ル様精々御尽力相成結果委曲電報相成タシ尚万一ニモ關係公使ニ於テ臨城事件公文ノ場合ノ如ク急速同意ヲ求ムルカ如キ態度ニ出テタルトキハ貴官ニ於テ帝國政府從來ノ協調方針ヲ切言シ斯ル重要問題ニ関シ支那ニ對シ特殊緊密ナル關係アル日本ニ向テ急速回答ヲ迫ルノ不条理ナルコトヲ切言シ引続キ我態度ヲ留保セラルル様致タシ將又本件ハ今後幾多曲折アルヘント思料スル処帝國政府ニ於テハ出来得ル限り速ニ結着ヲ附ケタキ方針ニ付必要ナル事項貴官ノ意見ヲ具シ隨時電報アリタシ

(冒頭上欄註)

本案ハ加藤總理薨逝二時間前ニ決定即日發電セラレタ

不取敢極東部長ニ申入レ方可然御取計相成度シ

右參考トシテ別電ト共ニ英仏伊ニ転電アリタシ

編註 前掲八月二十四日附閣議決定ト同文ニ付省略

## 五六四

八月二十六日(着) 在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

警備案ノ内容漏洩ニ関シ英國公使來訪ノ件

## 第七六四号

八月廿四日英國公使來訪北京「デイリー・ニュース」ニ掲載セラレタル日本記者團ノ決議(往電第七四九号末段參照)ヲ示シ委員會ニ附議セラレタル警備案ノ内容漏洩シ昨今各新聞紙ノ論議喧シキヲ啣チ前記者團ノ決議ノ如キモ或ハ本使ノ默認ノ下ニ行ハレタルガ如キ邪推ヲ有スルヤニモ思料セラレタルヲ以テ本使ハ右決議ハ本使ハ勿論當館トハ何等ノ關係ナク現ニ北京「リーダー」ニ掲載セラレタルカ如ク記者團ニ於テハ寧ロ日本公使館ガ本問題ノ真相ヲ卒直ニ説明セザリシニ對シ不快ノ念ヲ有スルモノ、如キノミナラズ本使ニ於テハ順天時報社ニ對シ本問題ニ関シ過激ノ議論ヲ加フルハ面白カラザル旨注意シ置キタル次第ナルガ右ハ

リ(出淵)

編註 本閣議決定ハ八月二十四日内田外務大臣ヨリ在中國芳沢公使宛ニ同文發電(第五一四号至急)サレタリ

五六三 八月二十四日(発) 内田外務大臣ヨリ  
在米國壇原大使宛(電報)

鐵道警備英國案ニ對スル我方ノ修正案ニ付米

政府ニ申入レ方訓令ノ件

## 第四三七号 至急

貴官ハ可成速ニ國務卿ニ面会ノ上往電第四三五号鐵道警備ニ関スル英國案(在支米國公使ハ何等論議スルコトナク之ニ同意セリ)及ヒ別電第四三八号中段帝國政府ノ修正意見ヲ披露シ我修正案ハ畢竟華府會議ノ精神ヲ尊重スル見地ニ出テタル次第ナルコトヲ別電前段及後段ノ趣旨ニテ可然說明シ國務卿ト腹藏ナク意見ヲ交換セラレ同卿ニ於テ帝國政府ト所見ヲ一ニスル点アリタルトキハ直ニ米國政府ヨリ在支米國公使ニ必要ナル訓令ヲ發シ本件ニ付更ニ各國公使トノ間ニ協議セシムル運トナル様御配慮相成結果回電アリタシ万一國務卿差支ノ為メ急速会见ノ運ニ至リ難キ場合ニハ

北京「リーダー」ガ其社説ニ於テ各漢字新聞ノ過激ナル論調ニ比シ独リ順天時報ノ所論ガ微温のナリト叙シタルニ徴スルモ諒解セラルベキカト思考スル旨然ルベク応酬シタル処英國公使ハ英國側ニ於テ偶々鐵道警備案ヲ起草シタル為昨今英國ニ對シテ反感盛ナルハ迷惑至極ナリトテ幾回モ愚痴ヲ繰返シタル上日英米ノ如キ大國ノ會議ニ於テハ殆ト内容漏洩ノ虞ナキモ小國ノ參加スル場合ニハ動モスレバ其内容暴露セラル、事アルハ遺憾ナリ実ハ当初ハ米國公使館ヨリ洩レタルニアラザルカトノ疑念ヲ抱キタルモ豈夫同館ニテ洩レタリトモ認メ難ク白耳義公使館ハ支那人ヲ「セクレタリー」ニ雇傭セルニ付其辺ヨリ伝ヘラレタルモノニアラズヤト思料シ居ル旨述べタルヲ以テ本使ハ日本ガ常ニ關係列國ノ協調ヲ破ラザランガ為努力シツ、アル次第ハ之ヲ諒トセラレ度ク実ハ本使ニ於テモ其外國記者ガ某外國公使館ヨリ警備案ニ関スル商議ノ内容ヲ探知シ之ヲ北京「リーダー」ニ供給セルヤノ趣ヲ耳ニセルモ固ヨリ真否ヲ保シ難シト答ヘタル処英國公使ハ過日ノ委員會ニ附議セラレタル警備案ハ外交團全部ノ同意ヲ經テ外交部ニ提出セラル、以上該案ハ即チ外交團全部ノ支持セントスル処ニシテ独リ其起

案者ノミ其責ニ任ズベキモノニアラズ兎ニ角最近外交団會議開催ノ節ハ會議ノ内容漏洩禁止方ニ関シ何等提議致度所存ニ付其辺ニ付本使ノ支持ヲ得度キ旨提言シタルニ付肯肯シタル処英國公使ハ尚モ昨今ノ輿論ノ趨向ニ当惑シツ、アル旨ヲ繰返シ其旨「カーゾン」卿ヘモ電報シタル旨ヲ附言セリ

(奉天中継八月廿六日后〇、四〇)

五六五

八月二十六日(着)

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

臨城事件ノ善後措置ニ付日本ノ援助打診ニ

關スル件

第七六五号

外交総長ノ内意ヲ受ケタルモノナルヘク二十三日熊ハ吉田ニ対シ臨城事件ニ関シ日本ハ如何ナル程度迄支那ヲ助ケ呉レルヘキヤ若シ援助ヲ得サル時ハ支那ハ或ハ中途ニテ挫ケサルヘカラス本件一ニ日本ノ態度ニ依リ決セラルヘシト語リシニ付吉田ハ私見ニテハ支那ハ相当ノ賠償ヲ為シ進ンテ鐵道警備其ノ他尽スヘキコトヲ自ラ為サハ日本ハ支那ヲ助クヘシト思フト答ヘ置ケリ

(奉天中継八月二十六日午後〇、四五)

五六六

八月二十九日(着)

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英國鐵道警備案ニ対スル日本側修正案ノ討議

經過報告ノ件

第七七八号(至急)

(編註)

貴電第五一四号二十五日接到早速委員會ノ会合ヲ求メタル結果二十八日午前十一時委員會開催セラレ劈頭和蘭公使ヨリ最近會議ノ内容漏洩ノ事実ニ関シ各國公使ノ切実ナル注意ヲ喚起シタク今後一層嚴密ナル用意ヲ払ハレタキ旨ヲ述ヘタリ次テ本使ヨリ警備問題ニ関スル日本政府ノ意見開陳アルヘキ旨ヲ披露シタルヲ以テ本使ハ貴電第五一四号各項ノ要領訳文(Associate Directorノ代リニ已ムヲ得サレハ顧問ヲ入ルルコトニ異存ナシトノ一項ハ掲記セス二十八日委細郵報)ヲ各國公使ニ配布シ且貴電ノ趣旨ニ基キ然ルヘク敷衍説明ヲ与ヘタル後討議ニ入レリ會議ノ經過要領左ノ如シ

一、貴電第五一四号中(一)ニ関シ仏國公使ハ日本案ニ依レハ

警備計画ノ作製ハ之ヲ支那側ニ一任シ外交団ニ通告セシムルヲ以テ足レリトスルモノナルモ支那側ヨリ右通告ニ接シタル場合果シテ誠意アリヤ否ヤニ付外交団ニ於テ意見ヲ加フルコトアルヘキ旨ヲ留保シ置クコト然ルヘシト述ヘ他國公使中ノ同意スル者アリ且獨リ右計畫カ真ニ誠意ニ基クモノナリヤ否ヤニ関シテノミナラス之カ実行ニ際シテモ何等意見ノ提出ヲ留保スルコト然ルヘシトノ意見出テタルヲ以テ本使ハ日本政府ノ意向ハ支那側ニ於テ其ノ措置誠実ヲ欠クカ如キ場合ニハ外交手段ニ依リ之ヲ強制スル方途ニ出スルコト然ルヘシト謂フニアリ從テ警備計画ノ内容ノミナラス其ノ実行ニ関シテモ之カ強制ノ為意見ヲ提出スルニ差支ナキ次第ナル旨説明セリ

次テ貴電第五一四号中(二)ニ関シ米國公使ヨリ Associate

Directorノ代リニ外國人顧問ヲ傭聘セシムルコトトセハ如何トノ提言アリタルニ付本使ヨリ顧問トシテ傭聘セシムル程度ナラハ日本政府ニ於テモ強テ異存ナカルヘシト答ヘタルニ米國公使ハ然ラハ右顧問ノ權限ヲ如何ニスヘキヤ日本政府ノ意見ハ要スルニ支那人局長ト同一ノ權限及地位ヲ有スル外國人ヲ Associate Directorトシテ任用セシム

ルハ不可ナリト謂フニアルカ如シ果シテ然ラハ外國人ノDirectorノ權限ト支那人局長トノ權限ニ差等ヲ附スルニ於テハ強テ差支ナキニアラスヤト諮問シタルヲ以テ本使ハ顧問ノ權限ニ付テハ政府ノ訓令中詳細ニ言及スル所ナシト雖顧問ノ本務ハ畢竟諮詢ニ応シテ意見ヲ具申スルモノニ外ナラスシテ例ヘハ「ムンテ」將軍ノ任務ノ如キ即チ是レナリト然ルヘク応酬シタルニ米蘭兩國公使ハ顧問ニテハ實權ヲ有シ難キ旨ヲ唱ヘ殊ニ蘭國公使ハ現ニ支那ニ於ケル外國人顧問カ殆ト有名無実ノ空位ヲ擁スルニモ等シキ実情ニアル旨ヲ指摘シタルニ付更ニ本使ハ我方主張ノ本旨ヲ繰返シ我真意ハ鐵道警備局ノ行政ニ参加スルヲ不可ナリトナシ監督ノ程度ニ止メ度キ趣旨ナル旨ヲ力説シタル処米國公使ヨリ Vice directorト改ムベシトノ提言アリ且右ニ対シ Vice directorニ鐵道警備ニ關スル一切ノ事項ヲ協議セシムル事トセバ可ナルベシトノ意見モ出デタルガ英國公使モ右 Vice directorノ説ニ強ヒテ異論無ク唯我が他借款鐵道ニ於ケル技師長ノ如ク Vice directorハ外交団ト協議ノ上任命スル事ト為ス方然ルベシト附言シタルニ付本使ハ一切ノ事項ヲ Vice directorニ協議セシムル事トスルニ於テハ事實上 directorト同一ノ權限ヲ有スル結果ニ陥リ易キ次

第ナルガ一切ノ決定権ハ支那人 director ノ掌中ニアリト解シ然ルベキヤト推問シタルニ各国公使トモ何レモ然リト答ヘタルヲ以テ果シテ然ラバ本使ノ関スル限り考慮ノ余地無キニ非ズト思考スルモ勿論政府ニ請訓ノ必要アル旨述ベタル処各国公使モ之ヲ諒トシ兎ニ角前記ノ評議ヲ基礎トシ二十日委員会ニ於テ修正ヲ加ヘタル英国案中第一項ヲ左ノ通修正ヲ試ムル事トセリ

第一項 foreign associate director ヲ foreign vice director ト改メ the latter shall have 以下 acceptable to them 迄 the latter shall be appointed by the Chinese Government in consultation with the Diplomatic Body. It shall be the duty of the Chinese Director of the Railway Police to consult the Foreign Vice Director on all matters affecting railway police ト改メ

二、貴電第五一四号中(三)ニ関シ蘭国公使ハ我カ修正意見ニ進ンデ賛同ノ意ヲ表シタルガ右ニ関シ仏国公使ヨリ本件ハ支那側宛警備案ヲ通告スル公文中ニ追テ支那側ヨリ其ノ起草セル警備計画(detailed scheme)ヲ送り越ス場合外交

団ニ於テ意見ヲ加フル事アルベキヲ保留スルト同様本件主要幹線ヨリ実施スベキ事ヲモ申入ルレバ可ナルベシト提言シ彼は評議ノ末英国案第二中 of which list 以下 will be extended thereto 迄 以下 commencing with the trunk lines Peking-Hankow, Tientsin-Pukow and to be gradually extended to all other railways under the control of the said Ministry ト改メ

三、英国案第三項中 associate director ト改メ且同項末段 the terms of their contracts of service 以下全部ヲ單ニ shall be notified to the Diplomatic Body ト改メル事トス

四、貴電第五一四号中(四)運輸主任ノ問題ニ関シ英国公使ヨリ日本案ハ要スルニ今回ノ會計主任ハ一般借款鉄道ニ於ケルガ如ク債權確保ヲ計ラントスルモノトハ自ラ其ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ其ノ本来ノ主眼タル警備費ノ支出保全ヲ其職務トスルコトニ局限シタシトノ趣旨ト解シ然ルベキヤト質シタルニ対シ米国公使ハ右ハ英国公使見解ノ通ナル可キモ尚右ノ外其職權ノ範圍内ニ於テハ一切ノ全權ヲ有セシメザル可カラザル旨ヲ述ベタルガ英国公使ハ昨日ハ本案実行

## 第七七九号(至急)

往電第七七八号ニ関シ

二十九日委員会會議ノ經過要領左ノ通り

一、英国公使ヨリ英国案第八項及第十二項ヲ合併改案シ別電第七八〇号ヲ第八項トスベシトノ提議アリ各国公使ヨリ何等反対意見モナク一応之ヲ採択スルコトナレリ

二、次デ本使ヨリ前回討議セラレタル vice director 案ハ日本政府ノ意嚮ニ合致セザル嫌アリ其真意ガ一般顧問ノ如ク空位ヲ擁スルニ過ギザルハ不可ナリトノコトナルニ於テハ該顧問ニ実權ヲ与フルコトトセバ可ナルニアラズヤトテ重ネテ顧問説ヲ提言シタルニ米国公使ハ然ラバ vice director ヲ adviser ト改ムルハ可ナルベシト応酬シタルニ付本使ハ右ニテハ猶本使ノ意向ニ副ハス該顧問ニ諮問スルヤ否ヤハ支那政府当局ノ裁量ニ依ル旨ヲ明ニシタク例ヘバ支那人局長ニ於テ必要ト認ムル事項ニ付諮問ストノ意味ヲ明ニシ置キタシト述ベタルモ各国公使ハ皆

反対ノ色ヲ示シ米国公使ノ如キモ明白ニ反対シ super-viser ニテハ如何トノ提言アリタルモ之亦各国公使ノ同意ヲ得ルニ至ラス結局本使ノ意向ヲモ酌量シ英国案第一

五六七 八月二十九日(発)

在中国芳沢公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

鐵道警備ニ関スル委員会會議ノ經過要領報告

ノ件

別電

同日芳沢公使發内田外務大臣宛電報第七八〇号

鐵道警備ニ関スル英国側提議ノ第八項

項前段“Chinese Director of Railway Police”ノ次ニ  
 “who shall be assisted by a foreign vice director”ヨ  
 増加スベシトノ折衷案出デ本使ヲ除クノ外各国公使之ニ  
 賛同セリ

三、英國案第五項中 directors … directorate ヲ改メ  
 四、英國案第六項ヲ左ノ通り改メ

“All business and correspondence in the Directorate  
 relating to appointment, dismissal and service con-  
 tracts of the foreign officers and to the issuance of  
 paying orders shall bear signatures of the Director  
 and the Foreign Vice Director”

右英國案第十項中 any movement … any such move-  
 ments ト改ム

五、英國案第十二項ヲ削除シ第十三項ヲ第十二項トス  
 六、前回ノ談合ニ顧シ本件警備計画案ヲ外交團ヨリ支那政  
 府ニ送致スル公文案（八月二十日附機密第七二七号拙信  
 参照）ニ左ノ一節ヲ加フルコトセリ（津浦京漢二鐵道  
 ニ付テハ第二項ノ規定ノミニ止メ公文中ニ書キ入レザル  
 コトトナレリ）

“I have to add that the Diplomatic Body reserve  
 the right in case the detailed scheme referred to in  
 Paragraph 3 in the general plan is not in their opin-  
 ion calculated to accomplish their object set forth  
 therein, to make representations to the Wai Chiao Pu  
 with a view to its amendment”

七、以上ヲ以テ我修正意見ニ対スル一応ノ討議ヲ了ヘタル  
 次第ナルヲ以テ本使ハ委員会ハ本日ヲ以テ會議ヲ結了セ  
 ルモノトハ思考セズ委員会討議ノ結果ニ対シテハ一応政  
 府ニ請訓スルニアラザレバ賛否ヲ表シ難キ旨ヲ述ベタル  
 処委員長タル蘭国公使ハ右本使ノ所言ヲ諒トシ今後必要  
 ト認ムル場合ニ更ニ會議ヲ開クヘキ旨ヲ宣シ散会シタル  
 ガ米国公使ハ予定ノ通り今二十九日離京北滿旅行ノ途ニ  
 上ル筈ナリ

尚前後四回ノ會議ニ於テ各国公使ノ支那ニ対スル觀察ヲ查  
 察シ得タルガ英國公使ハ勿論米国公使其他各国公使ハ何レ  
 モ支那ノ現状ヲ悲觀スル而已ナラズ之ヲ非難スルモノ比々  
 概ネ然ル有様ニシテ此際進デ同情ヲ以テ援助ノ実ヲ拳ゲン  
 トスルモノナキハ勿論寧ロ如何ニ支那ヲ束縛シ且之ニ拘束

ヲ加フヘキカヲ焦慮シツツアリト謂フモ過言ニアラズシテ  
 華府會議ノ結果及精神ノ實現ノ如キ各公使共嘗テ一回モ言  
 及シタルコトナキ其言説ニ顧シ全然之ヲ念頭ニ置カザルモ  
 ノノ如シ

（別冊）

No. 780 (urgent)

The entire expenditure for Police purposes of  
 each railway shall be met from the gross revenue of  
 that line and the foreign chief accountant of the  
 railway shall be charged by the Directorate-General of  
 Railways with the duty of setting aside and safe-  
 guarding and disbursing the necessary funds to meet the  
 budgetary requirements of the Railway Police. In order  
 that the provisions of the preceding paragraph may  
 be regularly carried out on railways where foreign  
 chief accountants are not already responsible for the  
 custody of the railway funds, the Directorate-General  
 of Railways undertakes to place in the hands of  
 foreign chief accountants on such lines the duty of

setting aside, safe-guarding and disbursing sufficient  
 funds from the revenues to meet the requirements of the  
 Railway Police expenditure as provided in Article 7.  
 Yoshizawa.

五六八 八月三十日（発）  
 内田外務大臣ヨリ  
 在中国芳沢公使宛（電報）

鐵道警備ニ関スル我方ノ修正意見ニ付駐日英  
 國代理大使宛説明振り申進ノ件

第五二四号

八月二十九日英國代理大使亜細亜局長ヲ來訪シ同官一個ノ  
 裁量トシテ臨城事件鐵道警備案ニ対スル帝國政府ノ修正意  
 見ヲ承知シ度キ旨述ヘタルニ付局長ヨリ往電第五一四号中  
 段修正条項ノ大要ヲ告ケ同電前段及後段ノ趣旨ヲ篤ト説明  
 シ且局長一個ノ意見トシテ近年殊ニ華府會議以後支那ニ対  
 スル我一般輿論著シク公正寛容トナリタル事実ヲ詳細ニ述  
 ヘ其ノ一例トシテ曩ニ排日問題ニ関シ日華実業協會商業會  
 議所対支国民同盟會力連合大会ヲ開キ強硬ナル決議ヲ通過  
 シタル際多數ノ新聞記者出席シ居リタルニ拘ラス翌日ノ新

聞紙ノ多クハ之カ記事トシテ僅カニ十数行ヲ費シタルニ過キサリシコトヲ指摘シ今次ノ鉄道警備案ニ対シテモ其内容北京方面ヨリ漏レ伝ハルヤ(局長ヨリ Peking Leader 真先ニ素破抜キタル趣ナリト述ヘタルニ代理大使ハ自分モ同様ノ報道ニ接シ居レリト答ヘタリ) 国論沸騰シ一時事新報ヲ除ク外重要新聞拳テ反对ヲ主張シ各政党モ等シク反对ノ意見ヲ抱キ居ル狀況ヲ告ケタル上政府自身ノ見ル処ト国論ノ帰向殆ト一致セル本問題ニ対シテハ政府ニ於テ飽迄其ノ修正意見ヲ主張セサルヘカラサル立場ニアルコトヲ反覆説示セリ將又右会談ノ際代理大使ハ警備案ノ要点ヲ記述セル在支英国公使發本國政府宛電信ノ写ヲ不用意ニ局長ニ内示シタルカ其ノ冒頭ニ「本警備案ハ Mayers ト協議ノ上起案シタルモノナリ」トアリ又最後ニ「全文郵送ス」トアリ右電報ハ僅ニ「タイプライター」二頁ニシテ而モ附屬説明書ノ要旨ヲモ記載シタルニ顧ミ本案ハ英国公使 Mayers ノ合作ニシテ恐ク本國政府ニ於テハ其ノ内容ノ詳細ヲ承知シ居ラサルヘキカト推察セラル

五六九 九月六日(着)

在米國殖原大使ヨリ  
山本外務大臣宛(電報)

鉄道警備ニ関スル我方ノ修正案ニ付米國極東  
部長ノ談話報告ノ件

第五三四号

往電第五三〇号ニ関シ

(一)八月三十日極東部長ハ同日在支公使館ヨリ接手セル電報ヲ佐分利ニ読聞カセタルガ右ハ最初ニ八月二十五日附國務長官ノ電報(往電第五三〇号参照)ハ二十七日ニ接受シタルヲ以テ翌二十八日日本公使ノ要求ニ依リテ催サレタル委員會ノ間ニ合ヒタル事ヲ述ベ次イデ同日及翌二十九日ノ會議ニ於テ第一ニ Associated director 〃 Vice director トスル事第二ニ警察隊ノ組織案ニ付外交団ノ承認ヲ条件トセザル事第三ニ鉄道警備ノ改善ハ先ヅ津浦、京漢ヨリ始ムル事ニ修正セラレタル旨ヲ報ジ最後ニ同公使意見トシテ支那政府ハ右修正案ト雖是ヲ承諾セザルベシト思考スル旨ヲ附言セリ

(三)極東部長ハ談話中本件ニ関スル日本政府ノ意見ハ大体米國政府ノ意見ト同一ニシテ殊ニ警察隊ノ組織案ニ付外交団

五七〇 九月二十四日(発)

在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ対スル中国政府ノ回答ニ関シ申進  
ノ件

別電

九月二十五日芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第八六九号 中国政府回答ノ大要

第八六八号

「ポイント」ノ一トセザリシ次第ナリト内話セリ  
(三)極東部長ハ談話中今後第一ニ起ル問題ハ Vice director 及會計主任人選ナルガ米國ハ今回臨城事件ノ結果トシテ起レル警察ノ問題ハ在支一般外人ノ安全ヲ保護スル問題ニシテ特殊ノ鉄道ニ付利害關係ヲ有スル特殊国人ノ利益ヲ擁護スル問題ニ非ズ從テ右 Vice director モ日、英、米ノ如キ大國又ハ直接利害關係ヲ有スル國(例ヘバ京漢鐵道ニ付テ仏、白ノ如シ)ノ人ハ之ヲ避ケ又成ルベク外交団ヨリ推薦セズ支那自身ヲシテ選定セシムル事然ルベシト思考ストテ大体往電第四三〇号第五項前段ノ趣旨ヲ繰返セリ

英、独、伊ヘ暗送セリ

(別電)

全文郵送ス

九月二十五日在中国芳沢公使發伊集院外務大臣宛第八六九号  
中国政府回答ノ大要

## 第八六九号

臨城事件ニ関スル支那側回答ハ冒頭ニ於テ共同委員会調査ノ結果ニ基キ簡單ニ事実ヲ叙シ之ニ対シテ支那政府ノ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表シタル後本件ハ何等排外的ノ動機ニ出テス單ニ土匪カ旅客ヲ脅掠シタル不法ノ行為ニ過キスト述ヘ官憲ハ勿論民間ノ各種団体カ捕虜救出等ニ付アラユル方法ヲ講シタルノ事実ヲ以テ其証左ト為シタルカ次テ外交団ノ各種ノ要求ニツキ順次ニ大要左ノ通り論述セリ

(一)支那政府ニハ本件ニ付賠償ノ責任ナキモ遭難當時ノ情況並ニ被害者苦痛ノ程度等ニ顧ミ支那政府トシテハ自カラ進ンテ出来得ル丈ノ事ヲ為サント欲ス之カ為臨城「ノ一ト」中ニ掲ケラレタルA、B、Cナル三項ハ之ヲ損害ノ分類及査定ノ基礎トスルニ吝ナラサルモ因間ニ依リテ賠償率ヲ累進セントスル事ハ其理由無キカ如シ蓋シ救出ノ延引シタルハ土匪ト交渉スル事ニナリタル結果ニシテ而モ此方法ハ外交団ノ希望ニ基キタルモノナレハナリ又各

レントスルノ行為ハ深く感謝スル所ナルモ外交団ノ提出セラルル事アルヘキ改善計画ニ付テハ支那政府トシテ其職責ニ顧ミ之ヲ承引スルコトヲ得ス尤モ鐵道保護方法改善ノ為支那政府カ全力ヲ尽スヘキハ勿論ナリ

(四)本件ノ性質ニ顧ミ責任者ヲ嚴罰ニ処スルノ必要アルコト勿論ナルカ支那政府カ本件外交団ノ要求ニ応シ得サルハ支那人処罰ノ事ハ支那ノ法律ニ依リ支那自カラ之ヲ行フヘシトノ現行条約ノ規定ニ拘束セラルルカ為ナリ支那トシテハ已ニ責任者ヲ処罰シ若クハ已ニ其処罰ヲ考慮シツツアリ即チ五月九日ノ大總統令ニ依リ陸軍部及内務部ニ命シ田中玉ノ処罰ヲ詮議セシメ同時ニ他ノ文部官ハ查弁中其職ヲ免シタルカ次テ六月二十六日ノ大總統令ヲ以テカガウギョク、チヨウフンシツ、チキウインチヨウヲ免職シタルヲ以テ外交団ノ懲罰ヲ要求セル四人ハ或ハ已ニ罰セラレ或ハ懲罰詮議中ニ屬ス

(四)内地ノ土匪ヲ討伐スルニ非サレハ鐵道警察ヲ改造スルモ旅客ノ安全ヲ期スル能ハサルヲ以テ地方官憲ハ從來ト雖モ土匪ノ掃蕩ニ從事シツツアリシカ更ニ之ヲ有効ナラシムル為八月三十日ノ命令ヲ以テ有能ノ將校ヲ派シテ土匪

人ニ対スル所謂「サップルメンタリー、インデムニチー」ナルモノハ其性質間接損害ニ屬スルヲ以テ之ヲ賠償計算ノ基礎トシテ採用スルヲ得ス尚河南土匪ノ件ハ本件ト事情其他ヲ異ニスルノミナラス已ニ地方的ニ交渉セラレ居ルヲ以テ本件ト之ヲ引離サンコトヲ希望ス

(二)将来ノ保障ニ付テハ之ニ同意シ難ク切ニ外交団ノ再考ヲ希望ストテ匪徒事件議定書ノ本件ニ適當ナラサルコトヲ説示シタル後若シ外交団ニシテ強ク之ヲ主張セラルルニ於テハ支那人ノ感情ヲ害シ而モ外国人ノ生命財産ノ安全ニ付テハ何等加フル所ナカルヘシ

(三)鐵道保護ノ方法ヲ改善スル事ハ支那政府ノ方針ト合致スル所ニシテ支那政府ハ已ニ研究ヲ遂ケ必要ナル措置ヲ採レリ即チ京漢、隴海、京津、津浦各線ノ通スル地方ヲ分チテ四区トシ沿線ニ於ケル軍略上重要地点ニ軍隊ヲ駐劄シテ保護スル外交交通部ハ列車及停車場ノ秩序ノ為ノ從來ノ鐵道警察ヲ改善シ且外國専門家ヲ聘僱スル事トセリ即チ此目的ノ為一局ヲ設ケ鐵道警察隊ノ訓練、新隊ノ編成、警察隊ノ分遣及監察ノ事ヲ司ラシムルコトトセリ支那政府ハ外交団ニ於テ本件ヲ顧念セラレ支那政府ヲ援助セラ

ヲ討伐セシムルコトトシ並ニ指揮權ヲ統一シテ匪賊ノ一所ヨリ他所ニ竄入スルノ弊ナカラシメ且八月二十九日ノ命令ヲ以テ重ネテ地方文武官ニ対シテ外人保護ニ全力ヲ尽スヘキヲ命シタルヲ以テ支那政府ハ之等ノ方法ニ依リ外国人ノ生命財産ハ益々安康ナルニ至ルヘキヲ信ス云々

## 五七一

九月二十四日 (發) 在中国芳沢公使ヨリ  
伊集院外務大臣宛 (電報)

## 臨城事件解決ノ我方提案ニ対スル委員会修正

## 案ニ付意見開陳ノ件

## 第八七二号

往電第七七九号ニ関シ

臨城「ノ一ト」ニ対スル支那政府ノ回答モ愈々各国公使ニ交付セラレタルニ付鐵道警備委員会モ近々其議事ヲ纏ムルコトトナルヘキヤニ推察セラルル処前回委員会討議ノ經過ハ乍遺憾充分御訓示ノ趣旨ニ副ヒ難カリシト雖數次ノ委员会ニ於ケル各国公使ノ態度言説ニ顧ルトキハ彼等ヲシテ之レ以上我方提案ニ近ツカシムルコトハ殆ド困難ニシテ強ヒテ我提案ヲ固持セントスルニ於テハ出先ニ於ケル協調ヲ破

ルノ虞アリト思考スルニ付此際我方ニ於テ委員會修正案ニ對シ更ニ修正ヲ必要トセラルルニ於テハ寧ロ直接本國政府トノ間ニ所見ノ交換ヲ試ミ局面ヲ展開セシムルノ外ナカルベシト存セラル尚前電補足旁々一二氣附キノ点左ニ申添フ一、外國人副局長ヲ置クコトハ本使ニ於テモ必ズシモ満足スル所ニアラザルモ右ハ敢テ同一ノ地位及權限ヲ不可ナリト為ス我方主張ニ反シ居ル次第ニアラザル而已ナラズ從來ニ於テモ單ナル顧問ニテハ何等ノ価値ナシトスル各國公使ノ強キ主張ニ基キタルモノナルニ付此上ノ修正ハ当地ニテハ頗ル困難ナルベキモ副局長ヲ承認スルコトトナルニ於テハ之ト同時ニ副局長ノ權限ヲ出來得ル限り局限スルノ見地ヨリ重大ナル問題ハ副局長ト協議スベシトノ趣旨ニ改メシムルコト位ナラバ本使ヨリ提議致シ差支ナキモ他ノ公使等ノ意氣込ミニ顧ミ其同意ヲ得ルコトハ先ツ望無カラン

二、委員會修正案第六項ハ一見之ニ依リ事實上副局長ノ權能ヲ局長ト同様ナラシムル如キ嫌アルモ右ハ第一項ニ對スル例外ニ過ギズシテ之レ亦各國公使ノ極力主張シタル所ニ係ルヲ以テ之ヲ削除セシムルガ如キハ頗ル困難ト思

考セラル

三、將又津浦鐵道南段北段ノ利益關係ニ関シ時宜ニ依リ我利益主張方予テ御訓示ノ次第アリタルモ我方ニ於テ必ズシモ強ク之ヲ主張スヘキ的確ナル根拠及経緯アリトモ稱シ難ク且山東問題解決ヲ告ゲタル今日此種山東ニ於ケル利權の問題ヲ提言スルハ面白カラザルヤニ認メラルル而已ナラズ昨今英漢字新聞ニハ我修正案中ニハ外國人會計主任ヲ置クコトヲ認メ居レリトノ報道ニ基キ日本ハ事實ハ英國案ニ迎合シ巧ミニ支那鐵道ニ對スル經濟上ノ優越ヲ占メントスル野望ヲ有ストノ說ヲ為スモノアル折柄津浦鐵道ニ對スル利權割込ミヲ主張スルニ於テハ必ズヤ誹謗中傷ノ宣伝ニ利用セラレ折角公正寛容ナル對支方針ニ累ヲ及スコト多大ナルモノアリト認メラルルニ付本件ハ之ヲ提起セザル方得策ナリト思考ス

前頭ノ通り委員會モ多分近々再開セラルルカ又ハ其他ノ方法ニ依リ其議ヲ纏ムルコトトナルヘキニ付以上速ニ御考慮ノ上何分ノ御電訓ヲ乞フ

~~~~~

五七二 九月二十四日 (發) 在本邦英國代理大使ヨリ
伊集院外務大臣宛

鐵道警備修正案ノ承認及び支持方ニ關シ要請
ノ件

British Embassy,
Tokyo.

No. 112 24th September, 1923.

M. le Ministre,

Your Excellency will be aware, from the reports of the Japanese Minister in Peking, that the scheme put forward by Sir Ronald Macleay for the re-organization of the Chinese railways has been considerably modified in order to meet the objections made by the Imperial Japanese Government to its original form. I have now received instructions from His Majesty's Secretary of State for Foreign Affairs to urge the Japanese Government most earnestly to accept and to support that scheme as it now stands.

It is the desire of His Majesty's Government, no

less than of the Japanese Government, to see the Washington treaties carried out; but the advantages secured to China by those treaties do not carry with them any obligation to protect foreigners residing in that country. The necessity of taking some step to remind the Chinese authorities of their duties in this direction has been borne in on His Majesty's Government by the repeated outrages on foreigners which have occurred in China—outrages which have gone unpunished. After what took place at Lincheng His Majesty's Government cannot but consider it perfectly reasonable to insist that the railway police shall be effectively reformed with foreign assistance. As the foreign police officers will be in the employment of the Chinese Government, this cannot be described as in any sense a violation of the administrative integrity of China.

I confidently hope to be able to assure the Marquess Curzon of Kedleston, at an early date, that

Your Excellency concurs in these views and that the scheme in its present form will receive the support of the Japanese Government.

I avail myself of this opportunity of renewing to Your Excellency the assurance of my highest consideration.

Michael Palaret

His Excellency Baron Ijūin,

Minister for Foreign Affairs,

Tokyo.

(右和訳文)

九月二十四日付在本邦英国代理大使ヨリ伊集院外務大臣宛来東訳文

以書東致啓上候陳者「サー、ロナルド、マクレー」(駐支英国公使)ノ提議ニ係ル支那鉄道改革計画ハ日本帝國政府ノ反対意見ニ副ハムカ爲其ノ原案ニ多大ノ修正ヲ加ヘラルルニ至リタルコトハ在北京日本公使ノ報告ニ依リ閣下ノ承知セラルル所ト存候処本官ハ今般本国外務大臣ヨリ日本政府ニ於テ右修正案ヲ承認シ之ヲ支持スル様最モ切実ニ勸説

スヘシトノ訓令ニ接シ候

華盛頓諸条約ノ実行ヲ希望スルコトニ於テハ本国政府ニ於テモ敢テ日本政府ニ譲ラサルモ之等諸条約ニ依リ支那ニ与ヘラレタル利益ニハ支那ニ居住スル外国人ノ保護ニ関シ何等ノ義務ヲモ伴ハサル爲本国政府ハ從來支那ニ於テ外国人ニ対スル暴行事件頻出シ殊ニ之等暴行ハ常ニ所罰ヲ免レ居ルニ顧ミ此際支那官憲ヲシテ右ニ対スル責任ヲ自覺セシムル爲何等カノ措置ニ出ツルノ必要アルコトヲ痛感セシメラレ候從テ臨城事件発生後本国政府ハ鉄道警察ヲ外国ノ助力ノ下ニ有効ニ改革スヘキコトヲ主張スルハ全然正当ナリト思考スル次第ニ有之候元来外国人警察士官ハ支那政府ニ雇傭セラルルモノナルヲ以テ右ハ如何ナル意味ニ於テモ支那ノ行政保全ヲ侵害スルモノト認ムルコトヲ得サル義ト存候本官ハ閣下カ如上ノ所見ニ賛同セラレ且ツ日本政府ハ現在ノ形式ニ於ケル本計画ヲ支持スルモノナルコトヲ速ニ「カーゾン」卿ニ報告シ得ルニ至ラムコトヲ確信ヲ以テ期待スルモノニ有之候

此機会ニ於テ本官ハ閣下ニ対シ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

五七三

九月二十八日(発)

伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

鉄道警備修正案ニ対スル我方ノ方針決定マデ

委員会開催延期方訓令ノ件

第五九六号

貴電第八七二号ニ関シ

往電第五九七号在本邦英国代理大使申出ノ次第ト併セ修正案ニ対スル帝國政府ノ態度決定方折角手配中ナルモ其ノ決定ヲ見ル迄ニハ尚数日ヲ要スル見込ニ付若シ其ノ間會議開催ノ議アラハ暫ク延期方可然取計ハレタシ

五七四

九月二十八日(発)

伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

鉄道警備英国修正案支持方要請ニ関スル件

第五九七号

(前編五六七文書)
貴電第七七九号ニ関シ

在本邦英国代理大使ヨリ九月二十四日附公文ヲ以テ今般本國政府ヨリ日本政府ニ於テ本件修正案ヲ承認シ之ヲ支持スル様最モ切実ニ勸説スヘシトノ訓令ニ接シタリ英国政府モ

華府諸条約ノ実行ヲ希望スルコトニ於テ日本政府ニ譲ラスト雖モ該条約ハ支那ニ利益ヲ与ヘタルモ外国人ノ保護ニ関シ何等義務ヲ負ハセサルニ付從來支那ニ於ケル外国人ニ対スル暴行事件ノ頻発ニ顧ミ支那官憲ヲシテ其ノ責任ヲ自覺セシムル爲何等カノ措置ニ出ツル必要アリ本計画ノ如キ主張ハ全然正当ナリ又外国人士官ハ支那政府ニ雇傭セラルルモノナルヲ以テ支那ノ行政的保全ノ侵害ト認ムル能ハス云云ト述ヘ日本政府ニ於テ右見解ニ同意シ修正案ヲ支持セラレ度旨申越セリ

右ニ対スル回答振目下考慮中ナルモ不取敢

五七五

九月二十八日(発)

伊集院外務大臣宛(電報)

臨城並ビニ関稅剩余配當問題ニ関スル外交團

會議ノ討議ニ付申進ノ件

第八八三号(極秘)

九月十七日外交團會議ヲ開キ往電第八六九号臨城事件ニ関スル支那政府ノ回答及広東発本使宛電報第一二九号同總領事発本使宛九月七日附機密第三九号広東政府ニ関稅剩余配

当問題ヲ討議セリ會議ノ經過大要左ノ通

一、臨城事件ニ関スル支那政府ノ回答ニ對シテハ不取敢外交総長ニ對シ「アクノレッジ」旁適當考慮ヲ加フヘキ旨回答ヲ發シ置キタル上更ニ外交団特別委員會ヲシテ審議セシムルコトナリタルカ差當リ外交団ニ於テ如何ナル基礎ニ依リ回答案ヲ作製スヘキヤヲ議シタル上委員會ニ回附スルコトニ評議一致シ次テ右基礎案ニ関シ所見ヲ交換シ種々ノ議論出テタルカ先仏国公使ハ支那政府ノ回答ヲ閱讀スルニ支那政府ハ這般ノ臨城事件ヲ以テ義和團事件ト同一ニ目スヘカラス即チ當時土匪ハ支那人ト外國人トヲ區別スルコト無ク一般旅客ノ強掠ヲ目的トセルモノナリト陳弁シツツアルモ當時土匪力旅客全部ヲ目的トセス主トシテ外國人ヲ拉致シテ之ヲ捕虜トセルハ著名ナル事實ナリト述ヘ伊国公使又之ニ同シテ臨城事件以來發生シタル外國人迫害事實ノ「リスト」ヲ送致スルコト然ルヘシト提言シ米仏兩國公使等モ外交団トシテハ曩ニ送致セル連名公文書ノ主義ニ固着セサルヘカラスト主張シ其他各國公使ヨリ夫々意見ノ陳述アリタルモ結局十月一日更ニ會合ノ上討議ヲ続行スルコトナレリ

米国公使提案ノ考究ニハ異存ナキ旨述ベタル結果米国公使ニ於テ英國公使協助ノ上右声明案ヲ起草スルコトナリ且首席公使ノ提議ニ基キ右声明案ハ追テ發表ニ至ル迄絶對秘密ヲ嚴守スルコトナレリ十月一日ノ會議ニ於テハ主トシテ臨城問題ヲ討議シ若シ余裕アラバ關稅問題ヲモ付議スル筈

五七六 九月二十九日（發）

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

中国政府ニ對スル回答起草案ノタメノ四国公使

會談ニ付申進ノ件

第八八五号

往電第八八三号ニ関シ九月二十九日英米仏四国公使ノミ内密ニ米国公使館ニ會合外交団全部ノ會議ニテハ急速纏マリ兼ヌル虞アルニ付先以テ四国公使ニ於テ如何ナル基礎ニ依リ支那政府ニ對スル回答ヲ起草スヘキヤニ付協議ヲ尽スコトトナリタルカ席上仏国公使ハ對支回答ハ長短如何様ニモ起草シ得ヘキモ二十七日ノ會議ニ於ケル一般ノ空氣ハ成ルヘク簡單ヲ可トスルニ傾キタルカ如シ唯最重要ナル一点

二、広東政府ニ關稅剩余配當問題ニ就テハ不取敢在広東首席領事ニ對シ考慮ヲ加ヘツツアル旨ヲ電報シ置キ篤ト詮議ヲ遂グルコトニ決シタルガ次デ英國公使ヨリ広東政府申出中建設の事業計画ノ如キハ考慮ノ価値ナシトセザルモ關稅ヲ内國債ノ償却基金ニ充當スルハ南方ノ關知スル限りニアラズト言フガ如キハ事實ヲ認ユルモノナリト指摘スル処アリ更ニ二三同僚ノ間ニ意見ノ交換アリタル末米国公使ヨリ關稅制度ハ支那ニ於テ唯一ノ統一セル施設ナリ然ルニ南方政府ニ關稅剩余ノ配當ヲ認ムルノ結果他地方亦之ニ倣フニ至ラバ終ニ關稅制度ハ其統一ヲ攪乱セラルルニ至ルベシ旁々此際外交団ヨリ支那政府及各地方政府ニ對シ協同聲明ヲ發シ現在ノ關稅制度ヲ維持スルハ畢竟支那ノ「インテグリティ」ヲ確保スル所以ニシテ關稅收入ヲ妄ニ各地方ニ流用セシムルガ如キハ支那ニトリ策ノ得タルモノニアラズトノ趣旨ヲ宣明スルコト然ルベシト提言スルヤ他国公使孰モ之ニ贊同シタルヲ以テ本使ハ米国公使ノ提案ハ大体ニ於テ結構ト思考スルモ広東政府ト態度ヲ一ニセル地方ニ於テ之ニ応ジ難キコトヲ固執スルニ於テハ結局詮ナカルベキ旨ヲ指摘シタル上兎ニ角

ハ支那政府カ臨城事件ヲ以テ排外的性質ヲ有セスト為スコトニシテ右ハ斷シテ看過スルコトヲ得ス臨城事件カ排外ノ感情顯著ナルハ争フヘカラサル事實ニシテ對支回答ハ特ニ此ノ点ヲ中心トセサルヘカラス將又支那政府ハ此ノ種不祥事ノ再燃ヲ防止スル為種々ノ計画ヲ立テツツアリト謂フモ事實何等ノ効果ヲ期待シ難ク現ニ全國ヲ通シテ土匪事件頻出スル有様ナラスヤ実ハ如上ノ趣旨ニ依リ試ミニニ回答案ヲ起草セリトテ右案文ヲ朗読シタルニ對シ米国公使ハ仏公使ノ意見ニ全然同感ノ意ヲ表シ仮令動機ニ於テ外國人ニ對スル憎惡ノ念ナシトスルモ其結果ヨリ見レハ排外的行動ト謂ハサルヘカラス実ハ自分モ同様ノ趣旨ニ依リ回答文ノ起草ヲ試ミタル次第ナリトテ之又讀上ケタルカ右米仏兩公使ノ草案ハ同趣旨ニテ要スルニ前記ノ所見ヲ骨子トセルモノナリ依テ更ニ種々評議ノ結果四国公使ニ於テ前記兩公使ノ意見ヲ基礎トシテ次回ノ外交団會議ニ臨ムコトトシ且外交団會議ニ於テハ單ニ回答ノ要綱ノミヲ討議協定スルニ止メ回答全文ハ極少數ノ委員ヲシテ右要綱ニ基キ起草セシメタル上之ヲ外交団全部ニ付議スルコトナク直ニ調印ヲ求ムルコトニ打合セテ遂ケタルカ尚本使ヨリ二十七日ノ會議ニ於ケ

ル伊国公使ノ提言ヲモ考慮シ対支回答ニハ臨城事件以来發生セル同種事変ノ「リスト」ヲモ添付スルコト然ルヘキ旨提議シタルニ各国公使モ之ニ同意ヲ表セリ

五七七 十月一日（発）伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

鐵道警備ニ関スル修正案ニ同意差支ナキ旨訓

令ノ件

別電一

同日伊集院外務大臣発芳沢公使宛電報第六〇四号
我修正意見ノ根本義ニ付外交団ニ了解方尽力アリ
タキ件

二 同日伊集院外務大臣発芳沢公使宛電報第六〇五号
利権の導念ニ胚胎スル要求ハ一切之ヲ排斥スル我方方針ニ関スル件

第六〇三号

貴電第八七二号ニ関シ

鐵道警備ニ関スル貴電第七七八号及七七九号修正案ハ事実上大体ニ於テ我主張ヲ容レタルモノト認メラレ此ノ上形式ニ拘泥シ論議ヲ重ヌルノ実益ナク且英國政府ヨリハ往電第五九七号ノ通り懇請ノ次第アリ米國政府ノ意見モ亦在米大

使來電五三四号（暗号郵送セリ）ノ通りナルニ顧ミ此ノ辺ニテ一応妥結ヲ図ルコト諸般ノ關係上得策ト思考セララルニ付右修正案ニ対シ同意ヲ表セラレ差支ナシ

尚本件ニ関シテハ別電第六〇四号及第六〇五号御参照アリ
度シ

編註 右ハ同日閣議決定、同文發電アリタリ

（別電一）

十月一日伊集院外務大臣發在中國芳沢公使宛電報第六〇四号
我修正意見ノ根本義ニ付外交団ニ了解方尽力アリタキ件

第六〇四号 別電ノ一

鐵道警備ニ関スル修正案ハ形式的ニハ尚議論ノ余地ナキニアラサルモ本問題ハ今後支那トノ間ニ幾多ノ折衝ヲ重ヌルコトナルヘク其ノ形勢ノ推移ニ応シ徐ニ我主張ノ貫徹ヲ期スルコト困難ナラサルヘシト認メラレ從テ已ニ大体我目的ヲ達シタル以上此際國際協調ノ精神ニ從ヒ一應該修正案ニ対シ快ク同意ヲ表スル方諸般ノ關係上得策ナルヘシト存シ往電第六〇三号ノ通廟議決定ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ元來警備ノ改善ヲ支那政府ノ全責任ヲ以テ実行セシメ度キコトハ我修正意見ノ根本義ニシテ特ニ重要ナル点ニ付貴

官ハ本問題今後ノ折衝上常ニ右根本義ヲ徹底のニ外交団ニ了解セシムル様御尽力相成度シ又貴電第七七八号ノ一最終決定權ノ支那側ニ在ルコトノ了解ノ如キハ既ニ關係各公使ノ同意セル処ニシテ又解釈上当然ノ義ナルモ將來万一ノ誤解ヲ避クル為議事録其ノ他ノ方法ニ依リ明確ニ殘シ置クコトト致度シ尤モ此ノ際斯ル提議ヲ為スコト却テ考慮ヲ要スルカ如キ事情アルニ於テハ追テ支那側トノ商議ニ當リ適當ノ時機ヲ俟ツコトスルモ差支ナキニ付右御含置ノ上貴官ノ御裁量ニ依リ適宜御措置相成度シ

（別電二）

十月一日伊集院外務大臣發芳沢公使宛電報第六〇五号
利権の導念ニ胚胎スル要求ハ一切之ヲ排斥スル我方方針ニ関スル件

第六〇五号 別電ノ二

貴電第八七二号ノ（三）ニ関シ貴官ハ帝國政府ニ於テ警備案ト關連シ津浦鐵道北段ニ対シ何等我利益ヲ主張セムトスル意向アルカ如クニ認メラレ居ル模様ナル処右ハ甚タ意外トスル次第ナリ元來我方ニ於テハ臨城事件ヲ機會トシテ利権の導念ニ胚胎スル要求ハ一切之ヲ排斥スル方針ナルコト屢次

申進シタル通ニ有之往電第四五四号ノ（三）ハ畢竟右ノ趣旨ヲ繰返シタルニ外ナラス所謂日本人僱聘云々ハ同電ニ明記シアル如ク英國側野心ニ対スル牽制策トシテ右様ノ主張ヲ為スヲ必要トスル場合ナキヲ保セストノ趣旨ニシテ決シテ我方ヨリ進ンテ提議セムトスル次第ニアラサルニ付其辺誤解ナキ様致タシ

五七八 十月一日（発）

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

十月一日ノ外交団會議ニ関シ報告ノ件

第八九四号

往電第八八三号及第八八五号ニ関シ

十月一日外交団會議開催先ツ主席公使ヨリ前回會議ノ内容外部ニ漏洩セル形跡アリ今後一層機密ヲ嚴守セラレタキ旨ヲ述べタル後前回ニ引続キ所見ヲ交換シタルガ米國公使ハ支那政府ニ対スル回答文ハ余リ長キニ失スレバ左程ノ効果ナキノミナラズ却テ支那側ノ術中ニ陥ルノ虞ナシトセズ從テ単ニ前回ノ外交団公文ノ要目ヲ變更スルコトナク之ヲ固執スルノ態度ニ出ヅルコト肝要ナリト述べ仏國公使モ亦同

趣旨ヲ補足シタル上支那側回答ニ臨城事件ヲ以テ排外的ノ動機ニ出デタルモノニアラスト云フハ事実ヲ認ユルモノニシテ特ニ此点ヲ鮮明セザル可カラザル旨指摘シタルガ次デ伊国公使ノ提言ニ基キ五月六日以降発生セル同種事件ノ「リスト」ヲ関係国公使ヨリ首席公使ニ提出スルコトニ決シ更ニ諾威公使ヨリ鉄道警備問題ハ頗ル重要ナリトテ本問題其ノ後ノ成行ヲ質シ今次ノ回答中本問題ニ言及スルノ要ナキヤト提言シタルモ仏国公使ハ今次ノ回答ニハ右等特種問題ニハ拘泥セス寧ロ全般ニ対スル論駁ヲ主眼トスルコト然ルベシト述べ結局仏国公使ニ回答文ノ起草ヲ依頼シ明日七ヶ国公使ヨリ成ル委員会ニ於テ之ヲ討議シタル上四日(木曜) 外交団全部ノ議ニ附シ之ヲ確定スルコトナレリ(回答文ヲ外交団全部ニ付議セザルノ打合ハ失敗ニ帰シタル訳ナリ)

五七九 十月一日

伊集院外務大臣ヨリ
在本邦英国代理大使宛

英国ノ鉄道警備修正案ニ同意ノ旨回答ノ件

亜一機密第一〇六号

号訓令執行ノ際ノ外交団ヘノ挨拶モ右ノ趣旨ヲ以テセラレタシ為念

五八一 十月二日(発)

伊集院外務大臣ヨリ
在米國壇原大使宛(電報)

鉄道警備修正案ニ対スル我方同意ノ経過ニ付

申進ノ件

第五一〇号

一、往電第四三五号英国公使原案ハ往電第四三八号帝国政府修正意見ニ基キ其後外交団委員会ニ於テ大要左ノ通修正セラレタリ往電第四三五号(一)ノ外国人会弁ヲ廢シ其ノ代リニ外国人次長ヲ置キ支那人局長ヲ補佐ス次長ハ外交団トノ協議ヲ以テ支那政府ニ依リ任命セラル、局長ハ鉄道警備ニ関スル凡テノ事項ニ付次長ト協議スル義務アリ但シ管理局ノ事務及通信ニシテ外国人士官ノ任免及傭聘契約並ニ支払命令ノ発行ニ関スルモノハ兩者ノ連名ヲ以テス

(三)ノ警備案ヲ適用スヘキ鉄道ハ先ツ京漢津浦ノ兩幹線ヨリ開始シ漸次他ノ交通部管理ノ鉄道全部ニ拡張ス

九 臨城事件 五八一 五八二

以書翰致啓上候陳者駐支貴国公使ノ原案ニ対シ帝国政府ノ意見ニ基キ修正ヲ加ヘラレタル支那鉄道警備案承認支持方ニ付貴国政府ノ訓令ニ依リ九月二十四日附貴翰ヲ以テ御申越ノ趣致敬承候

右修正警備案ニ対シテハ帝国政府ニ於テ尚多少ノ異見ナキニアラサルモ協調ノ精神ニ從ヒ之ニ同意スルコトニ決定シ其ノ旨本日駐支帝国公使ニ電訓致候ニ付右様御承知相成度不取敢此段回答旁々本大臣ハ玆ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

五八〇 十月二日(発)

伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

修正案同意ニ際シ外交団ニ対スル挨拶振り申

進ノ件

第六〇六号 至急

往電第五九七号ニ関シ

在本邦英国代理大使ニ対シ十月一日付ヲ以テ修正案ニ対シテハ帝国政府ニ於テ尚多少ノ異見ナキニアラサルモ協調ノ精神ニ從ヒ右ニ同意スヘキ旨回答セリ就テハ往電第六〇三

(三)ノ警備計画ハ局長立案シ外交団ニ通告ス

(四)ハ變更ナシ(五)ハ鉄道総局ニ於テ各鉄道ノ外国人會計主任ニ対シ鉄道ノ総收入中ヨリ鉄道警察經費予算額ヲ引去リ別途保管シ且之ヲ支出スルノ職責ヲ与フコトニ改メ運輸主任傭聘ノ項ハ削除ス

(六)ハ變更ナシ

二、右訂正案ハ事実上大体我主張ヲ容レタルモノト認メラルルノミナラス貴電第五三四号ノ次第モアリ又九月二十四日附ヲ以テ在本邦英国代理大使ヨリ要領別電^(省略)第五一一号ノ通申越ノ次第モアリ旁々帝国政府ニ於テモ右ニ同意スルコトニ決シ其ノ旨十月一日在支公使ニ電訓シ又同日右英国代理大使来翰ニ対シテモ帝国政府ニ於テハ尚多少ノ異見ナキニアラサルモ協調ノ精神ニ從ヒ右修正案ニ同意スヘキ旨不取敢回答シ置ケリ

別電ト共ニ英ヘ転電シ仏伊ヘ郵報セシメラレ度シ

五八二 十月三日(発)

伊集院外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

臨城事件ニ関スル中国政府回答ニ付中国代理

五六九

公使トノ会談申進ノ件

第六一四号

九月二十八日支那代理公使來省同月二十四日付臨城事件ニ関スル支那政府ノ回答ニ言及シ外交団ノ要求中承認スヘキ範圍ノモノハ已ニ承認シ承認シ難キ点ハ支那政府ニ於テ已ニ処置シ若クハ内政ニ支障アル事項ナリ外交団ノ援助ニ関スル好意ハ諒トスルモ時局紛糾輿論沸騰ノ際支那政府ハ双方ヲ斟酌措置スルコトヲ要スル為益困難ヲ感スルニ付帝國政府ニ於テ右ノ事態ヲ諒解セラレムコトヲ希望スル旨申出タルニ付十月一日支那代理公使ヲ招致シ本大臣ヨリ貴國政府今回ノ回答ハ臨城事件ヲ以テ不可抗力ニ基クモノトシ其責任ニアラサルカ如キ意向ヲ示シアル処本件ハ畢竟貴國政府当局力内争ニ没頭シ条約上ノ責務タル外國人ノ保護ヲ閑却シタルニ基因スルモノニシテ貴國政府ニ於テ到底其ノ責任ヲ回避シ得ヘキモノニアラス本大臣ハ支那現下ノ事態ニ對シテハ諒察スル所アルモ支那政府ニ於テ十分其ノ責任ヲ自覺シ誠心誠意解決ヲ図ラレムコトヲ希望ス臨城事件ハ在支外國人ノ安全ニ對スル一大脅威ニシテ我國ハ單ニ被害者ナキノ一事ヲ以テ之ヲ看過スルヲ得ス從テ帝國政府ハ各国

第八九八号

往電第八九四号ニ関シ

十月二日委員会ヲ開キ仏國公使起草ノ回答案文ヲ附議シ三字句ノ修正ヲ加ヘタル上結局別電第八九九号ノ通(全文郵送ス)可決シ四日外交団會議ニ上議スルコトトナレリ尚本使ハ仏國公使ノ案文ヲ閱讀シテ氣付キタルコトハ義和團事變ニ於テハ外國人ノ生命ヲ奪フヲ以テ其ノ目的トシタルモ臨城事件ニアリテハ外人ノ拉致ハ目的ニアラスシテ手段ニ過キス從テ本案ノ起草ニ當リ之ヲ念頭ニ置クニアラサレハ支那政府ニ反駁ノ余地ヲ与フルコトトナラサルヤヲ恐ルル旨述ヘタルニ米國公使ハ多少右本使ノ所說ヲ首肯スルモノノ如クナリシモ他ノ各公使ハ義和團事變ノ先例ヲ援用スルノ至當ナルヲ説キ且ツ仮令其ノ目的タルト手段タルトノ別アリトスルモ其ノ結果ニ於テハ同一ナリトシ進ンテ本使ノ提言ニ賛意ヲ表スルモノナク其ノ儘トナレリ

右回答案文ノ協議ヲ終ヘタル後英國公使ハ若シ支那政府ニ於テ外交団第二次公文ヲ承諾セサルニ於テハ外交団トシテ如何ナル措置ニ出スヘキヤ素ヨリ外交団ハ飽迄モ当初ノ主張ヲ固執セサルヘカラサルモ之カ貫徹ノ為場合ニ依リテハ

ト共ニ其ノ主張スヘキヲ主張セサルヲ得サルモ從來支那ニ對シ執リ來レル公正ナル方針ヲ飽迄恪守シ支那ノ主權ヲ侵害スルカ如キ要求ヲナス意圖ナシ然ニ本件發生後幾許モナクシテ涪州事件等起リ又漢口宜昌方面ニ於テハ依然トシテ排日運動繼續セラレ居ル事態ニ顧ミ斯ク暴行事件頻出スルニ於テハ自然我民論激昂シ帝國政府ニ於テ勢ヒ自衛の手段ヲ執ルノ已ムヲ得サルニ至ルヤモ計リ難キニ付支那政府ニ於テ涪州事件等ニ對シ迅速適當ノ措置ヲ執ラレムコトヲ希望スル旨ヲ告ケ置キタリ尚右會談ニ先チ本大臣ヨリ今次ノ震災ニ對シ支那中央政府ヲ始トシ支那各方面各界ノ官民ヨリ懇篤ナル慰問及金品ノ寄贈ヲ受ケタルハ帝國政府及國民ノ衷心ヨリ感謝シ永久記憶シテ忘レサル所ナルヘシト語リ右本大臣ノ謝意支那政府ニ傳達方ヲ求メ置キタリ

五八三 十月三日(癸)

在中國芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

外交団ノ中国政府ヘノ回答案ニ付報告ノ件

別電

同日芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第八九九号

右回答案要領

強力ヲ辞セサルノ用意アルヘキヤト提言シ和蘭公使ハ強力ヲ用ユルコトハ之ヲ避ケ北京政府ヲ承認セサルノ態度ニ出ツルモ一策ナラスヤト述ヘ更ニ英國公使ハ數日中大總統選舉問題何レカニ決定セムトスル機微ナル昨今ノ政局ヲ捕ヘ何等積極の措置ニ出ツルコトトセハ効果アルヘシトノ口吻ヲ洩シタルカ本使ヨリ英國公使ノ提言ハ鉄道警備案ニ関スル會談ヲ俟タス今次ノ回答ニ對スル支那側ノ態度ニヨリ直ニ強力ヲ用ユルノ適否如何ニアルヘキヤト試問シタルニ英國公使ハ鉄道警備案ハ左迄懸念スルニ及ハス今次ノ回答ノ方一層困難ナリト答ヘ次テ米國公使ハ本使ノ所見ヲ叩キタルヲ以テ全然本使一己ノ私見ナル旨ヲ前提シタル上本件目の達成ノ為ニハ平和的及強力的ノ兩方法アルヘキ處此際強力的の措置ニ出ツルカ如キハ日本政府ノ容易ニ贊同シ難キ所ナルヘク平和的の手段ハ強力ヲ用ユルニ比シ日本政府ニ「アップピール」スヘク從テ例ヘハ和蘭公使ノ提言セル北京政府不承認ノ如キモ或ハ其ノ一方法ナルヘシト雖是又考慮ヲ要シ確タルコトハ述ヘ難シ要スルニ愈ノ場合ニ処シ執ルヘキ方策如何ハ尚慎重考慮ヲ要スル義ト思考スル旨体好ク答置タルカ尚二三同僚ヨリ或ハ愈曹錕就任ノ場合ニ黎元洪就任

當時ノ例ニ倣ヒ單ニ就任通知ニ対シ「アクノールレジメント」ヲ発スルニ止ムヘク或ハ新總統就任後茶会ニ案内セラルルコトアルモ之ニ出席セサルコトスヘシトノ説ヲ述ヘ他ノ公使等モ大体其ノ辺ナルヘシトノコトニテ散会セリ本日ノ委員会會議ノ形勢大体右ノ通ニテ大總統選舉及之ニ基ク政情ノ發展ト相待ツテ形勢次第ニ重大トナリツツアルモノノ如ク英米仏三国公使ノ態度ハ今日ノ処最強硬ナルカ明後四日ノ外交団會議ニシテ右三国公使ノ態度ニ引摺ラレ行クモノトセハ近キ将来ニ於テ支那政府対外交団ノ衝突ハ免レサルヘク右衝突ノ結果支那ニ於ケル民論沸騰スル場合ニ於テハ外交總長乃至現内閣ヲシテ名ヲ成サシムル割合ニ外国側ニ於テ利スル所少ナキニ至ルヤモ計リ難キヲ以テ北京政府ニ対スル立場モ苦境ニ陥ルコトナシトセス本使ニ於テモ尚考慮ヲ運ラシツツアルモ閣下ニ於テモ御考慮ノ上何等御氣付ノコトアラハ至急御垂示アランコトヲ希望ス

(別電)

同日在中国芳沢公使発伊集院外務大臣宛電報第八九九号

右回答案要領

第八九九号

第九〇七号

貴電第六〇三号ニ関シ

十月三日日本問題委員長タル和蘭公使ニ不取敢御来示ノ次第ヲ内話シ置キタルガ同日米国公使ニ会食ノ節同公使ニモ右ノ趣ヲ告グルト同時ニ同公使ニ対シテハ本国政府ヨリ何等訓令ニ接シタリヤト尋ネタルニ同公使ニ於テモ過般同意ノ旨電訓ニ接シタルガ米国公使ニ於テハ支那鉄道ヲ全然支那政府ノ管理下ニ置クハ不安ヲ感ゼザルヲ得ズ從テ鉄道ノ運行確保ノ為ニハ外国人ヲ傭任セシムルノ外ナシト認ムルモノナルモ之ヲ他ノ目的ニ利用スルニハ同意シ難シトノ趣旨ナリト語レリ

(奉天經由十月四日後八、〇〇)

五八五

十月四日 (発)

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

外交団ノ強硬態度ニ鑑ミ憂慮スベキ事態生起
ノ懸念ニ付申進ノ件

第九〇九号

大總統選舉ニ対スル委員会ノ態度
往電第八八号末段ニ関シ

九 臨城事件 五八五

支那政府ニ対スル回答案要領

八月十日ノ共同通牒ハ敢テ支那ニ排外運動ノ存在スルコトヲ言明シタルニアラズトシ土匪蹂躪ノ結果外国人ノ生命財産等ノ危険ニ瀕スルコト及臨城事件ハ外国人ニ対シテナサレタルモノタルノ事実ハ掩フヘカラサルコト等ヲ述ヘタル後外交団ハ支那政府ガ土匪ニ対シ峻厳ナル措置ヲ執ランコトヲ希望シ居リタルニ拘ハラス九月二十四日ノ回答中ニ述ヘラレタル措置ハ不満足ニシテ地方官ハ内争ノ為精銳ナル軍隊ヲ使用スルモ土匪討伐ニハ何等ノ熱心ヲ示メサスト論シ次テ左ノ通結ヘリ

上述ノ如クナルヲ以テ外交団ハ在支外国人ノ生命財産等ノ確保及秩序回復ノ見地ニ基キ八月十日ノ共同通牒ニ披瀝シタル主張ヲ固執セサルヲ得ス從テ支那政府ガ右通牒ニ列挙シタル諸項ヲ遲滞ナク実行セムコトヲ切望ス

五八四

十月四日 (発)

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

中国ノ鐵道管理ニ関シ蘭、米兩國公使トノ会

談内容申進ノ件

本問題カ偶々大總統ノ選舉目睫ニ迫レル今日緊張シ来レルハ特ニ考慮ヲ要スル処ニシテ若シ曹錕ニシテ愈々大總統ニ就任スルニ於テハ反直隸派ハ露骨ニ其鋒銳ヲ現シ或ハ茲ニ内乱ノ發展ヲ来スコト無キヲ保シ難シ然ルニ愈々曹錕就任後外交団ニ於テ飽迄モ其ノ主張ヲ固持シ是レカ貫徹ノ為驀進スルニ於テハ支那政府ハ其内政關係ヨリスルモ強硬ナル態度ヲ示シ銳意國論ノ奮起統一ニ努メ以テ自派ノ地位擁護ニ腐心スヘキハ必然ノ數ナル処事茲ニ至ラハ外交団ニ於テモ今日迄若シ外交団ニシテ讓歩セハ列國ノ權威ヲ損傷スルノ甚タシキモノナル旨言シツツアル意氣込ニ顧ミ早晚外交団対支那政府ノ衝突ハ免レサルヘク而モ此機微ナル局面ニ乗ジ張作霖、盧永祥其他ノ反直派ハ曹錕大總統ノ否認ハ勿論進ンテ直隸内閣倒壞ノ為積極の行動ニ着手スルコトトナルヤモ測リ難キ処若シ如上ノ事態ヲ誘致スルニ於テハ外交団ノ強硬ナル態度ハ内乱ヲ促進助成シタルモノナリトノ罵ヲ免カレサルヘシ將又万一直隸派ニシテ失脚シ反对派ノ登閣ヲ見ルコトアリトスルモ後継内閣ノ臨城問題ニ対スル態度モ亦直隸派同様外交団ニ有利ナルヘシトハ想像シ難ク而シテ外交団ニ於テ依然強硬ナル主張ヲ確執スル以上对支

那政府ノ衝突延イテ支那内争ノ劇甚ヲ繰リ返スノ外無カルヘシ更ニ又是ヲ外交団ノ立場ヨリ考フルモ現ニ最近日英米仏列国公使ニ於テ大總統選舉問題モ何レニカ決定シ一先ツ時局ノ安定ヲ見ハ政費前貸ニ関シテモ相当考慮ヲ辞セサルヘシトノ談合ヲ遂ケタルニ拘ハラス臨城事件解決ニ焦慮スルノ結果前叙ノ如キ情勢ヲ招徠スルニ於テハ時局ハ一層紛糾ヲ重ネ是カ安定ヲ見ルノ日ハ益々遼遠トナリ偏ニ局面ノ迅速ナル安定ヲ庶幾シ更ニ進ンテハ中央政府ノ鞏固ニ援助セントスル關係列強ノ公明正大ナル精神ニ矛盾スルノ結果ヲ齎スコト無キヤヲ恐ル是ヲ要スルニ迭次ノ電報ニ依リ御承知ノ通当地各國公使ノ態度何レモ強硬ナルヲ以テ本國政府ニ於テ冷静周匝ナル考慮ヲ加ヘサル限り勢ノ趨ク処或ハ如上憂慮スヘキ事態ニ陥ルコト無キヤ本使ノ頗ル懸念ニ堪ヘサル処ニシテ今後ノ形勢緩和ノ方法如何ニ就キ苦慮シツツアル次第ナリ前電補正旁々御參考迄

五八六 十月四日（発） 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

对中国政府宛回答文決定ニ関スル件

十月四日在中国芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第九一一号
中国政府ヘノ回答文内容

第九一一号

外交団ハ臨城事件ニ関スル九月二十四日付貴翰ニ対シ慎重考查ヲ加ヘタル所貴翰中本件兇行ニ対スル支那側遺憾ノ意ヲ改テ表示セラルルト共ニ支那官民ニ於テ何等排外的感情ヲ抱懷スルモノニアラサル次第ヲ闡明セラレタルハ外交団ノ満足スル所ナリ然ル所八月十日付共同通牒ニ於テ外交団ハ何等支那ニ一般的排外運動存在ストノ言ヲ為シタルコトナク唯所在土匪猖獗ノ結果外人ノ生命自由權利並財産ヲ危殆ニ瀕セシムヘキ情勢ノ現存スルコトヲ指摘セルニ過キストノ点ニ関シ支那政府ハ臨城事件ノ特殊性ヲ理解セラレサルモノノ如クナルヲ以テ外交団ハ此重要ナル点ニ関スル貴総長説述ノ誤謬ヲ是正セサルヲ得ス臨城土匪ノ目的トセル所ハ外人ヲ捕ヘ其外人タル資格ヲ利用シ保護者タル所屬國公使ヲ經テ支那政府ニ圧迫ヲ加ヘシムルニアリタル次第ハ彼等ノ拉致外人ニ対シ屢々公言シタル所ニシテ彼等土匪ハ著々右目的ヲ達成シ其支那政府ト交渉ニ際シテハ人質ヲ楯ニ要求ヲ主張シ要求貫徹ヲ俟テ初メテ之ヲ釈放セリ

別電 同日芳沢公使發伊集院外務大臣宛電報第九一一号
中国政府ヘノ回答文内容

第九一〇号

往電第八九八号ニ関シ

十月四日午前外交団會議ヲ開キ委員会ニ於テ可決シタル對支回答案ヲ附議シ若干字句ノ修正ヲ加ヘタル上別電第九一一号ノ通決定調印ヲ了シ今四日午后首席公使ハ外交総長ニ交付スルコトナレリ

右回答ノ内容ハ迭次拙電ニテ御承知ノ通八月十日外交団公文ノ範圍ニ於テ支那側ノ回答ヲ駁シ外交団主張ノ根拠ヲ鮮明セルモノニ外ナラサルニ付御承知ヲ待タス本使ニ於テモ同意ヲ表シタル次第ニ付御了承ヲ請フ回答全文今四日夕刻發表ノ旨尚往電第八九四号所報ノ臨城事件以來發生セル各種ノ事件調査ハ各國ヨリ未タ出揃ハス本使ハ宜陽丸事件ハ純然タル土匪ノ行動トハ断定シ難キモ殆ト同一ノ暴挙ナルニ付外交総長ト会見ノ節此種事件ニ談及スル場合ニハ本件ヲモ單一一例トシテ加ヘ置カレ度キ旨首席公使ニ申入レ置キタリ

（別電）

臨城土匪ノ遣口ハ千九百二十二年ノ河南土匪ニ倣ヒタルモノナル所爾來曩ニハ湖北ノ土匪之ヲ用ヒテ終ニ其人質「メロット」氏ヲ殺害シ最近ニ至リテハ河南土匪再ヒ此方法ヲ以テ二名ノ外国婦人ヲ拉去シ其消息未タ不明ナリ在支外國人カ同様ノ運命ニ遭逢セムコトヲ怖ルルハ寔ニ当然ノ次第ナリ外交団ハ支那政府ニ於テ本件發生以後ハ所在ニ跳梁スル土匪討伐ノ為メ嚴重処置ヲ講セラルヘキヲ期待セシ所九月二十四日附貴翰御來示ノ手段ノ如キハ何等実効ナカルヘシ蓋シ単ニ土匪討伐ノ命令ヲ發スルニ止マラスシテ實際之カ討伐ヲ決行スルヲ最モ必要トスレハナリ現ニ地方官憲ハ各省大部ニ亘リ常ニ跋扈セル土匪ノ鎮壓ニ対シ何等誠意ヲ示サス却テ人民ノ困苦ト不幸ヲ來タスヘキ内乱ノ為メ其最モ優良ナル軍隊ヲ使用シツツアル実狀ナリ前陳ノ事情ニ顧ミ外交団ハ第一外人ノ生命自由權利並財産ノ尊重ヲ確保スルト共ニ当國內ニ於テ秩序ト法律トノ回復ニ資セムコトヲ希望スルヲ以テ八月十日付共同通牒ハ其趣旨並ニ決論ノ全般ニ亘リテ之ヲ固執セサルヲ得ス

五八七 十月五日 (発)

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

鐵道警備計画ヲ他ノ問題ニ利用セサルコト

二関シ米国公使トノ会談内容申進ノ件

第九一六号

往電第九〇七号後段ニ関シ

十月四日米国公使来訪ノ際昨日ノ同公使談話ニ言及シ鐵道警備計画ヲ他ノ目的ニ利用セザルノ趣旨ハ至極同感ニテ実ハ本使ニ於テモ本国政府ヨリ警備計画ノ実行ニ因リ特別ノ利益ヲ獲得セムトスルガ如キハ各国相互ニ成ルベク之ヲ避ケタシトノ趣旨ノ訓令ヲ再三接受シ居ル次第ニテ右ハ前記ノ趣旨ト合致スルモノト思考スル旨述ベタルニ米国公使ハ之ヲ首肯シタル上鐵道旅客ノ安全ヲ第一目的トシ其他ノ目的ニ本案ヲ利用セザルコトトシタキ意嚮ニテ例ヘバ臨城事件ニ関連シテ上海「ハーバー」問題ヲ提起スルガ如キハ即チ然リト答ヘタルニ付本使ハ右ノ如キモ其一例ナルベキモ本使ノ觀ルトコロニ拠レバ鐵道警備案実行ニ伴ヒ外国人ノ聘傭ニ当リ特ニ自國ノ利益ノミヲ計ラムトスルガ如キモ亦避ケザルベカラズト思考スル旨述ベタル処米国公使ハ成程

スコトヲ努ムルコトナシトセザルニ付此点注意ヲ要スルコトト信ズ

五八八

十月五日 (発)

在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

鐵道警備案提出ニ方リ我方ノ論拠回示方申進

ノ件

第九一七号

予テ御来示ニ基キ鐵道警備案ノ実行ニ依リ特ニ一二特定國ノ利益ヲ確保信用セシムルカ如キ結果ヲ避クヘキコトヲ明カニシ津浦線北段ニ對スル我方ノ行懸ヲ援用シテ英國側ノ魂胆ヲ牽制スルノ必要アルコトアルヘシト思考シタルヲ以テ往電第九一六号ノ通り不取敢米国公使ト会谈ヲ試ミタル次第ナルカ実ハ我方ヨリ右提言ヲ試ムルニ當リ其ノ方法ヲ誤ツニ於テハ却テ我方ニ對スル中傷ノ具ニ逆用セラルル虞ナキニアラス往電第八七二号ヲ以テ申進タル處モ畢竟右ノ懸念ニ基キ牽制手段トシテノ意味ニテ申上タル次第ニテ要スルニ本件津浦線北段問題ノ引用ハ英國側ノ野心明カナル場合ニ初メテ牽制ノ為試ムヘキ手段ニ外ナラス往電第九〇

其点モ然リトテ同感ノ意ヲ表シ実ハ自分ハ右ノ懸念ヲ避ケ列國間ニ猜疑心ヲ生ゼザラシメムガ為ニ成ルベク小國ヨリ聘傭セシムル方針ヲ執ル方然ルベシト認メ其趣本國政府ニ電稟セルコトアリタルニ本國政府ニ於テモ右自分ノ進言ニ好意的考慮ヲ加ヘツツアル模様ニテ且此等問題ニ関スル自分ノ意見ハ大体ニ於テ本國政府ノ方針ヲ代表スルモノト諒解セラレ差支ナキ旨答ヘタルガ次第本使ハ實ハ前述日本政府ノ意嚮ヲ委員會其他會議ニ於テ一言シタキ所存ナリシモ今日迄其機會ヲ得ザリシ次第ナルガ近ク之ヲ開陳スル方然ルベキヤ貴見如何ト試問シタルニ對シ米国公使ハ警備問題ハ猶委員會ノ手ニ在リ今後外交団會議ニ移シ次第支那政府ト交渉ヲ纏ムル迄ニハ相當ノ余日アルベク外國人傭聘ノ談ハ其後ニ至リ初メテ行ハルベキニ付其時ニ至リ持出ス方然ルベキ旨答ヘタルヲ以テ本使モ大体同感ナル旨述べ且本日会谈ノ内容ハ本國政府ニ電報シ差支ナキヤト述ベタルニ米国公使ハ異存ナキ旨答ヘタリ

惟フニ本問題ニ就テハ英仏二國ハ或ハ暗ニ提携シテ夫々自己ノ勢力扶植ニ努メムトスルヤモ測リ難ク旁々英仏二公使又ハ英仏二國政府ニ於テ米国公使又ハ米國政府ヲ口説キ落

七号前段ノ通本使ヨリ和蘭公使ニ内告セル結果鐵道警備案ニ付テモ更ニ明五日委員會再會セラルルコトナリタルニ付其ノ上ニテ外交団會議ニ付議セラレ最終決定ヲ終ヘタル後支那政府トノ交渉ニ移ルコトナルヘキ処素ヨリ支那側ニ於テハ外交団提案ヲ鵜呑ミニスヘクモアラス相當曲折ヲ免レサルヘキモ若シ右支那側トノ協定成立スルニ於テハ外交団ニ於テ鐵道ニ聘任セシムヘキ外國人ノ割當ニ付協議ヲ進ムル段取トナルヘキ処右外國人ノ振當如何ハ相當外交団内部ノ論議ヲ惹起スルニ至ルヘク殊ニ鐵道警備計画ハ先ツ京漢津浦ノ主要幹線ヨリ著手スルコトナレルヲ以テ多分仏國ハ京漢線英國ハ津浦線ニ對シ夫々自己ノ優越利益ヲ維持擴充スルニ力ムヘク從テ右ノ場合ニハ貴電第六〇五号御来示ノ次第モ前記ノ趣旨ニ外ナラスト思考セラレ旁右ノ含ミヲ以テ適宜措置致スヘキニ付御含ミアリタシ尤モ仮令牽制ニ過キサルニセヨ我方ヨリ提言ヲ試ムルニ當ツテハ的確ナル論拠ニ拠ルノ必要アルハ勿論的確ナル論拠ナクシテ斯ノ如キ提言ヲ為スハ不得策ナルノミナラス統シ十分ナル根拠アルニ於テハ英國側トノ話ノ模様次第ニテハ或ハ進ンテ津浦線ニ對シ日本人聘任方ヲ主張スルモ差支ナキ場合モア

ルヘクト思考スルモ本使ノ記憶並当館記録ノ関スル限り十分的確ナル根拠アリトハ認メ難キ処今後必要ノ場合ニ於ケル応酬上右津浦線北段ニ関スル我行懸並其ノ根拠等ニ関シ本使心得迄ニ詳細御電示アリタシ

五八九 十月七日（発） 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

四国公使會議ニ於ケル新大總統承認問題ニ関スル意見交換ニ付申進ノ件

第九二六号

十月六日米国公使館ニ於ケル四国公使會議中葡国公使來訪四国公使ニ対シ実ハ今朝外交部員総長ノ命ニ依リ同公使ヲ來訪ノ上新大總統ハ九日入京十日ノ國慶日ニ外交團ヲ招クコトトシタキ考ナルカ外交團ハ來会スルヤト尋ネタルニ付右様ノコトハ暫ク見合ハス方然ルヘキ旨答ヘ置キタリトテ四国公使ノ意向ヲ尋ネタルニ付四国公使ハ異存ナキ旨ヲ答ヘ葡国公使及英仏米三公使トモ臨城事件ニ関スル外交團ノ主張ヲ飽迄貫徹スル為メ大總統ヲ認メサル様スヘシトテ外交意見ヲ開陳シタリシカ大体外交團ノ要求ニハ商議ノ余地

アルモノト無キモノトアリ損害賠償中間接損害ハ商議ノ余地アルモa、b、cハ商議ノ余地ナク処罰ノ点所然リ將來ノ保障ノ点ハ細目ハ別トシテ主義ニ於テハ支那ヲシテ之ヲ認メシメサルヘカラスト云フニアリ尚英米仏公使ノ本件ニ対スル態度極メテ強硬ニシテ本件解決ノ為ニハ大總統承認問題ヲモ極端ニ利用セムトスルモノナルカ如ク十月十日ノ國慶日ニ際シ大總統邸ニ備付ノ名簿ニ署名スルコト如何トノ問題ニ付本使カ右ハ敢テ新總統就任ノ問題ト直接關係ナキカ故ニ差支ナカルヘシト述ヘタルニ対シ英國公使ハ直ニ反対ノ意思ヲ表示シ他ノ二公使モ此反对ニ賛成シタル程ナリ鐵道警備案委員會ハ五日開会ノ筈ナリシモ八日開会ノコトニ變更シ又外交團モ同日會議ヲ開キ大總統選舉問題ニ付討議スル筈

五九〇 十月八日（発） 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

鐵道警備問題委員會會議ニ関シ申進ノ件

第九三一号

（四国公使會議ノ件）
往電第九二六号ニ関シ

十月八日鐵道警備問題委員會ヲ開キ八月三十一日付機密第七五二号拙信修正案ノ校合ヲ了シ且草案中 *superintendents* ヲ削リ又首席公使發外交部宛公文案中第三項 *which has* 以下 of the lines 迄ヲ削除スルコトナレリ右本日中ニ委員長タル和蘭公使ヨリ首席公使ニ報告スル筈ナルガ委員會決定案ハ外交團會議ノ当日迄ハ委員以外ノ各國公使ニハ洩ラサザルコトニ決定ヲ遂ゲタリ

五九一 十月九日（発） 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

曹大總統就任ニ関連シ外交團ノ執ルベキ態度

ニ付協議ノ件

第九三三号

往電第九二六号ニ関シ

十月八日外交團會議ヲ開キ曹大總統選舉ニ関連シ外交團ノ執ルヘキ態度ニ付協議セリ經過大要左ノ通
先ツ首席公使ヨリ往電第九二六号同公使ト外交部員トノ話合ノ次第ヲ披露シタル上八日朝重ネテ外交部員來訪新大總統ノ接見ハ十日ニテ不可ナリトセハ何日頃ナラハ外交團ノ

承諾ヲ得ヘキヤト尋ネタルニ付今日ノ処何ントモ確答シ難キ旨答置タリト述ヘテ外交部ニ対スル挨拶振ニ付各同僚ノ所見ヲ求メタリ右ニ対シ各國公使ヨリ種々意見ノ開陳アリタルカ英米仏三国公使ハ例ニ依リ最強硬ノ意見ヲ吐キ特ニ英國公使ハ曹錕ノ當選ハ賄賂等ニ依リタルモノニテ余リ感服出來難キノミナラス同人ハ直魯予巡閱使トシテ臨城事件ニ対スル責任ヲ有ス從テ臨城事件ニ対シ満足ヲ与ヘサル以上敢テ大總統當選ヲ承認セスト謂フ訳合ニハアラサルモ外交團ニ於テ其ノ接見ニ対シ留保の態度ニ出ツルハ当然ノ事ナリト述ヘ又米国公使モ支那政府ニ於テ臨城問題ニ関シ満足ヲ与ヘサル限リ断シテ新總統ノ接見ニ参列スルニ及バスト切言シタルカ其ノ間伊太利、白耳義兩國公使ハ独リ臨城事件ノミナラス幾多ノ事件ニ対シ支那政府ハ外國人ノ生命財産ノ保障ニ関スル條約上ノ責務ヲ果サス義和團事變最終議定書ノ保障ヲ実行セサルモノニシテ右諸懸案ニ対シテモ満足アル保障ヲ得ルニアラスンハ大總統接見ニ応セサルコト然ルヘク又右等未決ノ懸案ハ各國殊ニ日本ノ如キ其ノ例勘カラサルヘシト主張シ結局外交團ノ殆ト全部ガ支那政府ニ於テ臨城事件ニ対シ往電第二二六号既報ノ範圍ニ於テ満

足ナル回答ヲ与ヘ且幾多事件ニ対スル条約上ノ責務実行方ニ関シ保障ヲ与ヘサル限り新總統接見ニ応セサルヲ可トスルニ大体一致スルニ至レリ斯ノ如キ形勢ニ至レルハ英仏米三国公使カ極力強硬論ヲ主張シタルト首席公使カ三国公使ノ意向ヲ体シ他ノ各公使ヲ同意セシムル様論議ニ努メタルニ依ルモノナリ大勢右ノ通ナルカ独逸公使ハ新總統ノ就任ト臨城事件トヲ牽連セシムルハ面白カラス余リニ臨城問題ニ固執スルコトナク考慮スルモ可ナラスヤ尤モ右ハ全然一己ノ所見ニシテ強テ他同僚ト態度ヲ異ニセントセル趣旨ニハアラスト提言シ本使モ亦往電第九二三号後段ノ(一)(二)ノ如キ事項ニ関シ三公使側ノ了解ヲ求ムルモ到底無効ナルノミナラス却テ彼等ノ感情ヲ害スルニ止マルコト明白ニテ去レハトテ本使一人接見式ニ參列スルコトモ出来難ク旁出来得ル限り形勢ヲ緩和スルノ見地ヨリ一同ニ対シ臨城問題及他類似ノ懸案解決ニ対シ満足ナル保障ヲ求ムルハ固ヨリ結構ナルモ之ヲ新總統接見參列ノ条件トスルニ於テハ右談合纏ラサル結果忽チ支那政府トノ間ニ「ヒツチ」ヲ生スルニ至ルヘク其場合現政府反対派ハ此形勢ヲ利用シテ矛ヲ現政府ニ向フルコトナリ茲ニ再ヒ内乱ヲ惹起スルノ虞ナシトセス

日本政府ニ於テハ仮令支那政府ニ対シ何等強制手段ヲ執ラサルヘカラサル事態ニ陥ルコトアリトスルモ其方法等ニ関シテハ慎重ナル考慮ヲ要スト思考シツツアル次第ニシテ旁臨城事件等ノ解決ハ之ヲ独立ニ主張スルコト勿論差支ナキモ此際新總統接見參列ノ明白ナル条件ト為スコトナク(實際上条件付ト同様ナルヘキヤモ計リ難キモ)接見ニ付テハ單ニ当初首席公使ノ外交部員ニ対シ答ヘ置キタル通兎ニ角外交団接見ハ何等カノ口実ヲ以テ差当リ延期スル方然ルヘシトノ挨拶ニ出ツル方得策ナルヘキ旨ヲ敷衍説述シタルモ終ニ他同僚ノ賛同ヲ得ルニ至ラス結局今八日午後首席公使外交部側ニ対シ前記臨城問題其他条約上義務履行ニ対シ満足ナル保障ヲ与ヘムコトヲ要求シ若シ支那政府ニシテ之ヲ応諾セスムハ新總統ノ接見ニ応セサルノ已ムヲ得サルニ至ルヘキヲ陳述スルコトトシ明九日午前更ニ外交団會議ニ於テ首席公使ヨリ右ニ関スル報告ヲ聞キタル上重テ協議ヲ尽スコトトシ散会シタルカ当日首席公使ヨリ同公使ニ於テ呢懇ノ曹錕周囲ノ有力者ヨリ内密ニ得タル情報ニ依レハ支那政府ハ多分臨城問題ニ関スル外交団ノ要求ヲ容ルルニ至ルヘシトノコトナル旨語レリ尚往電第九二三号末段閣下若ク

ハ帝國政府ヨリ祝辭ヲ申入ラルルコトハ現場ニ在ル本使ノ立場トハ異リ差支ナシトハ思考セラルルモ本日ノ會議ニ於ケル各国公使ノ態度並臨城事件公文ノ調印国トシテ協調ヲ要ストノ見地ハ兎ニ角御考慮ニ値スヘシ実ハ予テ御訓示ノ通何等強制手段ニ出ツル場合ニハ我方トシテ彈春事件等ノ關係モアリ請訓致スヘキ筈ナルモ期日切迫ノ為メ篤ト御協議ヲ遂クル時間ナク且庄迫ノ程度輕微ナル故御訓示ヲ俟タス接見式挙行ノ場合他ノ各公使出席セサル節ハ本使モ參列セサルヘキニ付右御了承アリタク尤此場合他ノ各公使ノ欠席ハ臨城事件等解決ノ条件履行セラレサル為ナルニ反シ本使ノ欠席ハ單ニ各同僚欠席ノ為メノミニ依ルモノナリ為念

五九二 十月九日(發) 伊集院外務大臣ヨリ
在中國芳沢公使宛(電報)

津浦鐵道北段ニ対スル日本ノ利益主張ノ根拠

二 關シ申進ノ件

第六三七号

貴電第九一七号ニ関シ

津浦鐵道北段ニ対シ我利益ヲ主張スヘキ特ニ的確ナル根拠

九 臨城事件 五九二 五九三

ニ乏シキコトハ貴官ニ於テ十分御承知ノ通りナルカ英國ト雖モ日本ニ比シ法律上有力ナル論拠ヲ有スル次第第二ハアラス而モ同鐵道北段ニ英國勢力ノ伸張スル結果日本ノ受クル經濟上ノ影響ハ甚タ重大ニシテ是レ往年右北段ニ関シ日英間ニ幾多ノ商議ヲ重ヌルニ至リタル次第ナルカ當時交渉ノ経緯並同鐵道ニ対スル日本主張ノ根拠等ハ委細貴館ニ転電済ニ付必要ニ応シ往電第四五四号ノ(二)ノ趣旨ヲ体シ適宜御措置相成タシ

五九三 十月十三日(發) 在中國芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

中国側ニ於テ臨城問題ニ関スル外交団要求ノ

一部承認及ビ新總統ノ外交団引見式ニ付首席

公使談話ノ件

第九五五号(大至急)

十月十三日葡萄牙公使ハ本使ニ対シ昨日ヨリ本日ニ亘リ外交総長ト懇談ヲ重ネタル結果支那政府ニ於テ臨城問題ニ関スル外交団ノ要求ニ対シ(一)賠償ノ件ニ付テハ外交団第一次通告記載ノ附帶賠償ニ付テモ協議ニ応スヘク(二)将来ニ対ス

ル保障ノ内鉄道警備問題ハ外交団ト協力ヲ考慮スヘク(三)田中玉ハ支那政府ノ外交団ニ対スル回答ト同一日附ノ大總統令ニテ其ノ職ヲ免スルコトヲ承諾スヘシトノコトニテ右談合ノ結果ハ早速重ナル同僚ニ伝ヘ協議スヘキモ是以上ノコトハ不可能ニテ先ツ満足ト認メラルルニ付今十三日中ニ外交總長ニ同意ノ確答ヲ与フルト同時ニ先方ヨリ案内状ヲ送り越シ以テ十五日新總統ノ外交団引見式実行ノ運ニシタキ所存ナル旨ヲ語リ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ノ関スル限り全然異存ナキ旨答ヘ置キタリ
(六九三文書) (六九四文書)
右様ノ次第ニ付往電第九四七号及第九五一号ニ対シ是非十四日夜迄ニ何分ノ儀火急御電訓ヲ請フ

五九四 十月十五日(発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

臨城事件ニ関スル中国政府回答公文送付越南ノ件

第九六八号

外交總長ヨリ十五日付ヲ以テ(一)追加賠償ニ付テハ主義上是ヲ承諾シ但右賠償ノ性質及額ニ関シテハ後日ノ商議迄留保

五日以来總統府並外交部側ト数次交渉ノ結果支那側ニ於テハ田中玉ヲ巴益威上將軍ニ任ズルコトニ決定シタルハ同人処罰決定前ニシテ其任命發表モ自ラ十五日以前ナラザルベカラザリシヲ取扱者ノ不注意ヨリ同人免職ト同時ニ發表セラレシ為恰モ免職後上將軍ニ任命セラレタルガ如キ形トナリタルモノニ付國務總理ヨリ大總統ニ宛テ右ノ事情ヲ述ベテ日附ノ更正ヲ求メ大總統ヨリ右國務總理ノ呈請ヲ許可スル旨ノ大總統令ヲ發布スルコトトシ本件ヲ解決スルコトト致シタキ旨希望シ居レリトテ右國務總理ノ呈請案文ニ多少文字上ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ朗読シテ各国公使ノ意見ヲ求メタル処一、二異議ヲ唱フルモノアリシモ結局右支那側ノ解決案ニ基ク首席公使ノ案文ヲ承認スルコトトナリ其趣首席公使ヨリ支那側ニ通告セラレタルガ十月十九日ノ政府公報ヲ以テ『發表命令ノ順序顛倒ノ更正ヲ声明シテ事實ニ符合セシムル件ニ関シ高總理呈請ノ趣ヲ認メ記録ニ止ムルコトヲ許ス』トノ大總統令發布セラレタリ
猶事情ヲ説明セル前記高總理呈請ハ一兩日中ニ發布セラルル筈ナリ

スルコト(三)責任者ノ処罰ニ付テハ山東督軍ヲ十四日付大總統命令ヲ以テ解職セルコト(三)土匪討伐ニ関シテハ地方官憲ニ対シテ改メテ全力ヲ拏ケテ右任務ヲ遂行スヘキ旨命シタルコト(四)鉄道警備ニ付テハ支那政府ハ予メ外交団ノ提案ニ付何等「コミット」スルヲ得サルモ外交団カ本問題ニ「インタレスト」ヲ取ラレ支那政府ト協力セラレントスルハ十分諒トスル処ナルコトヲ述ヘタル公文ヲ各公使宛送り越セリ右全文直ニ發表セラル

編註 本電全文ハ十月十六日伊集院外務大臣發第五五九号ヲ以テ在米埴原大使ヘ転電セラレタリ

五九五 十月二十日(発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

田中玉ノ処分ニ関スル中国政府ノ釈明ニ付申進ノ件

第九八三号

(田中玉ノ任免願維鈞辭意提出ノ件)
往電第九七三号ニ関シ

十月十八日葡国公使館ニ外交団會議ヲ開キ首席公使ヨリ十

五九六 十月二十日(発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

隴海鐵道ノ鐵道警備經費負担除外方和蘭公使出ノ件

第九八四号

十月十七日鐵道警備問題ニ関スル外交団委員會開催、委員長和蘭公使ハ白耳義公使ヨリ鐵道警備案ニ依レハ交通部管下ノ各鐵道ハ其ノ總收入中ヨリ警備經費ヲ差引クコトナリ居レル処隴海鐵道ニ関スル一九一二年支那政府ト白耳義会社トノ契約ニ依レハ同鐵道工事中ハ工事資金並臨時收入ハ其ノ工事及借款ノ用途以外ノ目的ニハ支出スルコトヲ得ストアリ旁同鐵道ノ收入ニ付テハ同鐵道ノ運行完成ニ至ル迄ハ前記鐵道警備ニ関スル經費ヲ負担セシメサルモノト了解ストノ趣旨ノ申出アリタル趣ヲ披露シ次テ白耳義公使ヨリモ同様ノ趣旨ヲ説述シ右ニ対スル各同僚ノ意見ヲ求メタルガ他同僚ニ於テ何等異議ナカリシヲ以テ本使ニ於テモ別ニ異存ナキ旨答置キタリ

五九七 十月二十二日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

田中玉ノ罷免ニ関シ公文発表ノ件

第九八九号

往電第九七三号ニ関シ二十二日政府公報ニテ左ノ如キ公文
ヲ発表セリ

凌爵本月十二日大總統著宿ヲ顧念スルノ趣旨ニ依リ蔭昌等
ヲ特任シテ上將軍ニ列シ又山東督軍田中玉久シク軍務ニ従
事セルノ廉ニ依リ同列特任ノ恩典ヲ施スヘキ旨面諭ヲ奉セ
リ次テ陸軍部ヨリ該督軍ハ既ニ議定ノ結果免職ヲ許スコト
トシ其旨発表方決定セル趣回報ニ接シタリ查スルニ右ハ任
命先ニシテ被免後ニアリ然ルニ公報登載ニ際シ之カ順序ヲ
前後シ終ニ公布ノ日期ヲ顛倒セリ右ハ事實ニ附セサルヲ以
テ政府公報ノ校正ヲ命スルト共二十二年十月十八日該事實
ヲ稟請シ既ニ指令ヲ奉セリ依テ茲ニ校正ス

五九八 十一月五日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

鐵道警備問題ニ関シ坂西中將ノ中国側ニ対ス

ル意見書ニ付嚴重注意方位置キノ件

件

第一〇五一号

九日唐在礼来訪鐵路警備督弁就任ノ挨拶ヲ述ベタル后左ノ
如ク語レリ

同督弁公署ハ北京ニ置キ専門委員若干ヲ任用シ先ツ主要鉄
道ノ警備ヲ指揮監督シ順次全国ノ鐵道ニ及ボス予定ニテ差
当リ各鐵道ノ警備、配置、訓練、給与等ノ現状ヲ調査セン
トス現今土匪ノ為交通ガ不安状態ニアルハ遺憾ナルガ地方
官憲ハ鐵道自身ヨリ以上ニ匪賊掃滅ノ必要ヲ感シ居ルヲ以
テ彼我連絡シ鐵道ノ安全ヲ期セントス「モンテ」ハ鐵道警
備ノ状況ニ精通シ今回調査ノ結果ヲ交通部ニ報告セリ同人
ガ本公署ニ関係スベキヤ否ハ承知シ居ラズ云々

右ニ対シ本使ハ単ニ鐵道警備ノ困難及責任ノ重大ナルベキ
ヲ述べ同時ニ右警備案ハ目下外交団ニテ考慮中ナレバ其内
提議セラルベキ旨付言シ置ケリ

同人ハ順次各公使ヲ訪問シ居レル由ナリ

第一〇三九号

坂西中將ハ顧問タル資格ニ於テ鐵道警備問題ニ付七月三十
日内務総長ニ又八月二十一日曹錕ニ意見書ヲ提出シ外交団
ノ協議熟セザルニ先チ支那自ラ警備ヲ充実シ匪賊ヲ討伐シ
外国ノ容喙ヲ避クヘキ旨ヲ論ジタルガ本使ハ之等意見提出
後右ノ事實ヲ承知シタルヲ以テ坂西中將ハ支那ノ顧問ナリ
トテ現職將校タル以上其意見ガ全ク日本政府ト関係ナシト
認メラレサル場合アリ得ヘキガ故外交団ニ於テ支那ニ提出
スヘキ警備案ヲ研究討議シツツアル際坂西中將ヨリ右ノ如
キ意見ヲ提出シタルコトハ若シ外間ニ伝ハルニ於テハ誤解
ヲ招ク虞ナキニアラサルヲ以テ嚴重注意方同中將ニ話置キ
タル処同官ノ見ル処ニテハ右心配ナシトノコトナリ目下警
備案ノ提出期モ近ヅキツツアル際一応貴聞ニ達シ置クコト
可然ト存ジタルニ付茲ニ電報ス右意見書ヲ郵送スヘキモ不
取敢陸軍側ヨリ御取寄ノ上御一覽アリタシ

五九九 十一月十日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

鐵道警備督弁ニ就任セル唐在礼ノ内話報告ノ

六〇〇 十一月二十日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

外交団会議開催ノ予想ニ関シ首席公使ノ内話

申進ノ件

第一〇八四号

十一月二十日首席公使ヲ訪問シ鐵道警備案ガ首席公使ニ報
告セラレテ以来相当時日ヲ経過シ居ルノミナラズ米国公使
ハ本日雲南ニ向ヒ当地ヲ出発セル処同案ニ関スル外交団会
議ハ何日頃開催セラルベキ見込ナルヤト尋ネタルニ同公使
ハ往電第一〇七六号所報過日同公使ノ本使ニ内話シタルト
コロヲ繰返シタル上実ハ本日モ交通総長ヲ訪問シテ鐵路警
備督弁公署ノ組織ニ関スル進行ノ模様ヲ尋ネタルニ交通總
長ハ自分限りノ内密情報トシテ唐在礼ハ同督弁公署ヲ内務
交通等ノ行政各部ト同等ノ地位ニ引上ゲ其督弁ヲ総長ト同
格ナラシムルコトヲ要求シ居ル処右要求ヲ容ルルニ於テハ
引テ諸種ノ複雑ナル問題ヲ生ズルノ虞アルニ付慎重考慮中
ナルヲ以テ右問題確定スルニ至ラバ他ノ組織モ急速決定ヲ
見ルニ至ルベシト述ベタルニ付右案確定次第通知ヲ得タシ
ト述ベタル旨ヲ語り数日後右支那側ノ案ヲ見タル上ニテ外

交団会議ヲ開催スルコトト致シタキ考ナル旨ヲ内話セリ

六〇一 十一月二十六日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

日本軍人ガ中国政府ニ対シ外人傭聘ノ拒絶
方ヲ慫慂セリトノ報道ニ付英國公使ト会談ノ
件

第一〇九八号

本月十六日ノ東方時報ニ鉄道警備問題ニ関シ各種日本人ガ
政府ノ内意ヲ受ケテ頻リニ暗中飛躍ヲ試ミ居リ殊ニ当時滯
燕中ノ佐藤少將ヲ始メ軍人等ハ支那政府ニ対シ鉄道警備ニ
外人ノ傭聘ヲ拒絶スベキコトヲ極力慫慂シツツアリ其ノ
結果支那政府ハ右日本側ノ忠言ヲ聴キ外人ヲ使用セザル
コトニ決定セリ云々ノ記事アリタルヲ以テ本使ハ不取致同
紙記者ヲ招キ然ルベク是正セシメ置キタル処 (公第六二四
号参照) 二十日主席公使ト会見ノ際右記事ニ関シ英國公使
ニ於テ日本ノ遣口ニ対シ頗ル憤慨シ居ルニ付適當ノ機会ニ
於テ同公使ニ説明ヲ与ヘラレテハ如何トノコトナリシヲ以
テ先般來ノ行懸モアリ無益ニ英國公使ノ誤解ヲ深クスルモ

備セシムルコトモ然ルベキ旨説キタルニ付外人ヲ容ルル
主義ヲ變ヘザル以上夫レモ可ナリト答ヘ置キタルガ主席公
使ヨリ支那側ニ対シ多分委員會繁案ヲ内示シタリト信ズル
旨ヲ述ベ本使ガ意外ノ面持ヲナセルヲ見テ蓋シ主席公使ハ
支那側トノ無用ノ衝突ヲ避クル為メ支那案ヲシテ成ルベク
外交団案ニ接近スルモノタラシメ以テ「コラボレーション」
ノ目的ヲ達セントスルモノナラント弁護シ居リタリ

六〇二 十二月十二日 伊集院外務大臣ヨリ
在英、米、仏国各大使宛

中国鉄道警備英國原案ニ関スル中国側新聞批
評ニ対シ日本ノ態度釈明ノ件

- 付属書一 十月十一日付英國公使ヨリ蘭国公使宛書翰
中国新聞ノ中傷論評ニ対シ釈明方措置アリタ
キ件
- 二 十月十七日付蘭国公使ヨリ葡国公使宛書翰
英國側ノ真意伝達ノ件
- 三 十月十九日付芳沢公使ヨリ蘭国公使宛書翰
日本ノ態度釈明ノ件

大正十二年十二月十二日

伊集院大臣

面白カラズト存ジ二十二日同公使ヲ訪問シ前記新聞記事ノ
何等根拠ナキコト日本政府トシテハ警備問題ニ付其ノ修正
意見ヲ大体容ラレ此上ハ飽迄モ關係諸國ト協調ヲ保ツ方
針ナル次第ヲ説明シタル処同公使ハ本使ノ好意ヲ謝シタル
上抑々支那鉄道ノ警備ニ外人ヲ使用セシムルハ目的達成上
絶対ニ必要ニシテ何等支那ノ主權トモ牴触スルモノニアラ
ズ然ルニ裏面ニ於テ外人傭聘ニ反対スルモノアルハ甚ダ其
ノ意ヲ得ズトテ尚釈然タラザル模様ナリシモ更ニ詳細説明
ノ上多数日本人ノ内多少ノ異議アルハ已ヲ得ザルコトナル
ガ之ガ為メ日本政府ノ態度ニ変化アル次第ニアラザルニ付
安心セラレタキ旨述べ置タルガ外人ノ傭聘ニ対シ日本側反
對云々ハ英國公使ニ於テモ自然「モンテ」將軍又ハ支那側ヨ
リ何等カ耳ニシタル次第ナルヤモ計リ難キ処我顧問武官ノ
支那側ニ対スル忠告ハ唯命令權ハ支那側ニ於テ之ヲ保持ス
ルコト必要ナリト云フ趣旨ニテ補助スルトカ又ハ顧問的職
務ニ外人ヲ容ルルコトハ武官等ニ於テモ同感ニテ支那側
ニ對シテモ之ヲ勸奨シ居ル処ニ有之英國公使ハ之ヲ間違ヘ
テ種々誤解ヲ抱キ居ルモノノ如ク尚右談話ノ際英國公使ハ
同公使上海ニ向ケ出發前主席公使來訪シテ支那側ヲシテ準

英大使 宛各通
在米大使 仏大使

亜機密合第二九二号

支那鉄道警備ニ関スル英國公使原案カ帝國政府ノ修正意見
ニ基キ修正ヲ見タル次第ハ

(米) 往電第五一〇号

(英) 在米大使宛往電第五一〇号

(仏) 同

ヲ以テ及御通報置候処右ニ関連シ当時北京ノ二三新聞ハ英
國側ノ面目ヲ傷クルカ如キ評論ヲナセルヲ以テ英國公使ハ
別紙甲号写ノ如キ書面ヲ委員長タル和蘭公使ニ送り本件真
相釈明方委員會ニ於テ可然措置アリ度旨ヲ求メタル趣ナル
カ十月十七日鉄道警備問題委員會開催ノ際委員長ハ右英國
公使來柬ヲ讀上ケタル上別紙乙号写ノ如キ書翰ヲ首席公使
ニ致サムコトヲ提議シ各公使何レモ賛意ヲ表シタルニ付芳
沢公使モ之ニ同意スルト同時ニ日本側ニテ故意ニ此ノ種宣
伝ヲ為セルカ如ク誤解セラルルヲ防ク為適宜弁明シ其後委
員長ヨリ署名ノ為案文ヲ送付シ來ルヲ俟チ別紙丙号写ノ如
キ書面ヲ委員長ニ送付シ之ヲモ前記書面ト一括首席公使ニ

送付シ各同僚ノ参考ニ供セラレ度要求シ置キタル処其ノ後
委員長ヨリ芳沢公使要求通取計済ナル旨回答アリタル趣ニ
有之候委細ハ別紙ニ就キ御了悉相成度此段御参考迄申進候
也

(圖外註記)
別紙トシテ在支公使來信機密第八五六号附屬書甲ノ
丙号ノシノ写添付ノロー

(左圖書一)

英國公使ヨリ蘭国公使宛書翰
中国新聞ノ中傷論評ニ対シ説明方措置アリタキ件

British Legation,
Peking.

October 11th. 1923.

My dear Colleague,

You are aware that at the request of my Colleagues on the Committee of the Diplomatic Body, entrusted with the drafting of the original Collective Note of the 10th August about the Lincheng incident, I prepared a tentative scheme for giving effect to the contemplated reorganization of the Chinese Rail-

way Police under the supervision of foreign officers which formed one of the demands put forward in that Note.

It is unnecessary for me to describe those proposals which as you know were of a purely tentative character and intended merely to serve as a basis for informal and confidential discussions with a view to the elaboration of a final draft.

While those discussions were proceeding a report appeared in the Peking newspapers commenting on the proceedings of the Committee and definitely ascribing to my initiative a scheme for the policing of the Chinese railways with the alleged ulterior motive of securing an international control of those lines in British interests.

Had the newspaper reports been confined to these absurd statements I should have been prepared to allow the matter to pass; but the "Peking Leader" and the "North China Standard" of the 10th instant

publish a message from the "Nippon Dempo" agency on the same subject alleging that "all the principal suggestions by the Tokyo Government for revision of the British previous proposal have been acceded to. Thus, the new proposal has absolutely no clause inimical to the sovereignty of China and the spirit of the Washington Agreement."

The suggestion contained in this message that I or my Government would have put forward, or that any of my Colleagues on the Committee would have considered for a moment, any proposal "inimical to the sovereignty of China and the spirit of the "Washington Agreement" is really intolerable and as I am naturally precluded by the obligations of secrecy towards my Colleagues from issuing any public statement on a matter which is still under the consideration of the Diplomatic Body, I have reluctantly arrived at the decision that in order to protect myself and my Government from what would appear to be a

deliberate campaign of misrepresentation I must request my associates on the Committee to be so good as to present to the Diplomatic Body a report setting forth the true facts of the case and rebutting, as they alone are in a position to do, the gross misrepresentations to which I and my Government have been exposed.

Believe me,
Yours very sincerely,

(Signed) Ronald Macleay

His Excellency
Monsieur W. J. Oudendijk,
Minister for Holland, Peking.

(右圖書一)
蘭国公使ヨリ葡国公使宛書翰
英國側ノ真意伝達ノ件

Peking, October 17th, 1923.
Monsieur le Doyen,
While forwarding to Your Excellency the draft of

a tentative scheme for the reorganization of the Chinese Railway Police for the consideration of the Diplomatic Body, the Committee entrusted with the drafting of the Collective Note of the 10th August about the Lincheng incident, think it their duty in view of certain erroneous reports which have been circulated in the press about their activities in the matter, to communicate the following facts to Your Excellency with the request that they be brought to the knowledge of our Honorable Colleagues.

With regard to the campaign in the press about the so-called British proposals for an international control of the railways the Committee would like to point out that no such proposals ever existed. It was at the request of the chairman of the Committee with the concurrence of his colleagues during the preliminary discussions of the reorganization of the existing railway police, which formed one of the demands put forward in the Lincheng Note of August

10th, that the British Minister put certain definite points on paper with a view to clarifying the ideas that had been expressed and to furnishing a basis for the Committee's informal and confidential conversations which up to that moment had been of too vague a character to lead to any tangible results.

During these discussions the British Minister never brought forward any specific British interest nor did he propose the appointment of any British subject for any position in connection with the said reorganization. The above-mentioned tentative scheme therefore is the fruit of the collective labour of the Committee and of their unanimous decisions.

In view of the foregoing it is also clear that the suggestion contained in a message published in the "Peking Leader" and the "North China Standard" of the 10th instant to the effect that "all the principal suggestions by the Tokio Government for revision of the British previous proposal having been acceded to, the

(大 體 察 轉 送)

芳 沢 公 使 ヨリ 蘭 國 公 使 宛 書 翰
日 本 へ 懸 渡 郵 明 へ 付

October 19th, 1923.

My dear Colleague,

In adding my signature to the proposed letter to the Dean of the Diplomatic Body in regard to the draft of the tentative scheme for the reorganization of the Chinese Railway Police, I have the honor to remind Your Excellency of the statement I made at our last meeting which was to the following effect:-

I deeply appreciate, in common with my other colleagues, the especial efforts His Excellency the British Minister was good enough to take it upon himself to make in drafting the railway police scheme which formed the basis of the Committee's discussion and I greatly regret that he should have been subjected to unwarranted comments in the local papers. At the same time I must declare that neither the Japanese

new proposal has absolutely no clause inimical to the sovereignty of China and the spirit of the Washington Agreement", is without foundation inasmuch as, apart from the fact that no "British" proposal existed, this Committee would never have considered and far less have proposed to the Diplomatic Body any scheme inimical either to the sovereignty of China or to the spirit of the Washington Agreement.

For obvious reasons the British Member of this Committee whose letter to the Chairman is enclosed herewith, had to abstain from signing this letter.

We avail ourselves of this opportunity, Monsieur le Doyen, to renew to Your Excellency the assurances of our highest consideration.

His Excellency

Monsieur de Freitas,

Minister of Portugal and Dean of the Diplomatic Body, Peking

Government nor the Japanese Legation is in any manner whatever responsible for the reports circulated in this matter.

Quite superfluous as it is, I deemed it none the less advisable to add the latter part of my statement inasmuch as mention had been made of a "deliberate campaign of misrepresentation" along with the names of a Japanese news agency and a Japanese owned newspaper—a combination of terms which might lend itself to misunderstanding or which at first sight might even be taken as an insinuation although I am quite sure that there is no such intention whatever.

In this connection I beg to submit that should it be proposed at a later date to give publicity to the matter in hand the contents of the present letter to the Dean might not be sufficient in themselves to clarify the whole subject matter and that I might have to ask that it should be accompanied by a fuller statement of the facts of the case.

I should be very much obliged if Your Excellency would be good enough to bring the above along with the letter of the British Minister to the knowledge of His Excellency the Doyen for the information of our Honorable Colleagues.

Believe me, my dear Colleague,
Yours very sincerely,

His Excellency

Monsieur W. J. Oudendijk,

etc., etc., etc.,

Minister of Netherlands,

Peking.

六〇三 十二月十三日 (発) 在中国芳沢公使ヨリ
伊集院外務大臣宛 (電報)

中国ノ内閣問題及ビ鉄道警備案ノ提出時期ニ

関シ申進ノ件

付記一 大正十三年三月十二日付芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛機密第一三八号信

臨城事件其後ノ経過ニ付報告ノ件

二 大正十三年五月三日付芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛公第一七三号信

臨城事件ノ損害賠償要求ニ関シ外交部ヨリ外交団ニ回

答ノ件

三 大正十四年二月二十二日芳沢公使発幣原外務大臣宛電

報第一七一号

臨城事件賠償金差当り三十四万ドル支払ニ関スル件

第二一五一号

衆議院議長問題ハ目下当地政界ノ中心問題トシテ大小ノ事件多クハ之ガ解決ニ係リ居ルモノト觀察セラルル処元来吳景濂ハ曹錕大統領ニ選挙セラルルト共ニ内閣總理タルノ野心ヲ有シ天津派ハ大選当時ノ吳ノ尽力ニ報ユル意味ニ於テ吳ヲ支持シツツアリシガ如キモ吳ノ總理タルコトニハ吳佩孚ハ勿論高凌霨、呉毓麟、王毓芝等現内閣関係ノ面々之ヲ喜バズ遂ニ孫宝琦ヲシテ中間内閣ヲ組織セシムル事トシタル次第ハ御承知ノ通ナルガ孫ノ總理同意案ガ衆議院ニ提出セラレタル儘今日迄討議セラレザルハ之ヲ討議スル為ニハ衆議院ノ議長問題ヲ先決スルノ必要アリ而モ高凌霨等ハ吳ガ議長トシテ権力ヲ維持スルヲ喜バズ此ノ機会ニ於テ其ノ

地位ヲ奪ハントシ憲政党ヲ組織シテ之ガ駆逐ニ狂奔シ吳ハ之ニ對抗シテ之ニ黄白ヲ散ジ議員ノ争奪ニ熱中シツツアルガ為ニシテ十一日ノ衆議院ガ久シ振リニテ開会シ定数ニ達シタルモ反吳派ハ仮議長ヲ選バントシ吳ハ之ヲ防ゲタル為当日ノ議事日程タリシ孫宝琦ノ同意案モ遂ニ討議セラルルニ至ラズシテ散会セリ右ノ如ク目下ノ形勢ハ甚ダ混沌トシテ逆睹シ難キモノアルモ保定派ノ作戦通り議長問題解決セバ孫宝琦若ハ顔惠慶アタリヲシテ内閣ヲ組織セシムベキ順序ナルガ如シト

三井無線問題ニ関シ本使ヨリ王毓芝等ニ申入レタル事モ我方希望通り捗々シク進捗セザルモ右ノ如キ政界ノ形勢ニ原因スルモノト認メラルル処数日前鉄道警備案提出時期ノ問題ニ関シ仏国公使ノ意見ヲ探グリタル際ニモ内閣問題決定スル迄ハ警備案ヲ提出シ来ラザルベシト語り居リタリ

(付記一)

大正十三年三月十二日付芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛機密第一三八号信

臨城事件其後ノ経過ニ報告ノ件

機密第一三八号

大正十三年三月十二日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

臨城事件其後ノ經過報告ノ件

三月十一日外交団會議ノ後首席公使ニ対シ臨城事件ニ関スル其後ノ經過ヲ質問シタルニ損害賠償要求ハ各国ノ分ヲ同公使ノ手許ニ一括シテ支那政府ニ提出スルコト相成居リ伊太利ノ分ヲ除ク外ハ悉ク既ニ出揃ヒ居ルモ伊太利ノ「ムツソー」ハ法外ノ要求ヲ伊国公使迄提出シ居ル為メ同国公使ニ於テモ之レヲ首席公使ニ取次クノ勇氣無ク且ハ本國政府ニ請訓中ナル為メ遅レ居ルモノノ由ニ有之候尚ホ外交団立案ノ警備案ニツキテハ蘭国公使離任前本使ノ質問ニ対シ数日中ニ送付シ来ル筈ノ支那側警備案ヲ見タル上ニテ提出ノ筈ナル旨申居リタル旨ヲ語リ其後ノ成行ヲ尋ネタル処右支那側警備案ハ吳交通總長ト唐在札トノ權限ニ関スル確執ノ為メ決定スルニ至ラス從ツテ外交団ニ通知シ来ラサルモノナル旨答ヘ居リ候外交団立案ノ警備案ノ支那側ヘノ提出ハ日本トシテハ敢テ之レヲ促進スルノ必要無キ儀ニツキ單

ニ最近ノ模様ヲ聴取スルニ止メ置キ候次第ニ有之候右御參考迄及報告候也

(付記二)

大正十三年五月三日付芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛公第一七三
号信

臨城事件ノ損害賠償要求ニ関シ外交部ヨリ外交団ニ回答ノ件

公第一七三号

大正十三年五月三日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 松井 慶四郎殿

臨城事件ノ損害賠償要求ニ関シ外交部ヨリ外交団

ニ回答ノ件

本年四月七日附公第一三八号拙信所報ノ支那外交部宛外交
団申入ニ対シ今般外交部ヨリ回答アリタル趣ニテ別紙甲号
ノ通り外交団回章有之候処右支那側ノ回答ハ要スルニ各関
係国公使ヨリ被害者ノ損失ニ関スル明細表並適當ナル証拠
ノ提出ヲ要求スルト同時ニ外交部ニ於ケル査定委員會ノ組
織ヲ提議シ關係公使館ヨリ委員ノ指名アリ度キ旨記載シ居

大正十四年二月二十二日芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一七

一号

臨城事件賠償金差当リ三十四万弗支払ニ関スル件

第一七一号

往電第一三五号臨城事件賠償金ハ十八日外交部ヨリ首席公
使ヘノ通告ニ基キ關係国要求ノ内差当リa、b両項該当額
三十四万弗支払ノコトニ決定シ中国銀行ヨリ交付ヲ受クル
コトトナレル趣ナリ

リ候右ニ対シ別紙乙号ノ通り英国公使ハ本件損害賠償中(A)
項請求ノ基礎ヲナス英国人被害者申告ノ詳細ヲ提示スルニ
ハ異存ナキモ査定委員會ノ委員指名ノ儀ハ取計難キ趣旨ヲ
又伊国代理公使及仏国公使ハ右英国公使ノ意見ニ賛成ナル
旨ヲ記入シ居リ候条委細別紙各号ニ付御了知相成度此段報
告申進候也

編註 別紙省略

(付記三)